

# Oracle® Data Relationship Management Suite ユーザーズ・ガイド



リリース 11.2.x

F28786-06

2023 年 10 月

The Oracle logo, consisting of a solid red square with the word "ORACLE" in white, uppercase, sans-serif font centered within it.

ORACLE®

Oracle Data Relationship Management Suite ユーザーズ・ガイド、リリース 11.2.x

F28786-06

Copyright © 1999, 2023, Oracle and/or its affiliates.

著者: EPM Information Development Team

This software and related documentation are provided under a license agreement containing restrictions on use and disclosure and are protected by intellectual property laws. Except as expressly permitted in your license agreement or allowed by law, you may not use, copy, reproduce, translate, broadcast, modify, license, transmit, distribute, exhibit, perform, publish, or display any part, in any form, or by any means. Reverse engineering, disassembly, or decompilation of this software, unless required by law for interoperability, is prohibited.

The information contained herein is subject to change without notice and is not warranted to be error-free. If you find any errors, please report them to us in writing.

If this is software, software documentation, data (as defined in the Federal Acquisition Regulation), or related documentation that is delivered to the U.S. Government or anyone licensing it on behalf of the U.S. Government, then the following notice is applicable:

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs) and Oracle computer documentation or other Oracle data delivered to or accessed by U.S. Government end users are "commercial computer software," "commercial computer software documentation," or "limited rights data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, reproduction, duplication, release, display, disclosure, modification, preparation of derivative works, and/or adaptation of i) Oracle programs (including any operating system, integrated software, any programs embedded, installed, or activated on delivered hardware, and modifications of such programs), ii) Oracle computer documentation and/or iii) other Oracle data, is subject to the rights and limitations specified in the license contained in the applicable contract. The terms governing the U.S. Government's use of Oracle cloud services are defined by the applicable contract for such services. No other rights are granted to the U.S. Government.

This software or hardware is developed for general use in a variety of information management applications. It is not developed or intended for use in any inherently dangerous applications, including applications that may create a risk of personal injury. If you use this software or hardware in dangerous applications, then you shall be responsible to take all appropriate fail-safe, backup, redundancy, and other measures to ensure its safe use. Oracle Corporation and its affiliates disclaim any liability for any damages caused by use of this software or hardware in dangerous applications.

Oracle®, Java, MySQL and NetSuite are registered trademarks of Oracle and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners.

Intel and Intel Inside are trademarks or registered trademarks of Intel Corporation. All SPARC trademarks are used under license and are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. AMD, Epyc, and the AMD logo are trademarks or registered trademarks of Advanced Micro Devices. UNIX is a registered trademark of The Open Group.

This software or hardware and documentation may provide access to or information about content, products, and services from third parties. Oracle Corporation and its affiliates are not responsible for and expressly disclaim all warranties of any kind with respect to third-party content, products, and services unless otherwise set forth in an applicable agreement between you and Oracle. Oracle Corporation and its affiliates will not be responsible for any loss, costs, or damages incurred due to your access to or use of third-party content, products, or services, except as set forth in an applicable agreement between you and Oracle.

# 目次

## ドキュメントのアクセシビリティについて

---

## ドキュメントのフィードバック

---

### 1 改訂履歴

---

### 2 開始

---

Data Relationship Management Suite について	2-1
Data Relationship Management へのアクセス	2-2
パスワードの変更	2-2
セキュリティ	2-3
ナビゲーション・メニュー	2-3
トラブルシューティングのヒント	2-4

### 3 バージョンの管理

---

Data Relationship Management バージョン・ライフサイクル	3-1
バージョン・タイプおよびステータス	3-2
バージョンの作成	3-3
バージョン変数の操作	3-3
バージョン変数の作成	3-3
変数へのバージョンの割当て	3-4
バージョン変数の削除	3-4
バージョンのコピー	3-4
バージョンの保存	3-5
バージョンのロードとアンロード	3-5
時点バージョンの作成	3-6
バージョン・プロパティの編集	3-7
バージョンへの検証の割当て	3-8

ドメインへのノードの割当て	3-8
バージョンへのドメインの割当て	3-9
バージョンの削除	3-10
バージョンのバックアップおよび復元	3-10

## 4 階層の管理

---

階層の作成	4-1
階層プロパティの編集	4-2
ノード・タイプの有効化および無効化	4-4
階層のオープン	4-4
階層グループ	4-5
制御されたノード・アクセス・グループの割当て	4-6
検証の割当て	4-7
階層の削除	4-8

## 5 ノードの操作

---

ノードについて	5-1
ノードの命名	5-2
ドメインの使用	5-2
ノードの追加および挿入	5-3
ID 関数	5-5
ノードのモデリング	5-6
ノード・プロパティのコピー	5-7
ノードの移動および順序付け	5-8
緩やかな移動オプション	5-8
ノードのソート	5-8
カスタム・ソート順	5-9
ノード削除方法	5-9
ノードのマージ	5-11
ノードの削除	5-11
ノードの除去	5-11
ノードの無効化	5-12
ノードの非アクティブ化	5-12
ノードの再アクティブ化	5-13
検証の割当て	5-13
孤立ノード	5-14
ツリー・ビューでのノードのナビゲート	5-15

関係の表示	5-15
ツリー・ビューでのオプションの設定	5-16
ノードの検索	5-16
ノード・セキュリティ	5-18
共有ノードの使用	5-19
共有ノード・プロパティ	5-19
共有ノードの有効化	5-20
共有ノードの追加および挿入	5-21
共有ノードの除去および削除	5-22
共有ノードの名前変更	5-22
プライマリ・ノードへの共有ノードの変換	5-22
共有ノードの表示	5-23
共有ノードおよびドメイン	5-23

## 6 プロパティの管理

---

プロパティ・カテゴリ	6-1
システム・プロパティ	6-2
統計プロパティ	6-3
プロパティ値の範囲および元	6-4
プロパティ・ステータス	6-5
プロパティ値の編集	6-5
プロパティのフィルタ	6-6

## 7 データの検証

---

バージョンの検証	7-1
階層の検証	7-2
ノードの検証	7-2
検証結果の操作	7-3

## 8 ガバナンス・ワークフロー

---

ワークフロー・モデル	8-1
要求の操作	8-2
要求のライフサイクル	8-9
要求の作成	8-9
要求アイテムのプロパティの計算	8-11
要求アイテムの検証	8-11
要求の送信	8-12

要求の請求	8-12
要求の請求解除	8-13
要求の承認	8-13
要求のエンリッチ	8-13
要求のプッシュバック	8-14
要求のエスカレート	8-15
要求の拒否	8-15
遅滞要求の処理	8-16
ワークフロー・ステージのスキップ	8-16
要求の上位への移動	8-16
要求の分割	8-16
要求のコミット	8-16
ワークリストの移動	8-17
通知	8-19

## 9 問合せの使用

---

問合せタイプ	9-1
演算子の説明	9-1
問合せの作成	9-3
問合せ結果の操作	9-6
問合せの管理	9-8

## 10 階層の比較

---

比較タイプ	10-1
比較の作成	10-1
比較結果の操作	10-4
比較の管理	10-6

## 11 アクション・スクリプトの操作

---

アクション・スクリプト・パラメータ	11-1
フラット・ファイルからのアクション・スクリプトのロード	11-9
トランザクション・ログからのアクション・スクリプトのロード	11-11
ノード・モデルからのアクション・スクリプトのロード	11-13

## 12 インポートの操作

---

インポート・セクション	12-1
代替パラメータの使用	12-3
インポートの作成	12-4
インポートの実行、コピー、移動および削除	12-11
インポート結果の表示	12-12

## 13 バージョンのブレンド

---

ブレンドの作成	13-1
ブレンドの実行、コピー、移動および削除	13-6
ブレンドの結果の表示	13-7

## 14 エクスポートの操作

---

エクスポートの作成	14-1
代替パラメータの使用	14-3
エクスポート固有の列	14-3
階層エクスポート	14-5
カスタマイズ・タグ	14-11
階層 XML エクスポート	14-12
世代エクスポート	14-15
比較エクスポート	14-21
差分エクスポート	14-26
EPM Architect エクスポート	14-30
バージョン・エクスポート	14-32
プロパティ・リスト・エクスポート	14-37
プロパティ参照エクスポート	14-39
トランザクション・ログ・エクスポート	14-42
マージ・ログ・エクスポート	14-46
エクスポート・ブックの作成	14-50
エクスポートおよびエクスポート・ブックの実行、コピー、移動および削除	14-52

## 15 ジョブ管理

---

## 16 トランザクション、ジョブおよび要求の監査

---

トランザクション履歴の監査	16-1
トランザクション履歴のデータ・アクション	16-3
要求の監査	16-7
ジョブ履歴の表示	16-8

## 17 Data Relationship Management バッチ・クライアントの使用

---

バッチ・クライアントの保護	17-1
バッチ・クライアントの実行	17-2
コマンドラインと構成ファイル構文	17-3
コマンドライン・パラメータと構成ファイル・キー	17-7
出力および結果コード	17-23

## 18 Data Relationship Analytics の使用

---

バージョン系列	18-2
フィルタの使用	18-2
変更管理ダッシュボード	18-3
変更メトリックの表示	18-4
成長分析ダッシュボード	18-5
成長メトリックの表示	18-6
要求モニタリング・ダッシュボード	18-6
要求メトリックの表示	18-7
モデル分析ダッシュボード	18-8
モデル・メトリックの表示	18-9
ユーザー役割の割当てレポート	18-12
アクセス・グループ・メンバーシップ・レポート	18-13
オブジェクト・アクセス・グループの認可レポート	18-14
階層アクセス・グループの割当てレポート	18-14
ワークフロー・アクセス・グループの割当てレポート	18-15
ユーザー・ログイン・アクティビティ・レポート	18-16
メタデータ・オブジェクトの使用状況レポート	18-17

## A ダッシュボード・メトリック

---

変更管理ダッシュボード	A-1
成長分析ダッシュボード	A-2
要求モニタリング・ダッシュボード	A-3





# ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

## Oracle サポートへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

# ドキュメントのフィードバック

このドキュメントに対するフィードバックを送るには、Oracle Help Center トピックのページの下部にあるフィードバック・ボタンをクリックします。epmdoc\_ww@oracle.com に電子メールを送信することもできます。

# 1

## 改訂履歴

このリリースのガイドでは、次のトピックが更新されています：

トピック	変更
<a href="#">EPM Architect エクスポート</a>	ディメンションの関連付けが必要な新規ディメンションを <b>Oracle Hyperion EPM Architect</b> エクスポートを使用して作成することはできないという注記が追加されました。
<a href="#">コマンドライン・パラメータと構成ファイル・キー</a>	CultureName キーの説明に詳細が追加されました。
<a href="#">プロパティ・ステータス</a>	「重複の除去」の説明が更新されました。
<a href="#">プロパティ値の編集</a>	ステップ 3 の「重複の除去」オプションの説明が更新されました。
<a href="#">階層エクスポート</a> <a href="#">比較エクスポート</a> <a href="#">バージョン・エクスポート</a>	データベース列オプションの箇条書き項目にヒントが追加されました。
<a href="#">通知</a>	通知動作を明確化および更新するための様々な更新が行われました。
<a href="#">階層エクスポート</a> <a href="#">世代エクスポート</a> <a href="#">比較エクスポート</a> <a href="#">差分エクスポート</a> <a href="#">バージョン・エクスポート</a> <a href="#">プロパティ・リスト・エクスポート</a> <a href="#">プロパティ参照エクスポート</a> <a href="#">トランザクション・ログ・エクスポート</a> <a href="#">マージ・ログ・エクスポート</a>	「引用符で囲まれた文字列」オプションの動作が明確化されました。
<a href="#">トラブルシューティングのヒント</a>	開始の章に、トラブルシューティングのヒントという新しい項が追加されました。フィールドへの貼付けに関する回避策情報が追加されました。
<a href="#">プロパティのフィルタ</a>	ノード・タイプ・プロパティのフィルタは <b>Web</b> クライアントにのみ適用されるという注記が追加されました。
<a href="#">問合せの作成</a>	「名前」プロパティは、どのプロパティを表示するように選択しているかに関係なく、常に問合せ結果に表示されるというノートがステップ 14 に追加されました。
<a href="#">インポートの作成</a>	ステップ 6 の「引用符で囲まれた文字列を削除」の説明が更新されました。
<a href="#">インポート・セクション</a>	引用符で囲まれた文字列とフォーマットの保持の項に、引用符で囲まれた文字列の処理および削除を有効化する方法に関する情報が追加されました。

# 2

## 開始

### 次も参照:

- [Data Relationship Management Suite について](#)
- [Data Relationship Management へのアクセス](#)
- [セキュリティ](#)
- [ナビゲーション・メニュー](#)
- [トラブルシューティングのヒント](#)

## Data Relationship Management Suite について

Oracle Data Relationship Management Suite は、次のもので構成されています:

- Oracle Data Relationship Management
- Oracle Data Relationship Management Read Only Access
- Oracle Data Relationship Steward
- Oracle Data Relationship Governance
- Oracle Data Relationship Management Analytics
- Oracle Data Relationship Management for Oracle Hyperion Enterprise Planning Suite
- Oracle Data Relationship Management for Oracle Hyperion Financial Close Suite

### Data Relationship Management について

Data Relationship Management は、エンタープライズ内を全体的に移動する前にレポート構造を保持、分析および検証するためのハブとして機能します。

Data Relationship Management には、次の機能があります。

- 複数のシステムにわたってビジネス・エンティティ、階層、属性およびマッピングを管理します。
- データ関係を検証し、ビジネス・ルールを使用して属性値を計算します。
- サブスクライブ・システムおよび階層全体にわたって参照整合性を強制します。
- ユーザーが代替ビューを作成および管理できるようにします。
- 異なるソースの個別データ・セットをマージし、これらをマスター・セットに結合します。
- 比較レポートおよび分析の履歴バージョンを保持します。
- フル機能の監査ログを使用して階層および属性の変更をすべて追跡します。
- サブスクライブ・システムを更新するための主な入り口として機能するとともに、調整および分析の事後処理用として使用できます。

 **注意:**

エクスポートや比較などのメタデータ・オブジェクトに名前を付ける場合、名前にカンマを使用しないでください。

## Data Relationship Management へのアクセス

Oracle Data Relationship Management クライアントを起動するには:

1. 「**スタート**」、「**プログラム**」、「**Oracle EPM System**」、「**Data Relationship Management**」、「**Web Client**」の順に選択します。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。  
ユーザー名とパスワードは大文字と小文字が区別されます。
3. アプリケーションを選択し、「**ログオン**」をクリックします。

## パスワードの変更

パスワードを変更するには:

1. Oracle Data Relationship Management のホーム・ページから、「**プリファレンス**」を選択します。
2. 「**パスワードの変更**」をクリックします。
3. 現在のパスワードを入力します。
4. 新規パスワードを入力します。

 **ノート:**

ユーザーがネイティブに認証されており、PasswordPolicyEnabled システム・プリファレンスが **True** に設定されている場合、パスワードには次のうち 3 つの要素が含まれる必要があります。

- 大文字
- 小文字
- 数字
- 特殊文字

 **ノート:**

それ以外の場合は、ユーザーが Oracle Hyperion Shared Services を介して認証されるときに外部ディレクトリによって認証される場合を除き、パスワードは制限されません。

5. 新規パスワードを再入力します。
6. 「OK」をクリックします。

## セキュリティ

ユーザー・アクセスは次によって決定されます。

- ユーザー役割の割当て—詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*を参照してください。
- バージョン・ステータス
  - 作業バージョン--セキュリティ 権限に応じてすべてのユーザーがアクセスできます
  - 送信バージョン--バージョン所有者またはデータ・マネージャが編集できます
  - ファイナライズ済バージョン--すべてのユーザー 役割に対して読取り専用です
  - 期限切れバージョン--バージョン所有者またはデータ・マネージャ 役割に対して読取り専用です。
- ノード・アクセス・グループ割当て: ノード・アクセス・グループを使用して、階層およびノードに対するユーザー・アクセスを制御します。*Oracle Data Relationship Management* 内の特定のノードに対する権限を持つ特定のグループにユーザーを割り当てることができます。たとえば、勘定体系では、ユーザーのグループが資産構造のみを保持する必要がある場合があります。ユーザーが階層内の任意のノードに対するアクセス権を持たない場合、階層は表示されません。ユーザーがバージョン内の任意の階層に対するアクセス権を持たない場合、バージョンは表示されません。
- プロパティ・カテゴリ割当て: バージョン、階層およびノードの特定のプロパティ・カテゴリにアクセスを制限できます。ほとんどの場合、プロパティ・カテゴリはシステム基準に基づいています。

## ナビゲーション・メニュー

*Oracle Data Relationship Management* の機能およびコンテンツは、一連の Web ページに編成されており、ホーム・ページの一元的なナビゲーション・メニューからアクセスできます。ユーザーに割り当てられた役割に基づいて、制限されたメニュー項目のセットを選択できます。次に、ホーム・ページのナビゲーション・メニューからアクセスできる Web ページの各グループの説明を示します。

- **ワークリスト**—「ワークリスト」ページは、データに対して提案された変更を処理するためのガバナンス・ワークフローを使用する要求の作成、表示および検索に使用します。要求が作成されるか開かれると、その要求は個別のインスタンス・タブに表示されます。各要求のインスタンス・タブでは、要求レベル・アクションが実行されます。
- **参照**—「参照」ページは、バージョン、階層、ノード、プロパティの参照、検索および編集に使用します。バッチ検証が実行され、その結果は「参照」ページに戻されます。アクセス権の作成、削除、割当てなど、バージョンや階層の管理もこれらのページで処理されます。バージョンの階層を参照する際、各階層は個別のインスタンス・タブに表示されます。各階層のインスタンス・タブでは、階層ノード・レベル・アクションが実行されます。
- **問合せ**--「問合せ」ページは、プロパティ 問合せの管理と実行、および問合せプロセスの結果の処理に使用します。各問合せの詳細および結果は、個別のインスタンス・タブに表示されます。各問合せの結果は編集できるため、「参照」ページに移動せずに、階層ノードおよびプロパティを変更できます。

- **比較**—「比較」ページは、比較の管理と実行、および比較プロセスの結果の処理に使用します。各比較の詳細および結果は、個別のインスタンス・タブに表示されます。各比較の結果は編集できるため、「参照」ページに移動せずに、階層ノードおよびプロパティを変更できます。
- **スクリプト**—「スクリプト」ページは、アクション・スクリプトのロードと実行、および処理されたスクリプトの結果の表示に使用します。一度に開くことができるアクション・スクリプト(およびその結果)は1つのみです。別のソースからロードされたアクション・スクリプトは、「スクリプト」ページから直接編集できます。
- **インポート**—「インポート」ページは、インポートの管理と実行、およびインポート・プロセスの結果の表示に使用します。各インポートの詳細および結果は、個別のインスタンス・タブに表示されます。
- **ブレンド**—「ブレンド」ページは、ブレンドの管理と実行、およびブレンド・プロセスの結果の表示に使用します。各ブレンドの詳細および結果は、個別のインスタンス・タブに表示されます。
- **エクスポート**—「エクスポート」ページは、エクスポートとブックの管理、エクスポート・プロセスの実行、およびエクスポート・プロセスの結果の表示に使用します。各エクスポートまたはブックの詳細および結果は、個別のインスタンス・タブに表示されます。
- **監査**—「監査」ページは、トランザクション、ジョブ、外部要求の履歴の問合せおよび表示に使用します。一度に選択および表示できる履歴のタイプは1つのみです。
- **管理**—「管理」ページは、Data Relationship Management アプリケーションのメタデータ、ワークフローおよびセキュリティの管理に使用します。各メタデータ、ワークフローまたはセキュリティ・オブジェクトの詳細は、個別のインスタンス・タブに表示されます。

## トラブルシューティングのヒント

### 入力フィールドへの貼付け

場合によっては、右クリックしてから「貼付け」を選択してクリップボードからコンテンツを貼り付けることができません。この問題を回避するには、[Ctrl]を押しながら[V]を押すか、「編集」をクリックしてから「貼付け」を選択して、クリップボードからコンテンツを貼り付けます。



# 3

## バージョンの管理

Oracle Data Relationship Management では、関連するデータ・セットはバージョンに編成されます。バージョンは、一定期間またはビジネス・シナリオを表すことができる独立した単一のデータ・セットです。各バージョン内のデータは、階層、ノードおよびプロパティに分類されます。すべてのデータ関連操作ではバージョンを選択する必要があります。

通常、次の目的で様々なバージョンが使用されます。

- 以前の期間の階層、ノードおよびプロパティの履歴コピーを管理します。
- 他のユーザーまたはプロセスに影響を与えずに新規データまたは既存のデータに対するモデル変更を作成します。
- 比較、合理化およびブレンドを目的として様々なソースからデータをロードします。

## Data Relationship Management バージョン・ライフサイクル

ほとんどの組織は、業務カレンダーまたはレポート・カレンダーと一致する循環基準で Oracle Data Relationship Management を使用します。各カレンダー期間内では、Data Relationship Management は予測可能なパターンに従って使用されます。

1. Data Relationship Management の新規の「処理中」バージョンが以前の期間の「ファイナライズ済」バージョンのコピーとして作成されます。新規バージョンには、複数の階層（勘定体系、組織構造および製品構造用など）が含まれる場合があります。
2. 「処理中」バージョンに対する変更が行われます。ユーザーが階層データを入力または変更する際に検証が自動的に実行されます。
3. 必要に応じて、アクション・スクリプトを使用して階層データのバルク変更が実行されます。
4. レポート期間の最終期限の間際に、バージョン・ステータスが「送信済」に変更され、これ以上の変更は許可されなくなります。データの整合性を確保するために検証が実行されます。比較を使用して、現在のバージョンと以前の「ファイナライズ済」バージョン間の差異を識別できます。
5. データの整合性が確保されると、バージョン・ステータスが「ファイナライズ済」に変更され、これ以上の変更は許可されなくなります。
6. 以前のレポート期間のバージョン・ステータスは「ファイナライズ済」から「期限切れ」に変更されている場合があります、バージョンは将来的に履歴分析で使用されたり監査レコードとして使用される可能性があるために格納されます。
7. 階層データを参加システムに送信するために「ファイナライズ済」バージョンからのエクスポートが実行されます。すべてのエクスポートが完了し、宛先システムにロードされた後、期末のレポート・プロセスの基準となる一貫した階層データがすべての参加システムに行き渡ります。

Data Relationship Management によって既存の組織ワークフロー制約を適用できます。

- ビジネス・ルールにより、企業の財務部が新規コスト・センターをすべて承認する必要がある場合があります。この場合、承認を示すプロパティを追加し、プロパティが承認済に変更されるまではノードを他のシステムにエクスポートできないようにすることができます。企業の財務部には、インジケータ・プロパティのみを更新するアクセス権を付与できます。プロパティ問合せを定義してインジケータ・ノードを識別することもできます。
- ビジネス・プロセスにより、すべての階層の更新を、このような更新の実装を担当する専用グループにリダイレクトする必要がある場合があります。レビューと承認の後、アクション・スクリプトを介して **Data Relationship Management** へバルク・ロードするために変更をフラット・ファイルに入力できます。この自動方式により、潜在的な入力エラーを大幅に軽減できます。
- 複数のユーザー入力の調整や変更のコミット前の承認が含まれるより複雑なビジネス・プロセスは、変更要求を使用して処理できます。

不定期に実行されるその他のタスク:

- 参加システムの範囲内における拡張をサポートするための新規階層を確立できます。階層を外部ソースからインポートしたり、**Data Relationship Management** 内で階層を直接作成できます。
- 変化するビジネス上のニーズに対応するために階層の再構築が必要な場合があります。個別バージョンを使用して、サブスクリプション・システムへのエクスポート用として使用される他の製品バージョンからこれらの変更を分離できます。
- ブレンダ機能を使用すると、様々なバージョンで新しくインポートまたは再構築されたデータを他の既存の本番データとともに同じバージョンに結合できます。

## バージョン・タイプおよびステータス

バージョン情報は、ナビゲーション・バーの参照タスクから入手できます。各バージョンには、次の特性があります。

- バージョン名
- バージョンの説明
- タイプ
  - 標準--編集が可能なバージョンで、そのステータスも変更できます。
  - ベースライン--標準バージョンが保存された際のそのコピー。このバージョン・タイプのステータスは「期限切れ」です。
  - 時点--期間またはトランザクション ID に基づく標準バージョンの履歴ビュー。
- ステータス
  - 処理中--このステータスのバージョンはユーザーが編集できます。
  - 送信済--このステータスのバージョンを編集できるのは、バージョンの所有者であるユーザーか、データ・マネージャのユーザー役割を持つユーザーのみです。
  - ファイナライズ済--このステータスのバージョンはだれも編集できません。
  - 期限切れ--このステータスのバージョンはだれも編集できません。


 ノート:

「期限切れ」バージョンを表示できるのは、データ・マネージャ・ユーザーまたはバージョン所有者のみです。

- 保存済--バージョンがデータベースに保存されているかどうかを示します。保存されていない場合、バージョンはデータベースからデタッチされ、変更はメモリー内でのみ行われてアプリケーションの停止時に失われます。
- ロード・ステータス--バージョンがメモリーにロードされており使用可能であるか、初期化されているがメモリーにロードされていないことを示します。

## バージョンの作成

新しい空のバージョンを作成するには:

1. 「参照」から、 をクリックします。
2. バージョンの名前と説明を入力して、「OK」をクリックします。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、新規バージョンがデタッチされた(保存されていない)状態で表示され、このバージョンに対するデータの追加を開始できます。

## バージョン変数の操作

バージョン変数を使用すると、時間の経過に応じて変化するバージョンを動的に参照できます。データ作成者、データ・マネージャおよびアプリケーション管理者ユーザー役割は、バージョン変数を作成することにより、時間の経過に応じて様々なバージョンを参照できます。ユーザー変数は、これらのユーザーがその個人的な用途に応じて管理します。標準変数は、データ・マネージャ・ユーザーがすべてのユーザーによるパブリック使用を目的として管理します。システム変数は、アプリケーション管理者がシステム統合を目的として管理します。

1つのバージョンを複数の変数に割り当てることはできますが、1つの変数に割り当てることのできるのは1つのバージョンのみです。変数にはバージョンを割り当てなくてもかまいませんが、問合せ、比較およびエクスポートなどのユーザー・メタデータ・オブジェクトとともに保存された変数の場合はお勧めしません。



Oracle Data Relationship Management のすべての領域で、バージョン変数はバージョン名と同じ方法で使用できます。バージョン変数を使用して、次を実行することもできます。

- バージョンの大規模なリスト内でバージョンを簡単に検索します。
- 問合せ、比較、インポート、ブレンダおよびエクスポートとともにバージョン変数を保存します。

## バージョン変数の作成

バージョン変数を作成する場合、ラベルを入力し、オブジェクトのアクセス権レベル(「ユーザー」、「標準」、「システム」またはカスタム・グループ)を選択する必要があります。ラベルは、すべてのバージョンおよび変数にわたって一意である必要があります。バージョン変数を作成するには、既存の変数のリストにバージョン変数を追加するか、バージョンを選択して新規変数を追加します。

バージョン変数を作成するには:

1. 「参照」から、 をクリックします。
2.  をクリックします。
3. バージョン変数の名前と説明を入力して、オブジェクトのアクセス権を選択します。
4. 「OK」をクリックします。



## 変数へのバージョンの割当て

アクセス可能な任意のバージョン変数に任意の標準バージョンを割り当てることができます。ベースライン・バージョンまたは時点バージョンを変数に割り当てることができません。1つの変数に割り当てることができるのは1つのバージョンのみです。変数にバージョンが現在割り当てられている場合、このバージョンが除去され、新規バージョンが割り当てられます。

変数にバージョンを割り当てするには:

1. 「参照」で、変数に割り当てるバージョンを右クリックし、「**変数の設定**」を選択します。
2. リストから変数を選択します。



バージョン変数割当てに対して複数の変更を実行するには:

1. 「参照」から、 をクリックします。
2. 変更する任意の割当て済バージョンで、行を選択します。「**割り当てられたバージョン**」列で、変数に割り当てる新規バージョンを選択します。
3. 「アクション」列で、 をクリックします。
4. 「閉じる」をクリックします。

## バージョン変数の削除

管理権限を持つ任意のバージョン変数を削除できます。

バージョン変数を削除するには:

1. 「参照」から、 をクリックします。
2. 削除対象の任意のバージョン変数で、削除する変数の行を選択して、「アクション」列で  をクリックします。
3. 「**変数の削除**」をクリックして削除を確認します。

## バージョンのコピー

既存のバージョンをコピーして新規バージョンを作成できます。バージョンのコピーにより、標準の処理中バージョンが作成されます。新規バージョンには、階層、ノードおよびプロパティとともにアクセス権および検証割当てがコピーされます。ベース

ライン・バージョン、時点バージョンおよびトランザクション履歴はコピーされません。

バージョンをコピーするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「コピー」の順に選択します。
3. バージョンの名前と説明を入力します。
4. **オプション:** コピーするバージョンで変更承認システム・プリファレンスが有効である場合、新規バージョンではこれをクリアできます。
5. 「OK」をクリックします。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、新規バージョンがデタッチされた(保存されていない)状態で表示されます。

## バージョンの保存

デタッチされたバージョンを保存するには:

1. 「参照」から、デタッチされたバージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「保存」の順に選択します。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、バージョンは保存済として表示されます。

## バージョンのロードとアンロード

Oracle Data Relationship Management は、アプリケーション・サーバー上のメモリーにロードされたバージョンのデータを使用します。バージョンは次のようにロードされます:

- バージョンの作成時
- ユーザーの要求によってアプリケーション・リポジトリから明示的に
- 保存済バージョンのデータが要求されたときに暗黙的に
- データのインポート・プロセスの開始時
- バックアップ・ファイルからのバージョン復元プロセス中

ロードされたバージョンはサーバー・リソース(メモリー)を大量に使用する場合があります。ロードされた各バージョンによって、Data Relationship Management で使用されるアプリケーション・サーバー上のメモリー量が増加します。バージョンが使用されなくなった場合、バージョンをアンロードして他のプロセスがそれらのリソースを使用できるようにすることをお勧めします。

保存済バージョンをリポジトリから明示的にロードするには:

1. 「参照」から保存済バージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「ロード」の順に選択します。

バージョンのロード後、バージョンのロード・ステータスが「初期化済」から「保存済」に変わります。

 ノート:

バージョンをアンロードすると、バージョンはメモリーからクリアされ、データベースに保存していない場合は削除されます。

保存したバージョンをアンロードするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「アンロード」の順に選択します。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、「ロード・ステータス」が「初期化済」として表示されます。

## 時点バージョンの作成

時点バージョンは、特定の時点における標準バージョンのスナップショットです。このタイプのバージョンを作成するには、ベースライン・バージョンを使用して、指定した時点までのトランザクション・ログの変更を適用します。時点バージョンを作成できるのは、バージョンの所有者であるユーザーか、データ・マネージャのユーザー役割を持つユーザーのみです。

次を使用して時点バージョンを指定できます。

- 日時
- 現在の日付からの日付オフセット
- 特定のトランザクション ID

タイプ「トランザクション日時」または「トランザクション日付のオフセット(日数)」を使用して時点バージョンを作成する場合、バージョン名には時点バージョンを作成したクライアント・ブラウザの日時とタイムゾーンが含まれます。

例: 部門 - 時点: 2014-08-13 10:55:03 (山岳部標準時)。

時点バージョンの元を容易に識別できるように、バージョン名の日時とタイムゾーンは静的です。日時とタイムゾーンは UTC 値ではなく、異なるクライアント・タイムゾーンに対して再計算されません。

タイプ「トランザクション ID」を使用して時点バージョンを作成する場合、バージョン名には指定されたトランザクション ID が含まれます。

例: 部門 - 時点:1000

時点バージョンを作成するには:

1. 「参照」から標準バージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「時点バージョンの作成」の順に選択します。
3. 「時点タイプ」として「トランザクション日時」、「トランザクション日付のオフセット(日数)」または「トランザクション ID」を選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 「トランザクション日時」の場合、スナップショットの日時を入力し、「OK」をクリックします。

- 「**トランザクション日付のオフセット(日数)**」の場合、現在の日付からのオフセット日数と時刻を入力し、「**OK**」をクリックします。
- 「**トランザクション ID**」の場合、トランザクション ID を入力し、「**OK**」をクリックします。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、時点バージョンが標準バージョンの子として表示されます。

## バージョン・プロパティの編集

バージョン・プロパティはバージョン・レベルで定義され、すべての階層のすべてのノードで同じです。定義上、バージョン・プロパティは常にグローバル・プロパティです。


表 3-1 バージョン・プロパティと説明

バージョン・プロパティ	定義
バージョン ID	バージョンの一意の内部識別子。
バージョン名	バージョンの名前。
バージョンの説明	バージョンの説明。
バージョン・ステータス	バージョンのステータス: 「処理中」、「送信済」、「ファイナライズ済」、「期限切れ」。
バージョン所有者	バージョンを作成したユーザーのユーザー名
完全コピー・フラグ	コピー済バージョンがソース・バージョンの正確なコピーであるかどうかを示すブール値
コピー時間	バージョンがコピーされた日時
レガシー ID	コピー元のバージョンの内部識別子
レガシー名	コピー元のバージョンの名前
系列バージョン	系列の構築元のバージョンの名前
使用中のドメイン	バージョンのノードがメンバーになる可能性のあるドメインのリスト

バージョン・プロパティを編集するには:

1. 「**参照**」からバージョンを選択します。
2. 「**バージョン**」、「**プロパティ**」の順に選択します。  
スライダの「**プロパティ**」タブにバージョン・プロパティが表示されます。
3. 「**カテゴリ**」リストからプロパティ・カテゴリを選択します。
4. 編集して変更を行うプロパティ行をクリックします。

### ノート:

簡単なデータ型の場合、エディタ内でプロパティ値を編集できます。複雑なデータ型の場合、をクリックし、プロパティ値用の詳細エディタにアクセスします。

5. 必要に応じて、ステップ 2 および 3 を繰り返し、バージョン・プロパティを編集します。
6. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

## バージョンへの検証の割当て

バージョンへの検証を割り当てるには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「検証の割当て」の順に選択します。  
スライダの「プロパティ」タブに検証が表示されます。
3. バージョンに割り当てる検証行をクリックします。
4. 「値」リストから、検証のタイプを選択します。
  - **リアルタイム**--検証は、階層の変更の実行時またはプロパティの変更の保存時に自動的に実行されます。このタイプの検証では、変更が有効でない場合はこれらの変更は保存できないようになります。リアルタイム検証を実行できるのはノード・レベルでのみです。
  - **バッチ**--検証は、バージョン・レベル、階層レベルまたはノード・レベルのユーザーによって明示的に実行されます。検証結果は、ノードおよび各ノードの失敗メッセージのリストとして返されます。
  - **両方**--リアルタイムとバッチで検証を実行します。

### ノート:

検証の構成方法によっては、使用可能なのは一部のタイプのみである場合があります。

### ノート:

検証割当てを除去するには、値を「なし」に変更するか、プロパティ・メニューから「値を除去」を選択します。

5. 必要に応じて、ステップ 2 および 3 を繰り返し、検証をバージョンに割り当てます。
6. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

## ドメインへのノードの割当て

バージョン・レベルでノードをドメインに割り当てることができます。


ドメインへのノードの割当てするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」から「ドメイン・メンバーシップ」を選択します。



3. 次のオプションを選択できます:

- 「**デフォルト・ドメイン**」のみ--指定したドメインに修飾ノードが割り当てられます。
- 「**プロパティのオーバーライド**」のみ--オーバーライド・プロパティに指定したドメインに修飾ノードが割り当てられます。

 **ノート:**

オーバーライド・プロパティは、ドメイン名の修飾およびドメイン割当てに使用されるドメイン名値を持つ指定グローバル・プロパティです。

- 「**デフォルト・ドメイン**」および「**プロパティのオーバーライド**」--両方のオプションを指定する場合、ノードのオーバーライド・プロパティ値が空である場合のみデフォルト・ドメインが使用されます。オーバーライド・プロパティ値が無効である場合、デフォルト・ドメインは使用されず、エラーが発生します。
  - **包含フィルタ**--任意の名前修飾オプションとともに使用します; 「**プロパティのオーバーライド**」または「**デフォルト・ドメイン**」で指定したドメインには、フィルタ結果内の修飾ノードのみが割り当てられます
4. 「**OK**」をクリックします。



 **ノート:**

バージョンに割り当てられたドメインのメンバーにノードがなった後は、バージョンからすべてのドメイン・ノードが削除されるかドメイン自体が削除されないかぎり、バージョンからドメインを除去することはできません。

## バージョンへのドメインの割当て

1つのバージョンに複数のドメインを割り当てることができます。

ドメインをバージョンに割り当てるには:

1. 「**参照**」からバージョンを選択します。
2.  をクリックします。
3. 「**カテゴリ**」ドロップダウン・リストから「**システム**」を選択し、「**使用中のドメイン**」プロパティを選択します。
4. 「**値**」列で をクリックします。
5. 「**使用可能**」から、バージョンに割り当てるドメインを選択し、これらを「**選択済**」リストに移動します。

 **ノート:**

「**選択済**」リストの上下矢印を使用して、ドメインの表示順序を決定できます。

6. 「OK」をクリックします。

## バージョンの削除

保存済およびデタッチされたバージョンが不要になった場合、Oracle Data Relationship Management アプリケーションから削除できます。デタッチされたバージョンを削除すると、アプリケーション・サーバー上のメモリーからバージョンがクリアされます。保存済バージョンの場合、削除プロセスは2段階で処理されます:

1. バージョンはアプリケーション・サーバー上のメモリーからクリアされます。
2. 削除したバージョンのデータベース・レコードはスケジュール済タスクとしてリポジトリから削除されます。

削除できるのは、標準バージョンと時点バージョンのみです。標準バージョンを削除すると、すべてのベースライン・バージョンおよび時点バージョンが、これらのバージョンのトランザクション履歴および要求と同じように削除されます。

バージョンを削除するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」、「削除」を選択します。
3. 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、バージョンは表示されなくなります。

## バージョンのバックアップおよび復元

Oracle Data Relationship Management アプリケーション内に格納されたデータのバージョンは、バックアップおよび復元手順を使用してファイル・システムに一時的にアーカイブしたり別のアプリケーションに移行できます。管理者によって定義された外部接続に書き込まれるバックアップ・ファイルには1つ以上のバージョンを選択して含めることができます。バックアップ・ファイルは後で同じアプリケーションまたは別のアプリケーションに復元できます。復元プロセスでは、ファイルに格納されているプロパティと、ターゲット・アプリケーションでのプロパティのロード先のプロパティ定義の間に非互換性があるかどうかを Data Relationship Management によって識別されます。「ファイル警告から復元」トランザクションでは、復元プロセス中に発生する可能性のあるプロパティの非互換性がログに記録されます。

### ▲ 注意:

バージョン・バックアップ・ファイルは、同じリリース・レベルの Data Relationship Management アプリケーションにのみ復元されます。たとえば、11.1.2.4.x アプリケーションのバージョン・バックアップ・ファイル出力は、11.1.2.4.x アプリケーションでのみ復元できます。アプリケーション・データの永続的なアーカイブには、Data Relationship Management リポジトリのデータベース・バックアップを使用する必要があります。

 **ノート:**

バイナリ・バックアップ・ファイルを作成後に変更することはできません。

バージョンをファイルにバックアップするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」から「ファイルにバックアップ」を選択します。
3. 「接続」から接続を選択し、保存したバージョン・ファイルのファイル名を入力します。
4. 選択したバージョンは「選択済」リストにすでに含まれています。保存したバージョン・ファイルにバージョンを追加するには、バージョンを「使用可能」から「選択済」に移動します。
5. 「OK」をクリックします。

ファイルからバージョンの復元するには:

1. アプリケーションにログインします。
2. 「参照」から「バージョン」、「ファイルから復元」の順に選択します。
3. 「接続」から接続を選択します。
4. ファイルの名前を入力して、「開く」をクリックします。
5. アプリケーションにロードする1つ以上のバージョンを選択します。
6. 「OK」をクリックします。

# 4

## 階層の管理


Oracle Data Relationship Management バージョンには、1 つ以上の階層を含めることができます。階層は、ビジネス・ビュー、レポート構造、または関連アイテムのコレクションを表すことができます。階層では、データをノード、関係およびプロパティにグループ化および編成します。

各階層には最上位ノードが割り当てられ、バージョン内の他のノードの間に親子関係を定義することによってこれらを階層に追加できます。階層の最上位ノードの子孫であるすべてのノードは階層内に含まれます。1 つのノードが複数の階層内に存在可能であり、階層間で同期をとるためにすべての階層で常に同じ子孫を持ちます。各階層では 1 つのノードが同じ親または異なる親を持つことができます。

階層は、ユーザーが Data Relationship Management を操作する際の主要インタフェースを提供します。階層の例としては、貸借対照表、事業部門、地理、法律および管理要約などがあります。

## 階層の作成

階層を作成するには:

1. 「参照」 からバージョンを選択します。
2. 「階層」 タブで、 をクリックします。
3. 名前と説明を入力します。
4. オプション: 階層グループを選択します。

### ノート:

階層グループを使用すると、関連階層をまとめることにより、簡単に参照および選択できるようになります。

5. 次のいずれかのオプションを選択して新規階層の最上位ノードを選択します。
  - **新規ノード**--新規ノードの名前を入力します。
  - **既存ノード**--ノードが存在する階層を選択し、ノードを選択して「OK」をクリックします。
6. 最上位ノードの説明を入力します。
7. 「OK」 をクリックします。

階層ツリーがリフレッシュされると、新規階層が表示されます。

## 階層プロパティの編集

階層プロパティは階層レベルで定義され、階層のすべてノードで同じです。定義上、階層プロパティは常にローカル・プロパティです。

表 4-1 階層プロパティ


階層プロパティ	定義
デフォルト表示プロパティ	階層内のノードを表示するためのデフォルト
デフォルトの貼付けプロパティ	設定すると、「プロパティの貼付け」ダイアログ・ボックスに「デフォルトのプロパティ・リストを使用」オプションが表示されます。このオプションを選択する場合、ここで指定したプロパティのみが貼り付けられます。設定しない場合、オプションは表示されません。
デフォルト照合基準	現在の階層のノードを同期する基準となるデフォルト・プロパティ。
共有ノードの使用可能化	階層内で共有ノードを使用可能にするかどうかを決定します。
階層ノード・タイプ	指定したノードが特定のノード・タイプであるかどうかを決定するために使用されるノード・レベルのプロパティを指し示します。階層に対するノード・タイプの使用を可能にします。
階層 URL	外部リソースから階層に直接アクセスするための URL ハイパーリンク
階層の説明	階層の説明
階層グループ	階層が割り当てられている階層グループを表示します。
階層 ID	階層の一意の内部識別子
階層名	階層名
階層所有者	階層所有者のユーザー名
階層のソート順	バージョンまたは階層グループ内の階層の表示順序を決定する整数値
ID 長リーフ・プロパティ	ID の合計の長さ(接頭辞は除きますが、先行ゼロは含みます)を決定するために ID 機能とともに使用されます。指定したリーフ・ノードの長さを指定するために使用されるノード・レベルのプロパティを指し示します。設定されない場合、次の順次 ID の長さが先行ゼロなしで使用されます。
ID 長リム・プロパティ	ID の合計の長さ(接頭辞は除きますが、先行ゼロは含みます)を決定するために ID 機能とともに使用されます。指定したリム・ノードの長さを指定するために使用されるノード・レベルのプロパティを指し示します。設定されない場合、次の順次 ID の長さが先行ゼロなしで使用されます。

表 4-1 (続き) 階層プロパティ


階層プロパティ	定義
事前入力リーフ・プロパティ	新規リーフ・ノードの作成時にノード名を事前入力するために使用されるノード・レベルのプロパティを指し示します。
事前入力リム・プロパティ	新規リム・ノードの作成時にノード名を事前入力するために使用されるノード・レベルのプロパティを指し示します。
標準の階層のソート	階層内のデフォルトのソート順を決定するためのノード・レベルのプロパティを指し示します。
最上位ノード	階層の最上位ノードの名前
最上位ノード ID	最上位ノードのノード ID
ユーザー表示プロパティ	現在のユーザーの階層ノードの表示方法を決定します。 <b>ノート:</b> 匿名プロファイル・ユーザーの場合、このプロパティは現在のセッションにのみ使用されます。
ユーザーの階層のソート	現在のユーザーの階層内のソート順を決定するためのノード・レベルのプロパティを指し示します。 <b>ノート:</b> 匿名プロファイル・ユーザーの場合、このプロパティは現在のセッションにのみ使用されます。
ユーザー照合基準	現在のユーザーに対して選択した階層のノードを同期する基準となるプロパティ <b>ノート:</b> 匿名プロファイル・ユーザーの場合、このプロパティは現在のセッションにのみ使用されます。
ユーザーの貼付けプロパティ	設定すると、「プロパティの貼付け」ダイアログ・ボックスに「デフォルトのプロパティ・リストを使用」オプションが表示されます。このオプションを選択する場合、階層レベルのプロパティで指定したプロパティのみが貼り付けられます。設定しない場合、オプションは表示されません。 <b>ヒント:</b> このプロパティと「デフォルトの貼付けプロパティ」の両方が設定されている場合、デフォルトのプロパティよりユーザー・プロパティが優先されます。 <b>ノート:</b> 匿名プロファイル・ユーザーの場合、このプロパティは現在のセッションにのみ使用されます。

階層プロパティを編集するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. **オプション:** 「グループ化基準」ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。

3. 階層を選択し、 をクリックします。
4. 「カテゴリ」リストからプロパティ・カテゴリを選択します。
5. 編集して変更を行うプロパティ行をクリックします。

#### ノート:

簡単なデータ型の場合、エディタ内でプロパティ値を編集します。複雑なデータ型の場合、 をクリックし、プロパティ値用の詳細エディタにアクセスします。

6. 必要に応じて、ステップ 3 および 4 を繰り返し、階層プロパティを編集します。
7. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

## ノード・タイプの有効化および無効化

ノード・タイプは、`HierarchyNodeType` プロパティを使用してバージョンの任意の階層に対して有効化および無効化できます。このプロパティは、値がノード・タイプの名前と一致するバージョン・レベル、階層レベル、またはノード・レベルのプロパティを指し示す必要があります。

詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*のノード・タイプの管理を参照してください。

階層のノード・タイプを有効化するには:

1. バージョンおよび階層を選択します。
2. 「階層」から「プロパティ」を選択します。
3. プロパティ・グリッドで、**HierarchyNodeType** プロパティを選択します。
4. ノード・タイプの名前を返すノード・レベルのプロパティを選択します。
5. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

階層のノード・タイプを無効化するには:

1. バージョンおよび階層を選択します。
2. 「階層」から「プロパティ」を選択します。
3. プロパティ・グリッドで、**HierarchyNodeType** プロパティを選択します。
4. 「プロパティ」から「値を除去」を選択します。
5. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

## 階層のオープン

階層を開くには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。

2. **オプション: 「グループ化基準」** ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. 階層または階層グループを右クリックし、「開く」を選択します。

**▲ 注意:**

階層グループを開くと、そのグループ内のすべての階層が開きます。

**例 4-1 すべての列サイズの自動調整**

階層ウィンドウが最初に開かれたときに、指定した「表示基準」列は、使用可能な合計幅に対する等価なパーセンテージを使用して表示されます。階層ウィンドウで、「すべての列サイズの自動調整」ツールバー・ボタンを使用して、各列の最大長プロパティに基づいて、表示されているすべての列の幅を更新できます。サイズ変更は、現在のページに表示されているノードにのみ基づきます。列幅に対する変更は、手動で行うか「すべての列サイズの自動調整」ツールバー・ボタンを使用して行うかにかかわらず、ウィンドウが開いている限り永続化されます。

## 階層グループ

階層グループを使用すると、関連階層をまとめることにより、簡単に参照および選択できるようになります。階層は、1つ以上の階層グループ・プロパティを使用してグループ化できます。1つの階層を関連付けることができるのは、階層グループ・プロパティごとに1つのグループのみです。コア階層グループ・プロパティは、デフォルトのグループ化用として使用できます。別のグループ化要件を処理するために別の階層グループ・プロパティを追加することもできます。階層を参照する場合、「グループ化基準」ドロップダウン・リストを使用して、グループ化に使用する別の階層グループ・プロパティを選択します。

**階層グループの作成**

階層グループを作成するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「階層」、「新規」、「階層グループ」の順に選択します。
3. 名前と説明を入力します。
4. 階層グループに含める階層を「使用可能」から選択します。
5. 「OK」をクリックします。

階層ツリーがリフレッシュされると、新規階層グループが表示されます。

**✎ ノート:**

新規階層グループに1つも階層を追加しなかった場合、グループはツリーに表示されません。階層はいつでも既存のグループに割り当てることができます。

**階層グループへの階層の割当て**

階層を階層グループに割り当てるには:



1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. オプション: 「グループ化基準」ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. 階層を右クリックして、「グループへの割当て」を選択します。
4. 階層グループに含める階層を「使用可能」から選択します。
5. 「OK」をクリックします。

階層ツリーがリフレッシュされると、割り当てられた階層グループ内に階層が表示されます。

#### ノート:

階層グループ・プロパティの値はプロパティ・グリッドで設定できます。また、階層を別のグループにドラッグ・アンド・ドロップして再割当てすることができます。

### 制御されたプロパティの割当て

プロパティ値の継承元を制御する階層にグローバル継承プロパティを割り当てる必要があります。

制御されたプロパティを階層への割当てするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. オプション: 「グループ化基準」ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. グローバル継承プロパティを制御する階層を選択します。
4. 階層を右クリックし、「制御の割当て」、「プロパティ」の順に選択します。  
グローバル継承プロパティのリストが表示されます。
5. プロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動し、「OK」をクリックします。

#### ノート:

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。

## 制御されたノード・アクセス・グループの割当て

ノード・アクセス・グループを使用して、階層およびノードに対するユーザー・アクセスを制御します。ノード・アクセス・グループでは、継承を使用してノードとその子孫にセキュリティを割り当てます。アクセスの継承元を制御する階層にグローバル・ノード・アクセス・グループを割り当てる必要があります。

制御されたノード・アクセス・グループを階層に割り当てるには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. **オプション:** 「グループ化基準」ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. 階層を右クリックし、「制御の割当て」、「ノード・アクセス・グループ」の順に選択します。  
グローバル継承アクセス・グループのリストが表示されます。
4. グループを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動し、「OK」をクリックします。

 **ノート:**

「カテゴリ」リストを使用してユーザー・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。

## 検証の割当て

検証は、階層ルールが遵守されていることを確認するためのテストです。これにより、ビジネス・ルールを適用しやすくなります。

検証を階層に割り当てるには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. **オプション:** 「グループ化基準」ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. 階層を右クリックして、「検証の割当て」を選択します。  
スライダの「プロパティ」タブに階層に使用可能な検証が表示されます。
4. 階層に割り当てる検証行をクリックします。
5. 「値」リストから、検証のタイプを選択します。
  - **リアルタイム**--検証は、階層の変更の実行時またはプロパティの変更の保存時に自動的に実行されます。このタイプの検証では、変更が有効でない場合はこれらの変更は保存できないようになります。リアルタイム検証を実行できるのはノード・レベルのみです。
  - **バッチ**--検証は、バージョン・レベル、階層レベルまたはノード・レベルのユーザーによって明示的に実行されます。検証結果は、ノードおよび各ノードの失敗メッセージのリストとして返されます。
  - **両方**--リアルタイムとバッチで検証を実行します。

 **ノート:**

検証割当てを除去するには、値を「なし」に変更するか、「プロパティ」メニューから「値を除去」を選択します。

6. 必要に応じて、ステップ4および5を繰り返し、検証を階層に割り当てます。

7. プロパティ・グリッドで「保存」をクリックします。

## 階層の削除

階層を削除しても、その階層内のノードは削除されません。バージョン内の他の階層にこれらのノードが存在しない場合、これらは孤立します。孤立のリストを表示するには、「孤立」タブをクリックします。

階層を削除するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. オプション: 「グループ化基準」 ドロップダウン・リストからオプションを選択して階層のサブセットを表示します。
3. 階層を右クリックして、「削除」を選択します。
4. 削除を確認するには、「OK」をクリックします。

バージョン・ツリーがリフレッシュされると、階層は表示されなくなります。

# 5

## ノードの操作

### 次も参照:

- [ノードについて](#)
- [ノードの追加および挿入](#)
- [ノードのモデリング](#)
- [ノード・プロパティのコピー](#)
- [ノードの移動および順序付け](#)
- [ノード削除方法](#)
- [検証の割当て](#)
- [孤立ノード](#)
- [ツリー・ビューでのノードのナビゲート](#)
- [ノードの検索](#)
- [ノード・セキュリティ](#)
- [共有ノードの使用](#)

## ノードについて

サブスクリプション・システムのトランザクション・データの記述、修飾または要約に使用されるマスター・データ・レコードまたは参照データ・レコードは、**Oracle Data Relationship Management** 内でノードとして管理されます。たとえば、組織構造を表す階層内では、ノードは部門またはコスト・センターを表す場合があります。バージョン内のノードには、グローバル・ノード・プロパティと呼ばれるプロパティを設定できます。階層内のノードには、ローカル・ノード・プロパティと呼ばれる階層固有のプロパティを設定できます。

バージョン内では、ノードは複数の階層の一部である場合があります。ノードには多数のユーザー定義プロパティを設定できます。このプロパティは、ノードに関する情報を格納し、組織の情報システム内のノードの使用を制御します。

次の用語は、階層内のノードの位置および動作を定義するために使用されます。

表 5-1 ノードの用語

用語	定義
リーフ	子を持つことができないノード
リム	子を持つことができるノード
子	別のノードの直下のノード(BがAの直下にある場合、BはAの子)
親	別のノードの直上のノード(前の例では、AはBの親)

表 5-1 (続き) ノードの用語

用語	定義
子孫	特定のノードの下のノード(子および子の子を含む)
祖先	ノードと階層の最上位の間のすべてのノード(親、親の親などを含む)
兄弟	階層内の親ノードを共有するすべてのノード
孤立	階層に割り当てられていないノード
グローバル・ノード	バージョン内のノード。
ローカル・ノード	階層内のノード。

## ノードの命名

ノードを命名する際には、次の考慮事項を確認します。

- カンマ、共有ノード区切り文字または階層区切り文字をノード名に使用しないでください。ノード名にカンマを使用すると、祖先リスト、子リストおよびクライアント作成ノード・リストなどのカンマ区切りの特定のプロパティを操作するときに問題が生じる可能性があります。
- 共有ノード区切り文字および階層区切り文字のシステム・プリファレンスに定義された文字を使用すると、予測できない動作が発生する可能性があるため、このような文字は使用しないでください。
- 問合せワイルドカード文字のアスタリスク(\*)およびアンダースコア(\_)がノード名に使用されている場合、Pos 関数を使用し、派生式を使用してノード名を検索しないかぎり、ノードを簡単に検索することはできません。

## ドメインの使用

ノードはその名前によってバージョン内で一意に識別され、同じバージョン内で2つのノードが同じ名前を共有することはできません。デフォルトでは、異なるシステム内で同じ名前を持つノードが異なるバージョン内に存在することは可能です。この状況が問題になるのは、これらのバージョン内のノードを同じバージョンに結合するときに、その目的が参照整合性のためにこれらを個別ノードとして管理することにある場合です。

ドメインを使用すると、整合性を維持し、共通タイプのノードのために複数のバージョン間でノード名と説明プロパティの一貫性を確保できます。ドメインの例としては、アカウント、エンティティ、部門、製品、従業員およびプロジェクトなどがあります。ドメインは管理者によって作成され、データ・マネージャ・ユーザー役割またはバージョン所有者によってバージョンに関連付けられます。「ドメイン・メンバーシップ」機能を使用すると、ノードを作成時に、または後で特定のバージョン内のドメインに割り当てることができます。

ドメイン・ノードは、ドメインに指定された動作に従う必要があります。ドメインのメンバーであるノードの名前を変更することはできません。ドメインを構成することにより、次が可能になります。

- 接頭辞または接尾辞の使用によるノード名の修飾

- ノードの削除の制限
- リム/リーフ指定の変更の制限

## ノードの追加および挿入

階層にノードを含める方法は2種類あります。

- 新規ノードを作成します。**ノードの命名**で、ノードの命名に関する考慮事項を確認します。
- 現在階層内にはない既存のノードを挿入

ノードを作成して階層に追加するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。

2. 階層を選択します。

3. 「階層」から「開く」を選択します。

階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。

4. 「ノード」から「新規」を選択します。

5. 追加するノードのタイプに応じて、「リーフ・ノード」または「リム・ノード」を選択します。

6. **オプション:** ドロップダウン・リストからドメインを選択します。「新規ノード」ダイアログ・ボックスのドメイン・オプションが表示されるのは、ドメインがバージョンに割り当てられている場合のみです。ドメインの選択時に重要な検討事項:

- 入力したノード名が存在しない場合、この名前にドメイン修飾子テキストを追加した状態で、選択したドメインのメンバーとして追加されます。
  - 正確なドメイン修飾子テキストを「名前」フィールドに入力すると、この修飾子テキストは2回目は追加されません。
  - 入力したノード名がドメイン内に存在するが現在のバージョン内には存在しない場合、このドメイン・ノードをバージョンに追加できます。
  - ノード名がドメイン内に存在する場合、「ドメイン・ノード名」および「非アクティブ日」フィールドに既存のドメイン・ノードの値が移入されます。
  - ノードがドメインとバージョン内に存在する場合、グローバル・プロパティのコピー元オプションを使用して、ドメイン・ノードのグローバル・プロパティを別のバージョンからコピーできます。
  - ドメインがリストから選択されておらず、入力したノード名に、バージョンに割り当てられたドメインに対する修飾テキストが含まれている場合、このノードは、同時にそのドメインに追加されるか、以前に別のバージョンのそのドメインに追加されたことがないかぎり、追加できません。
7. ノードに一意の名前を入力します。入力した名前が既存のドメイン・ノードと一致する場合、ドメイン・ノードの名前、説明および非アクティブ日が参照用として表示されます。

 **ノート:**

ノード名が繰り返されている階層ツリーの一部にノードを追加する場合、ID をクリックすると、ノード名を自動的に生成できます。ID 関数を参照してください。


8. ノードの新規説明を入力します。

 **ノート:**

説明は、ドメイン・ノードには必要ですが、非ドメイン・ノードの場合はオプションです。


9. 選択したノードの子と兄弟のどちらとしてノードを追加するかを選択します。
10. 「OK」をクリックします。

階層に既存のノードを挿入するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. 「ノード」から「挿入」を選択します。
5. ノードの場所を選択します。
  - 既存の階層
  - 孤立メンバー・リスト
6. 次のいずれかを行います:
  - ステップ5で「既存の階層」を選択した場合、次を実行します。
    - a. バージョンを選択します。
    - b. 階層を選択します。
    - c. 次のいずれかを実行して、挿入するノードを選択します。
      - 「検索」にテキストを入力し、 をクリックしてノードを検索します。

 **ノート:**

ワイルドカード文字としてアスタリスク(\*)を使用できます。

複数のノードが見つかった場合、 をクリックして検索アイテムの次のインスタンスを検索します。

- 「ノード」 ツリーを展開してノードを検索します。
- ステップ 5 で「**孤立メンバー・リスト**」を選択した場合、リストからノードを選択します。
- 7. 選択したノードの子と兄弟のどちらとしてノードを挿入するかを選択します。
- 8. 現在のバージョンではなく別のバージョンからノードを挿入する場合、次を実行します。
  - a. ノード・プロパティをコピーするために次のいずれかのオプションを選択します。
    - プロパティをコピーしない
    - グローバル・プロパティのコピー
    - ローカルおよびグローバル・プロパティのコピー
  - b. ノードの子孫をコピーに含める場合、「**子孫を含む**」を選択します。
  - c. コピーする追加ノードに同じ設定を使用する場合、「**この設定をデフォルトとして使用**」を選択します。
- 9. 「OK」をクリックします。

## ID 関数

ID 関数を使用すると、連続数値 ID およびノード接頭辞を使用してノード名を自動的に生成できます。たとえば、各ノードの名前が **Org000xxx** のようになる一連のノードを作成できます。

- **Org** はノード接頭辞で、任意の文字列を使用できます。
- **000xxx** は連続 ID で、1 から始まって 1 ずつ増分します。

ID 関数が機能するには、次のシステム・プリファレンスが有効である必要があります。

- **AllowNextIDGeneration** を **True** に設定する必要があります。
- **AllowNextIDKeyCreation** により、新規 ID キーを作成できるユーザーのレベルが決まります。

次の ID 関数を使用するには、ノード名フィールドに接頭辞を入力し、ID をクリックします。

- この接頭辞がシステム内にすでに存在する場合、以前に生成された最後の ID より 1 大きい ID が返されます。
- この接頭辞が以前に使用されていない場合、ID 値 1 が(先頭に適切な数のゼロが付く)返されます。

ID の合計長(接頭辞は除き、必要に応じて任意の数のゼロが先頭に含まれる)は、次のように決定されます:

- 階層プロパティ **IDLengthLimbProp** および **IDLengthLeafProp** を設定し、指定したノードに必要な ID 長を指定するノード・レベルのプロパティを指し示すことができます。
- **IDLengthLimbProp** および **IDLengthLeafProp** プロパティが設定されていない場合、次の連続 ID の長さが先頭のゼロなしで使用されます。




## ノードのモデリング

既存のノードをモデリングすることにより、モデリング対象のノードと同じ階層で同じプロパティを使用して新規ノードを作成できます。




ノードをモデリングしてノードを作成するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. モデリングするノードを選択します。
5. 「ショートカット」メニューで、「スクリプト」、「モデル元」の順に選択します。  
「ソース」タブに、選択したノードの情報が移入されます。
6. 「プロパティ」タブの「プロパティのコピー」で、ノードからコピーするプロパティを選択します。
  - なし--プロパティはコピーされません。
  - 上書き済--上書きされたプロパティ値のみがコピーされます。
  - 選択済--選択したプロパティのみがコピーされます。

### ノート:

「選択済」の場合、をクリックして、プロパティを選択するプロパティ・セレクタを表示します。

- すべて--すべてのプロパティがコピーされます。
7. 次を実行します:
    - ステップ4の選択内容に基づいてアクション・スクリプトに含めるグローバル・プロパティ値を表示するには、「グローバル・プロパティ」タブを選択します。
    - ステップ4の選択内容に基づいて各階層から含めるローカル・プロパティ値を表示するには、「ローカル・プロパティ」タブを選択して階層を選択します。必要に応じて、変更を行います。
  8. 「ターゲット」タブで、次を実行します。
    - 新規ノードのターゲット・バージョンを選択します。
    - 新規ノードの名前を入力します。
    - 新規ノードの説明を入力します。
  9. 「ロード」をクリックします。
  10. ロードが完了したら、スクリプト・アクションおよびパラメータ値を確認します。次が可能です:

-  をクリックし、行を変更します。
  - 「スクリプト」、「代替バージョン」の順に選択し、バージョンを変更します。置換されるバージョンと置換するバージョンを選択し、「OK」をクリックします。
  - 列ヘッダーをクリックし、アルファベット順にソートします。
  -  をクリックし、1つ以上の列をフィルタします。
  -  をクリックし、プロパティをラベル別と名前別のどちらで表示するか切り替えます。
11. 実行する各行の横にある「処理」列でチェック・ボックスを選択します。

 **ノート:**

「スクリプト」メニューで「すべて選択」を使用すると、すべてのアクションを処理できます。スクリプトからアクションのサブセットを選択すると、これらのアクションのみを処理できます。

12.  をクリックし、アクション・スクリプトを実行します。

各スクリプト・アクションの結果は「ステータス」および「結果の値」列に表示されます。スクリプトと結果は、「スクリプト」メニューの「ダウンロード」オプションを使用してファイルに保存できます。

## ノード・プロパティのコピー

ノード間でプロパティをコピーできます。これには、異なるバージョンのノード間でのプロパティのコピーおよび貼付けも含まれます。

ノード・プロパティをコピーするには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. プロパティのコピー元のノードを選択します。
5. 「ノード」から「プロパティのコピー」を選択します。
6. プロパティを貼り付けるノードを検索して選択します。

 **ノート:**

別のバージョンのノードにプロパティを貼り付ける場合、別のバージョンを開き、ノードを検索して選択します。

7. 「ノード」から「プロパティの貼付け」を選択します。

8. 「プロパティの貼付け」ダイアログ・ボックスで、コピーするプロパティのタイプを選択します。
  - 上書きされたプロパティのみ
  - すべてのプロパティ
  - 選択したプロパティ--このオプションを選択する場合、コピーするプロパティを選択します。
9. 「OK」をクリックします。

## ノードの移動および順序付け

ノードを階層内で、または別の階層に移動できます。

- 階層内のノードを移動すると、このノードは元の親から除去され、新しい親の下に配置されます。
- 別の階層へのノードの移動は、コピーのように処理されます。ノードは元の階層では変更されずに残ります。この機能は、既存のノードを挿入する場合と同じです。

ノードを移動するには:

1. 移動するノードを選択します。
2. 選択したノードを新しい場所にドラッグ・アンド・ドロップします。
3. ノードを別の最上位ノードに移動した場合、アクションを選択します。
  - **子として配置**--ノードをノードの子として挿入します。
  - **兄弟として追加するか順序変更します**--ノードを兄弟として挿入します。

## 緩やかな移動オプション

ノードを別の階層から除去することが必要な移動を簡略化するために、緩やかな移動オプションを使用できます。システム・プリファレンス `AllowRelaxedMove` が `True` に設定されている場合、緩やかな移動が可能です。システム・プリファレンスが `False` に設定されているか、存在しない場合、標準整合性制約が適用されます。

ノードを移動する場合、緩やかな移動を行うと、主要階層内の新しい親が、他の階層内でこのノードに関して競合する任意の親関係より優先されます。

## ノードのソート

Oracle Data Relationship Management では、階層内のノードは次のデフォルトのルールに応じてソートされます。

1. リム・ノードはリーフ・ノードの前にソートされます。

### ノート:

これはオプションであり、`SortLimbsFirst` システム・プリファレンスによって制御されます。

2. ノードは、名前別に昇順でソートされます。

## カスタム・ソート順

ノードは任意の明示的なカスタム・ソート順でソートすることもできます。ソート順は、プロパティ・データ型がソートである任意のプロパティによって定義できます。

ノード・レベルのソート順プロパティの値に応じて階層をソートするには、ソート順が含まれる適切なノード・レベルのプロパティを指し示すよう階層レベルのプロパティ `StandardHierSort` を設定する必要があります。

また、特定の Oracle Data Relationship Management ユーザー ID にのみ適用されるカスタム・ソート順を使用して、ユーザーが同じ階層の他のユーザーに影響を与えずに **Data Relationship Management** データの表示をカスタマイズできるようにすることもできます。これは、階層レベルのプロパティ `UserHierSort` によって制御されます。データ型がソート順であるノード・レベルのプロパティを指し示すようこのプロパティが設定されている場合、このソート順の方が `StandardHierSort` プロパティとデフォルトのソート順の両方より優先されます。

階層レベルのプロパティ `StandardHierSort` または `UserHierSort` のいずれにも値が割り当てられていない場合、デフォルトのソート・ルールが使用されます。

カスタム・ソート順プロパティの値は、次のいずれかの方法で設定できます。

- ソート順値は、データが最初に **Data Relationship Management** にインポートされる際にノード・レベルのソート順プロパティにロードできます。
- 任意のノードのソート順プロパティに対して明示的な値を定義できます。このプロパティは整数値を受け入れます。
- 階層の `StandardHierSort` または `UserHierSort` プロパティにソート順プロパティが選択されている場合、「取得/配置」オプションまたはドラッグ・アンド・ドロップを階層内のカスタム・オーダー・ノードに対して使用します。
- ノード・レベルのカスタム・ソート順は、派生ソート・プロパティを使用して計算することもできます。

## ノード削除方法

ノードを削除するための方法は、次のとおりです。

表 5-2 ノード削除方法

アクション	結果
破棄	バージョンからノードを削除し、任意の必須マージ・ロジック(有効な場合)を上書きします <b>ノート:</b> 「破棄」オプションを使用できるのは、「孤立」リストからのみです。 <b>ノート:</b> ノードが、ドメインでの削除が禁止されているドメイン・ノードである場合、ノードを削除することはできません。

表 5-2 (続き) ノード削除方法

アクション	結果
削除	すべての階層内のすべての親からノードを削除します。 <b>ノート:</b> ノードが、ドメインでの削除が禁止されているドメイン・ノードである場合、ノードを削除することはできません。
削除してマージ	すべての階層内のすべての親からノードを削除し、削除したノードのかわりに使用するノードを選択できます。 <b>ノート:</b> このオプションが使用可能なのは、UseMerge システム・プリファレンスが有効である場合のみです。 <b>ノート:</b> ノードが、ドメインでの削除が禁止されているドメイン・ノードである場合、ノードを削除することはできません。
無効化	同じ親を持つすべての階層からノードを除去し、このノードが孤立である場合はノードの削除も行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>たとえば、存在するすべての階層内でノードが同じ親を持つ場合、「無効化」によってすべての階層からこのノードが除去され、このノードは孤立であるために削除されます。</li> <li>ノードがすべての階層内で同じ親を持たない場合、「無効化」は「除去」と同じ結果になります。</li> </ul> <b>ノート:</b> ノードが、ドメインでの削除が禁止されているドメイン・ノードである場合、ノードを削除することはできません。
下をすべて無効化	選択したノードのすべての子を除去します。任意の子が孤立すると、これらも削除されます。 <b>ノート:</b> ノードが、ドメインでの削除が禁止されているドメイン・ノードである場合、ノードを削除することはできません。
除去	現在の親からノードを除去しますが、他の階層の他の親からは除去しません。ノードはバージョンからは削除されず、再挿入が可能です。
非アクティブ化	ノードをエクスポートからフィルタできるように非アクティブとしてフラグ設定します。 ドメイン・ノードがバージョン内で非アクティブである場合、ドメインの非アクティブ日の値を指定できます。デフォルトのドメインの非アクティブ日は現在の日付です。
非アクティブ化してマージ	ノードを非アクティブとしてフラグ設定し、非アクティブ・ノードのかわりに使用するノードを選択できます。 <b>ノート:</b> このオプションが使用可能なのは、UseMerge システム・プリファレンスが有効である場合のみです。

## ノードのマージ

Oracle Data Relationship Management によってサポートされるサブスクライブ・システムには、削除されたノードを参照するトランザクションがある場合があります。ノードを削除または非アクティブ化する場合、この状況に対処するために、削除されたノードまたは非アクティブ・ノードのかわりに **Data Relationship Management** で使用する他のノードを指定できます。マージ・リストを使用すると、これらのノードと外部プロセスとの関係を管理して提供することにより、マージ・ログ・エクスポート・タイプを使用してトランザクション・データを適切にマップできます。

### ノート:

マージ・オプション(「**削除してマージ**」および「**非アクティブ化してマージ**」)が使用可能なのは、**UseMerge** システム・プリファレンスが有効である場合のみです。これらのマージ・オプションは、**共有**ノードを削除または非アクティブ化する場合は使用できません。

## ノードの削除

ノードを削除するには:

1. 「**参照**」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「**階層**」から「**開く**」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. ノードを選択します。
5. 「**ノード**」から「**削除**」を選択します。

### ノート:

**UseMerge** システム・プリファレンスが有効である場合、「**削除してマージ**」を選択してから、削除したノードのかわりに使用するノードを選択できます。**ReqMerge** システム・プリファレンスが有効である場合は、マージ・ノードを指定する必要があります。

6. 「**ノードの削除**」を選択してノードの削除を確認します。  
バージョン・ツリーがリフレッシュされると、ノードは表示されなくなります。

## ノードの除去

ノードを除去すると、ノードは現在の親からのみ除去されます。ノードに他の親がある場合、これらの関係は影響を受けません。ノードに他の親がない場合、このノードは孤立ノードになります。

ノードを除去するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. ノードを選択します。
5. 「ノード」から「除去」を選択します。
6. 「ノードの除去」を選択してノードの除去を確認します。  
バージョン・ツリーがリフレッシュされると、ノードは表示されなくなります。

## ノードの無効化

ノードを無効化すると、ノードは親から除去され、孤立する場合は孤立ノードが削除されます。たとえば、ノードが存在する複数の階層の1つから無効化されると、このノードはこの階層、および同じ親を持つ他の階層からのみ除去されます。ノードが存在する唯一の階層の親から無効化される場合、このノードは無効化の結果として削除されます。

「下をすべて無効化」コマンドを使用すると、複数のノードを無効化できます。子孫を持つノードに対して「下をすべて無効化」を使用すると、分岐全体が階層から除去され、別の階層に存在しないすべてのノードがバージョンから削除されます。

ノードを無効化するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. ノードを選択します。
5. 「ノード」からアクションを選択します。
  - 無効化--選択したノードを無効化します
  - 下をすべて無効化--選択したノードの下にあるすべてのノードを無効化します

### ノート:

このオプションが使用可能なのは、リム・ノードを選択する場合のみです。

6. 「ノードの無効化」を選択します。  
バージョン・ツリーがリフレッシュされると、ノードは表示されなくなります。

## ノードの非アクティブ化

アクティブな子のないリーフ・ノードまたはリム・ノードを非アクティブ化できます。


Inactivate および InactiveChanges システム・プリファレンスは、ノードを非アクティブ化できるユーザー、および非アクティブ・ノードを変更できるユーザーを管理します。

ノードを非アクティブ化するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. ノードを選択します。
5. 「ノード」から「非アクティブ化」を選択します。

#### ノート:

UseMerge システム・プリファレンスが有効である場合、「非アクティブ化してマージ」を選択してから、非アクティブ化したノードのかわりに使用するノードを選択できます。

6. **オプション:** ノードに「ドメインの非アクティブ日」を入力し、「OK」をクリックします。  
バージョン・ツリーがリフレッシュされると、ノードはグレー表示され、「非アクティブ」ステータス・アイコン  が表示されます。

## ノードの再アクティブ化

ノードを再アクティブ化するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。  
階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。
4. 非アクティブ・ノードを選択します。
5. 「ノード」から「再アクティブ化」を選択します。  
バージョン・ツリーがリフレッシュされると、ノードは有効になり、「非アクティブ」アイコンは除去されます。

## 検証の割当て

検証をノードに割り当てるには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択します。
3. 「階層」から「開く」を選択します。



階層の最上位ノードがノード・ツリーに表示されます。

4. ノードを選択します。
5. 「ノード」から「検証の割当て」を選択します。
6. 「プロパティ」タブで、検証を選択し、値を「なし」から「バッチ」または「リアルタイム」に変更します。
7. 「保存」をクリックします。

## 孤立ノード


孤立ノードは、バージョン内に存在しているがバージョン内の階層に割り当てられていないノードとして定義されています。孤立が存在するのは、孤立を完全に除去するためのクリーンアップを保留している場合や、バージョン内の階層への再割当てを待機している場合などです。

孤立ノードは任意の階層には関連付けられていませんが、これらはバージョン内の他のノードとのグローバル関係を持つ場合があります。孤立ノードは、孤立ではない子孫を持つ場合があります。このような状況を回避するために、孤立ノードのリストは定期的に確認してください。

### 孤立ノードの表示

孤立ノードを表示するには:

1. 「孤立」タブを選択します。

孤立ノードごとに、子孫の数が表示されます。
2. ノードを選択します。
3. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 「関連」、「子孫」または「子」の順に選択し、ノードの関係を表示します。
  - 「ノード」、「プロパティ」の順に選択し、ノードのプロパティを表示します。
  -  をクリックし、名前、説明または子孫の数別に孤立ノードを検索します。
  - 「ノード」、「取得/コピー」の順に選択し、選択したノードをクリップボードにコピーします。
  - 「ダウンロード」を選択し、孤立ノードのリストをダウンロードするフォーマットを選択します。

### 孤立ノードの削除

孤立ノードを削除または破棄できます。破棄を選択すると、マージ要件とは関係なくノードは即時削除されます。孤立ノードを削除すると、ノード、およびノードとバージョン内の他のノードとの関係もすべて削除されます。

孤立ノードを削除するには:

1. 「孤立」タブを選択します。
2. 1つ以上のノードを選択します。
3. 「ノード」から「削除」または「破棄」を選択します。

 ノート:




UseMerge システム・プリファレンスが有効である場合、「**削除してマージ**」を選択してから、削除したノードのかわりに使用するノードを選択できます。

4. 「削除」または「破棄」コマンドを確認します。  
孤立リストがリフレッシュされると、ノードは表示されなくなります。

## ツリー・ビューでのノードのナビゲート

次のツールバー・ボタンを使用して、ツリー・ビュー内をナビゲートします。

表 5-3 ツールバー・ボタン

ツールバー・ボタン	説明
	前に選択したノードにナビゲートします
	選択したノードの親にナビゲートします。
	ツリーを展開して、選択したノードより下の指定したレベルのすべてのノードを表示します。

## 関係の表示

ツリー・ツールバーの「**関連**」メニューのオプションを使用して、選択されたノードの他の階層ノードとの様々なタイプの関係を表示します。選択した関係のタイプに一致するノードは、「**関係**」タブに表示されます。

- **子孫**—選択したノードの子孫を表示します。
- **子**—選択したノードの子を表示します。
- **祖先**—選択したノードの祖先を表示します。
- **兄弟**—選択したノードの兄弟を表示します。
- **リンク**—選択したノードが存在するバージョンのすべての階層を表示します。
- **検索**—開いているすべての階層タブで選択したノードを検索します。
- **一致**—開いているすべての階層タブで一致するプロパティ値を持つノードを検索します。

 ノート:

照合を実行するには、「デフォルトの照合基準」階層プロパティの値を移入する必要があります。または、「オプション」、「照合基準」、「ユーザー・プロパティ」を選択して「ユーザーの照合基準」プロパティを使用できます。

## ツリー・ビューでのオプションの設定

「オプション」メニューのアイテムを使用して、どのようにノードを表示してツリーに貼り付けるか決定します:


- **非アクティブ・ノードの非表示**—ツリー・ビューで非アクティブ・ノードを非表示にします。
- **配置形式**—次のいずれかのオプションを選択して、どのようにコピーしたノードをツリーに貼り付けるかを決定します:
  - **ターゲット・ノードの子**—コピーしたノードを選択したノードの子として貼り付けます。
  - **ターゲット・ノードの兄弟**—コピーしたノードを選択したノードの兄弟として貼り付けます。
  - **宛先のプロンプトを表示**—コピーしたノードを選択したノードの子または兄弟として貼り付けるのかを選択するプロンプトが表示されます。
- **他のバージョンから配置**—別のバージョンからノードを貼り付ける場合に、コピーするプロパティに対していずれかのオプションを選択します。
  - **プロパティをコピーしない**—ノードのプロパティをコピーしません。
  - **グローバル・プロパティのコピー**—ノードのグローバル・プロパティのみコピーして貼り付けます。
  - **ローカルおよびグローバル・プロパティのコピー**—ノードのローカル・プロパティとグローバル・プロパティの両方をコピーして貼り付けます。
  - **子孫を含む**—コピーしたノードの子孫を含めます。
- **表示元**—最上位ノードまたは現在のノードからツリーを表示します。
- **表示基準**—ツリービューに表示する列を決定します。
  - **デフォルト**—ノード名および説明の列を表示します。
  - **ユーザー・プロパティ**—ツリー・ビューに列を追加するプロパティを選択します。
- **照合基準**—ノードの照合方法を決定します。
  - **デフォルト**—ノードを階層の「デフォルトの照合基準」プロパティの値と照合します。値が存在しない場合、一致で結果が返されません。
  - **ユーザー・プロパティ**—ノードの照合基準のプロパティを選択します。

## ノードの検索

選択したバージョンの任意の階層内のノードを検索できます。ワイルドカードおよび完全一致検索を実行できます。共有ノードを検索に暗黙的に含めるように選択することで、階層内のノードのすべてのインスタンスをオプションで検索できます。暗黙的共有ノード検索オプションは、バージョン・レベルではなく、単一階層内での検索にのみ使用できます。検索結果は、ノードのリストとして表示したり、階層ツリー内に配置できます。

孤立ノードはこれらの検索には含まれません。グローバル問合せを使用すると、バージョン内のすべてのノードの検索を実行できます。

バージョン内のノードを検索するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「ノードの検索」タブを選択します。
3.  をクリックし、検索方法を選択します。
  - **検索基準**--名前または説明別にノードを検索します。
  - **ドメイン内の検索**--指定したドメイン内のノードを検索します。

検索テキストは、「ドメイン・ノード名」値に対してのみ適用可能であり、「コア.略語」には適用されません。

 **ノート:**

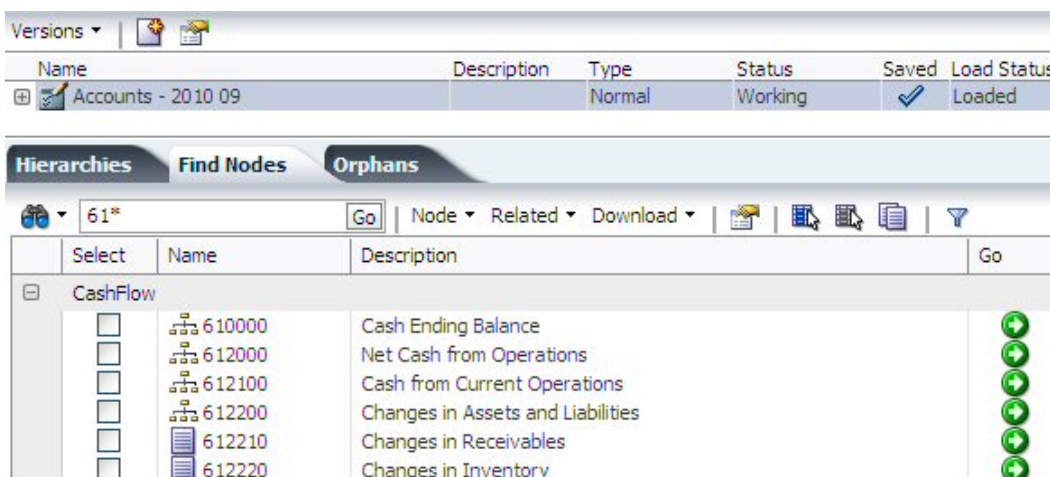
「検索基準」および「ドメイン内の検索」オプションは一緒に使用できます。

4. 検索対象のテキストを入力します。

 **ノート:**







ワイルドカード文字としてアスタリスク(\*)を使用できます。また、完全一致検索用のエスケープ文字としてバックスラッシュ(\)を使用することもできます。

5. 「移動」をクリックします。




Name	Description	Type	Status	Saved	Load Status
Accounts - 2010 09		Normal	Working	<input checked="" type="checkbox"/>	Loaded

Select	Name	Description	Go
<input type="checkbox"/>	610000	Cash Ending Balance	
<input type="checkbox"/>	612000	Net Cash from Operations	
<input type="checkbox"/>	612100	Cash from Current Operations	
<input type="checkbox"/>	612200	Changes in Assets and Liabilities	
<input type="checkbox"/>	612210	Changes in Receivables	
<input type="checkbox"/>	612220	Changes in Inventory	


6.  をクリックし、階層内のノードにナビゲートします。

階層内のノードを検索するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 階層を選択し、 をクリックします。

 ノート:

ノードの検索先の階層は複数開くことができます。


3.  をクリックし、検索および結果の表示方法を選択します。
  - **共有ノードを暗黙的に含める**—すべての暗黙的共有ノードを検索に含める場合に選択します。暗黙的共有ノードは、このオプションが選択された場合にのみ表示されます。
  - **検索基準**--「名前」または「説明」
  - **ドメイン内の検索**--ドメインを選択してこのドメイン内でのみノードを検索します。  
検索テキストは、「ドメイン・ノード名」値に対してのみ適用可能であり、「名前/コア.略語」には適用されません。
  - **結果の表示**--「ツリーで検索」または「リストで表示」
4. 検索対象のテキストを入力します。


 ノート:

ワイルドカード文字としてアスタリスク(\*)を使用できます。

5. 「移動」をクリックします。

 ノート:

結果を階層ツリーに表示することを選択した場合、 をクリックすると次の結果に移動できます。

6. 見つかったノードの1つを選択し、「関連」から「検索」を選択します。  
ノードは、サイドバーの「関係」タブに表示されます。ノード名の上には、ノードが検索された階層およびバージョンがあります。
7.  をクリックし、階層内のノードにナビゲートします。

## ノード・セキュリティ

Oracle Data Relationship Management ユーザーは、階層内のノードおよび複数の階層にわたるノードに対する各種アクセス・レベルを割り当てることができます。ノードの「リム・アクセス」および「リーフ・アクセス」プロパティは、アクセス・レベルを示します。ノード・セキュリティ設定を割り当てることができるのは、アクセス管理権限を持つ Data Relationship Management ユーザーのみです。詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*のユーザー権限の項を参照してください。

## 共有ノードの使用

共有ノードは、同じ階層内のノードの複数のインスタンスです。共有ノードのグローバル・プロパティはプライマリ・ノードの値を自動的に参照します。グローバル・プロパティはプライマリ・ノードでのみ変更できます。ローカル・プロパティはプライマリ・ノードとは共有されず、各共有ノードに固有のプロパティです。

表 5-4 共有ノードのタイプ

ノード	説明
プライマリ・ノード	階層およびバージョン内のノードのプライマリ・インスタンス。プライマリが存在しないバージョン内に共有ノードは存在できません。
明示的共有ノード	<p>手動メンテナンス・プロセスまたはインポート・プロセス中に明示的に作成されるノードの重複インスタンス。これらのノードは、階層内のノードのプライマリ・インスタンスと区別するために特別な命名ルールを使用して定義されます。</p> <p>手動メンテナンス・プロセスまたはインポート・プロセス中に作成される明示的共有ノードは、プライマリ・ノードとグローバル・プロパティ値を共有します。</p>
暗黙的共有ノード	祖先の共有の結果として共有される明示的共有ノードの子孫。これらのノードは読み取り専用であり、変更できません。

次が可能です:

- 共有ノードの代替命名の自動化
- 共有ノードをマップするシステム・レベルのプロパティの作成
- 共有ノードの下位の構造の表示
- 共有ノードとプライマリ・ノード間の移動
- プライマリ共有ノードの除去および削除
- プライマリ共有ノードの名前変更(これによるすべての共有ノードの名前変更)
- ナビゲーションと分析を目的として使用する共有ノード・リストの検索および表示

共有ノードが機能するのは、Oracle Data Relationship Management の次の領域のみです。

- ツリー・ビューの階層の参照
- ツリー・ビューでの「関連」および「共有ノード」メニューを使用した共有ノードの表示
- 「共有ノードを暗黙的に含める」オプションを使用したエクスポート

## 共有ノード・プロパティ

次の読み取り専用ノード・プロパティはノードの共有時に自動的に作成され、プライマリ・ノードおよび共有ノードに関する情報を提供します。

 ノート:

共有ノード・プロパティを表示するには、「共有情報」プロパティ・カテゴリをユーザーに手動で割り当てる必要があります。詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*のユーザーの管理の項を参照してください。

表 5-5 共有ノード・プロパティ

プロパティ	説明
プライマリ・ノード	ノードにこのノードを指し示す共有ノードがあるかどうかを示します。
共有ノード	ノードが共有ノードであるかどうかを示します。
プライマリ・ノード名	共有ノード名のプライマリ名部分。非共有ノードの場合、このプロパティは、完全なノード名を返します。
子孫を持つプライマリ・ノード	プライマリ・ノードの下に構造があるかどうかを示します。共有ノードにのみ移入されます。
プライマリ・ノードの子孫	プライマリ・ノードの子孫のリスト。プライマリ・ノードの下に構造がある共有ノードにのみ移入されます。
プライマリ・ノードの祖先	プライマリ・ノードの祖先のリスト。共有ノードにのみ移入されます。
共有マップ	共有ノードとプライマリ・ノードをマップする関連ノード・プロパティ。このプロパティは、共有ノードとプライマリ・ノードに移入されます。
プライマリ・ノード欠落	存在しないプライマリ・ノードを共有ノードが指し示しているかどうかを示します。
プライマリが階層になし	プライマリ・ノードが同じ階層内にはないかどうかを示します。

## 共有ノードの有効化

アプリケーション内で共有ノードを使用するには、`SharedNodeMaintenanceEnabled` システム・プリファレンスを有効化する必要があります。ノードを共有する階層では、`EnableSharedNodes` 階層プロパティを有効化する必要があります。これらの設定はデフォルトでは無効です。

 ノート:

共有ノードを有効化する場合、デフォルトの共有ノードのシステム・プリファレンス(区切り文字、一意の文字列、ゼロ・パディング長)は変更しないでください。

システム・プリファレンスの構成の詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*を参照してください。

## 共有ノードの追加および挿入

追加または挿入メニュー・オプションを使用して、共有ノードを作成できます。共有ノードを作成するには、ノードがターゲット階層内にすでに存在するときに、階層全体にわたって「取得/配置」を実行します。横並びの比較結果で2つの階層間でドラッグ・アンド・ドロップを実行しても同じ結果を得ることができます。

### ノート:

共有ノードを作成する前に、[共有ノードの有効化](#)が完了していることを確認してください。

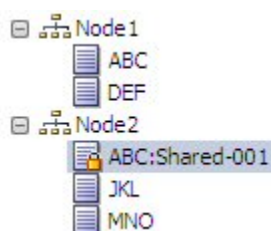
共有ノードを追加するには:

1. 共有ノードを挿入するノードを選択します。
2. 「ノード」から「追加」を選択します。
3. 共有ノードがリーフである場合、「リーフ・ノード」を選択します。
4. 追加する既存のノードの名前を入力します。
5. 「ノードがすでに存在する場合は、そのノードを挿入」を選択します。
6. 「追加形式」では、「子」または「兄弟」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

共有ノードを挿入するには:

1. 共有ノードを挿入するノードを選択します。
2. 「ノード」から「挿入」を選択します。
3. 「挿入元」では、「既存の階層」が選択されていることを確認します。
4. 階層を選択します。
5. 「ノード」リストから、共有するノードを選択します。
6. 「挿入形式」では、「子」または「兄弟」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

この例では、ノード ABC が Node1 の下ではプライマリ・ノードで、Node2 の下では共有ノードです。





## 共有ノードの除去および削除

共有ノードを除去すると、共有ノードのみが除去され、プライマリ・ノードは残ります。プライマリ・ノードが除去されて共有ノードは存在する場合、共有ノードは除去され、プライマリ・ノードは除去された共有ノードの親に移動します。複数の共有ノードが存在する場合、これらの共有ノードの1つがプライマリ・ノードになります。

バージョンからプライマリ・ノードを削除すると、プライマリ・ノードとそのすべての明示的共有ノードが削除されます。

共有ノードを除去または削除するには:

1. 共有ノードを選択します。
2. 「ノード」から「削除」または「除去」を選択します。
3. 「ノードの削除」または「ノードの除去」を選択します。

階層ツリーがリフレッシュされると、共有ノードは表示されなくなります。

## 共有ノードの名前変更

名前変更操作はプライマリ・ノードでのみ実行できます。プライマリ・ノードの名前を変更すると、プライマリ・ノードと共有ノードの名前が変更されます。

共有ノードを名前変更するには:

1. プライマリ・ノードを選択します。
2. プロパティ・グリッドで、「名前」値フィールドを選択します。
3. 名前を変更して「保存」をクリックします。


階層がリフレッシュされると、プライマリ・ノード名と共有ノード名が新しい名前で更新されます。

## プライマリ・ノードへの共有ノードの変換

共有ノードが含まれる異なる階層を操作すると、階層内に共有ノードはあるが、プライマリ・ノードが階層内に存在しないという状況が発生する場合があります。このシナリオでは、1つの操作で共有ノードをプライマリ・ノードに変換できます。

共有ノードをプライマリ・ノードに変換するには:

1. 共有ノードを選択します。
2. 「ノード」から「プライマリに変換」を選択します。

階層がリフレッシュされると、選択した共有ノードがプライマリ・ノード・アイコンを使用して表示されます。

### ノート:

プライマリ・ノードが階層内にすでに存在しており、プライマリ・ノードを共有ノードの場所内に配置させる場合、ノードを手動で入れ替える必要があります

## 共有ノードの表示

ノードのプライマリ・ノード、明示的共有ノードおよび暗黙的共有ノードを表示するには:

1. ノードを選択します。
2. 「関連」から「共有ノード」を選択します。  
「関係」タブにプライマリ・ノードと共有ノードが表示されます。

## 共有ノードおよびドメイン

次に示す共有ノードおよびドメインに関する情報を理解することは重要です:

- 「ドメイン・メンバーシップ」メニュー・オプションは、共有ノード(明示的または暗黙的)では使用できません。
- プライマリ・ノードがドメインに追加されている場合、その共有ノードは同じドメイン属性を反映します。
- プライマリ・ノードの子は、読取り専用として表示された暗黙的ノードを持ち、プライマリ・ノードのドメイン属性を反映します。
- ドメイン・メンバーシップ・プロセスがバージョン・レベルから実行されると、共有ノードは、ドメインに追加されたとおりに表示しませんが、例外としてリストに表示します(例: ノード XXX は共有ノードで、ドメインに直接割り当てることができません)。共有ノードは、プライマリ・ノードからドメイン属性を継承します。

# 6

## プロパティの管理

プロパティは、バージョン、階層またはノードの属性です。コア・プロパティは、標準製品機能に使用される属性を管理します。アプリケーション管理者は、カスタム・プロパティを追加することにより、サブスクリプション・システムおよびビジネス・プロセスのサポートに必要な追加属性を管理できます。

プロパティは、「プロパティ」タブでバージョン、階層またはノードに対して表示されます。

## プロパティ・カテゴリ

バージョン、階層およびノードのプロパティは、カテゴリごとに編成されます。各プロパティ・カテゴリは、特定の外部システム(Oracle Hyperion Planning や Oracle Essbase など)や会社内の特定の機能領域に属するプロパティなど、論理的に関連するプロパティ・セットを表します。アプリケーション管理者は、プロパティ・カテゴリを必要な数だけ作成できます。Oracle Data Relationship Management には、デフォルトのプロパティ・カテゴリがあります。

表 6-1 デフォルトのプロパティ・カテゴリ

カテゴリ	説明
システム	ID、名前および説明など、ノードの識別特性に関連するプロパティ。 このカテゴリで変更できるのは、個々のユーザーに対する読取り専用フラグの割当てのみです。読取り専用アクセス権を持つユーザーは、カテゴリ内の値を編集できませんが、見ることはできます。 <b>ノート:</b> このカテゴリにプロパティを割り当てることはできません。
統計	子の数や兄弟の数などノードの統計情報を示すプロパティ このカテゴリはノードに対してのみ使用可能です。
検証	ノードに割り当てられる検証; 検証ごとに 1 つのプロパティ このカテゴリはノードに対してのみ使用可能です。
リーフ・アクセス	ノードのノード・セキュリティ・グループとそのリーフ・アクセス・レベル; グループごとに 1 つのプロパティ このカテゴリはノードに対してのみ使用可能です。

表 6-1 (続き) デフォルトのプロパティ・カテゴリ

カテゴリ	説明
リム・アクセス	ノードのノード・セキュリティ・グループとそのリム・アクセス・レベル; グループごとに 1 つのプロパティ このカテゴリはノードに対してのみ使用可能です。

様々なプロパティ・カテゴリに対して様々なアクセス・レベルを設定できます。表示可能なカテゴリはドロップダウン・リストに表示されます。編集可能なカテゴリでは、上書きされた値をサポートしているプロパティを変更できます。「検証」、「リーフ・アクセス」および「リム・アクセス」カテゴリを使用できるのは、データ・マネージャ役割を持つユーザーのみです。

## システム・プロパティ

次の表に、ノード・レベルで通常表示されるシステム・プロパティを示します。

表 6-2 システム・プロパティ

プロパティ	定義
説明	ノードの説明
文字列の表示	階層内のノードを表示するために使用される結合プロパティの値。「デフォルトの表示基準」および「ユーザーの表示基準」プロパティによって管理されます。
ドメイン名	ノードがメンバーであるドメインの名前
ドメイン・ノードの非アクティブ日	ドメイン・ノードが非アクティブであると宣言するよう指定した日付
ドメイン・ノード名	ドメイン内のノードの名前。この値にドメイン修飾子は含まれません。
ドメイン・ノードの説明	ドメイン・ノードが存在する任意のバージョン内でこのドメイン・ノードに定義された最新の説明
リーフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>True</b> の場合、ノードはリーフ・ノードであり、子を持つことはできません。</li> <li>• <b>False</b> の場合、ノードはリム・ノードであり、子を持つことができます。</li> </ul>
リーフ・アクセス	ノードに対する現在のユーザーのアクセス・レベルを示します(ノードがリーフである場合のみ適用されます)。
リム・アクセス	ノードに対する現在のユーザーのアクセス・レベルを示します(ノードがリムである場合のみ適用されます)。
名前	バージョン内のノードの一意的な名前
承認済ノード	ノードがファイナライズ済バージョンにあることを示すブール・フラグ。

表 6-2 (続き) システム・プロパティ

プロパティ	定義
ノード ID	システムによって生成されたノードの一意的な数値識別子
ノード URL	外部リソースからノードに直接アクセスするための URL ハイパーリンク

## 統計プロパティ

次の表に、ノード・レベルで表示される統計プロパティを示します。

表 6-3 統計プロパティ

プロパティ	定義
子の数	ノードの数、1 レベル下位
子孫の数	下位のノードの合計数(すべてのレベル)
リーフの子の数	子を持つことができない子ノードの数
リーフ子孫の数	子を持つことができない子孫の数
リーフ兄弟の数	子を持つことができない兄弟の数
リムの子の数	子を持つことができる子の数
リム子孫の数	子を持つことができる子孫の数
リム兄弟の数	子を持つことができる兄弟の数
リンクの数	ノードが存在する他の階層の数
兄弟の数	このノードと同じ親を持つノードの数
追加者	ノードを作成したユーザー
追加日	ノードが作成された日時
祖先リスト	親ノードから階層の最上位ノードまでの祖先ノードのリスト
最終変更者	ノードを最後に変更したユーザー
最終変更日	ノードが最後に変更された日時
レベル	最上位ノードがレベル 1 である階層内のノードの数値レベル
リンク済	少なくとも 1 つの他の階層にノードが存在するかどうかを示すフラグ
リンク	ノードが存在する他のすべての階層のリスト(現在の階層を除く)
ノード変更	バージョンの作成後にノードが変更されたかどうかを示す True または False
参照	ノードが存在するすべての階層のリスト(現在の階層を含む)

## プロパティ 値の範囲および元

プロパティ・グリッドでは、各プロパティの左側に 2 つのアイコンが表示されます。最初のアイコンは、プロパティの範囲、およびプロパティによる 値の継承の可能性を示します。2 番目のアイコンは、プロパティ 値の元を示します。

表 6-4 プロパティの範囲アイコン



プロパティの範囲	説明
グローバル 	プロパティ 値は、バージョン内のすべての階層にわたって一定です。
ローカル 	プロパティ 値は、プロパティが存在する階層に固有です。
グローバル継承済 	プロパティ 値はグローバルで、プロパティの制御階層内の祖先ノードから継承されています。
ローカル継承済 	プロパティ 値はローカルで、現在の階層内の祖先ノードから継承されています。

表 6-5 プロパティの元値






プロパティの元	説明
デフォルト 	プロパティ 値は、(アプリケーション管理者によって設定された)デフォルト値によって移入されます。デフォルト値が使用されるのは、次の場合です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが非継承型ですが、値を入力していません。</li> <li>プロパティが継承型ですが、祖先値が見つかりません。</li> </ul>
継承 	プロパティ 値は、祖先ノードによって提供されています。(「ステータス」列には、祖先ノードの名前、および継承値の元の階層が表示されます。)
上書き済 	プロパティ 値は、このノードでユーザーによって設定されました。
導出 	プロパティ 値は、他のプロパティ 値から導出(計算)されます。
ロック済 	現在のノードのプロパティ 値はロックされており、このプロパティ 値を継承する子孫ノードでは変更できません。 このプロパティ 値を子孫ノードで表示すると、そのステータスは「静的」アイコンで示されます。

表 6-5 (続き) プロパティの元値

プロパティの元	説明
静的 ■	<p>プロパティ値は、値がロックされている祖先ノードから継承されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このため、値を子孫ノードで変更することはできません。</li> <li>「プロパティ」ウィンドウの「ステータス」列には、祖先ノードの名前、および継承値の元の階層が表示されます。</li> </ul>

## プロパティ・ステータス

プロパティ・グリッドの「ステータス」列には、祖先ノードの名前、および継承値の元の階層が表示されます。プロパティの編集時には、この列に、値の編集方法を表すステータス・メッセージも表示されます。次の表に、プロパティ・ステータスの説明を示します。

表 6-6 プロパティ・ステータス

プロパティ・ステータス	定義
下をすべてクリア	選択したプロパティの下をすべてクリアすることが要求されています。継承値を上書きしたすべての子孫ノードで値をクリアします。
ロック済	プロパティの分類がロック済に変更されています。
変更された値	値は変更されています。
重複の除去	選択したプロパティの重複を除去することが要求されています。ノードの子孫から、等価値をすべて除去します。
値を除去	値は除去されています; 「上書き済」プロパティ値にのみ適用されます。
ロック解除済	プロパティの分類は「ロック解除済」に変更されており、このプロパティを継承する子孫ノードで値を変更できます。

## プロパティ値の編集


プロパティ・エディタでグレー表示されているプロパティは読取り専用であり、変更できません。次のいずれかの条件が存在する場合、プロパティ値は編集できません。

- プロパティに導出値があります。たとえば、子ノードの合計数を示すプロパティは Oracle Data Relationship Management によって導出されており、編集できません。
- ユーザーに、値を編集するための適切なセキュリティ権限がありません。
- プロパティの値が、値がロックされている祖先ノードから継承されています。

プロパティ値を編集するには:

1. プロパティ・グリッドでプロパティを選択します。

2. プロパティの「**値**」フィールドをクリックし、変更を行います。

 **ノート:**

編集できるのは、グレー表示されていないプロパティのみです。

3. **オプション:** 「プロパティ」で、「プロパティ」メニューからアクションを選択します。
  - **コピー**—プロパティ値をコピーします。
  - **値を除去**--上書きされたプロパティ値を除去します
  - **重複の除去**--定義された標準プロパティの場合、ノードのデフォルト値と等しいすべての値をその子孫から除去します。継承プロパティの場合、ノードの継承された値と等しいすべての値をその子孫から除去します。導出された読み取り/書き込みプロパティの場合、ノードの導出された値と等しいすべての値をその子孫から除去します。
  - **下をすべてクリア**--継承された値を上書きしたすべての子孫ノードで値をクリアし、この値を継承ルールのデフォルト値に置き換えます
  - **ロック**--継承子孫ノードで値の変更を阻止します。

 **ノート:**

ロックできるのは、継承プロパティ値のみです。

ロックの適用前に、継承された子孫ノードの値が上書きされていた場合、このノードはロックの影響を受けません。すべての子孫に影響を及ぼすには、「ロックして下をすべてクリア」オプションを使用します。

- **ロックして下をすべてクリア**--継承子孫ノードの値の変更を阻止し、これには、継承された値が上書きされている任意の子孫ノードも含まれます。
4. 次のいずれかのアクションを行います:
    - 「**保存**」をクリックして変更を保存します。
    - 変更を保存せずに「**取消し**」をクリックして終了します。

## プロパティのフィルタ


デフォルトでは、アプリケーションのすべてのノードでノード・レベルのプロパティをすべて使用できます。階層に対してノード・タイプが有効である場合、階層のノードに表示されるプロパティは自動的にフィルタされ、このノード・タイプに適したプロパティにのみ制限されます。カテゴリに表示されるプロパティは、フィルタ行を使用してラベルまたは値別にフィルタできます。データ・マネージャ役割ユーザーは、プロパティに対するノード・タイプ・フィルタを無効化することにより、階層全体のノード・タイプを無効化しなくても、ノードのすべてのプロパティを表示できます。




 ノート:

ノード・タイプ・プロパティのフィルタは、Oracle Data Relationship Management Web クライアントにのみ適用され、Data Relationship Management バッチ・クライアントまたは API を使用する場合は適用されません。

プロパティをラベルまたは値によってフィルタするには:

1. プロパティ・グリッドで、、「フィルタ行の表示」の順にクリックします。
2. 「ラベル」または「値」テキスト・ボックスで、フィルタ基準となるテキストを入力し、[Enter]を押します。

ノード・タイプによってプロパティ・フィルタを無効にするには、

1. プロパティ・グリッドで、 をクリックします。
2. 「すべてのプロパティの表示」を選択します。

# 7

## データの検証

バージョン、階層、ノードおよびこれらのプロパティは、**Oracle Data Relationship Management** 検証を使用してデータ整合性が確認されます。検証は、リアルタイム、バッチ、またはその両方のモードで操作できます。検証を実行するモードは、検証レベル、作成時に指定した操作で選択したモード、およびバージョン、階層またはノードへの割当て時に指定した操作で選択したモードに基づいて制限できます。

リアルタイム検証は、階層ノードに対して変更が行われる際に実行され、検証が失敗した場合は変更の適用が阻止されます。リアルタイム検証を実行するには、バージョン・レベル、階層レベルまたはノード・レベルでリアルタイム検証を事前に割り当てる必要があります。検証は、現在のノードとその親ノードに対して実行されます。検証対象のノードが変更対象の階層内にも配置されている場合、この階層に対する検証のみが実行されます。検証対象のノードが他の階層内にも配置されている場合、これらの他の階層に影響するグローバル変更に対してもリアルタイム検証が実行されます。

バッチ検証は、バージョン・レベル、階層レベルまたはノード・レベルでユーザーによって明示的に実行されます。選択した検証セットを実行することも、データに割り当てられているすべての検証を実行することもできます。バージョン・バッチ検証は、バージョン内のすべての階層およびノードに対して実行できます。階層バッチ検証は、階層内のすべてのノードに対して実行できます。ノード・バッチ検証は、現在のノードに対してのみ実行できます。エクスポート・バッチ検証は、エクスポート・プロファイルに関連付けられた階層およびノードに対して実行できます。

ノード・レベルで実行されるリアルタイム検証とバッチ検証は両方とも、ノード・タイプを使用してフィルタできます。階層に対してノード・タイプが有効である場合、この階層のノードに対して実行される検証は、各ノードのノード・タイプに割り当てられた検証にのみ制限されます。ノード・タイプの詳細は、**Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド**を参照してください。

## バージョンの検証

バージョン・バッチ検証を実行するには:

1. 「参照」からバージョンを選択します。
2. 「バージョン」から、アクションを選択します。
  - 「検証」、「選択済」の順に選択し、実行する検証を選択します。
  - 「検証」、「割当て済」の順に選択し、バージョンに割り当てられたバッチ検証を即時実行します。
3. 「検証」、「選択済」の順に選択した場合、実行する検証を選択し、「OK」をクリックします。

### ノート:

「割当て済」を使用すると、割り当てられている検証をすべて選択できます。

バージョンと階層の検証結果は、ホーム・ページ上の個別タブに表示されます。結果は検証レベル別にグループ化されます。階層ノード結果は、階層を開いたときに個別タブに表示されます。

## 階層の検証

階層バッチ検証を実行するには:


1. 「参照」から、バージョンおよび階層を選択します。
2. 「階層」から、アクションを選択します。
  - 「検証」、「選択済」の順に選択し、実行する検証を選択します。
  - 「検証」、「割当て済」の順に選択し、階層に割り当てられた検証を即時実行します。
3. 「検証」、「選択済」の順に選択した場合、実行する検証を選択し、「OK」をクリックします。

### ノート:

「割当て済」を使用すると、割り当てられている検証をすべて選択できます。

## ノードの検証

ノード・バッチ検証を実行するには:

1. 「参照」から、バージョンおよび階層を選択します。
2.  をクリックします。
3. 「ノード」からアクションを選択します。
  - 「検証」、「選択済」の順に選択し、実行する検証を選択します。
  - 「検証」、「割当て済」の順に選択し、ノードに割り当てられた検証を即時実行します。
4. 「検証」、「選択済」の順に選択した場合、実行する検証を選択し、「OK」をクリックします。

### ノート:

「割当て済」を使用すると、割り当てられている検証をすべて選択できます。

## 検証結果の操作

### リスト・ビューでのバージョンおよび階層結果のナビゲート

バッチ検証結果は、ホーム・ページの「検証結果」タブ上のリストに表示されます。検証失敗メッセージは、バージョンおよび階層別にグループ化されます。階層検証結果からノード・レベルの検証結果にナビゲートできます。

### リスト・ビューでのノード結果のナビゲート

バッチ検証に失敗したノードは、オープン階層の「検証結果」タブ上のリストに表示されます。各ノードの失敗メッセージを表示するには、ノード行の横にあるプラス記号をクリックします。検証結果から選択したノードのプロパティを直接編集できます。

「ノード」メニューから、次のオプションを選択できます。






- **取得** - ノードをクリップボードにコピーし、ここから別の場所へのノードの挿入、移動、順序変更、またはノードのプロパティの貼付けを行うことができます。
- **ノードに移動**: ツリー・ビューで選択したノードに移動できます。
- **フィルタ行の表示**: リストをフィルタするために使用できる空の行を開きます。
- **プロパティ**: 「プロパティ」タブにノード・プロパティを表示します。

### ツリー・ビューでのノード結果のナビゲート

オープン階層の「ツリー」タブには、バッチ検証に失敗したノードが、各ノード行の左側に赤い感嘆符が付いた状態で表示されます。

次のツールバー・ボタンを使用できます。

表 7-1 ツリー・ビュー・ツールバー・ボタン

ツールバー・ボタン	説明
	選択したノードの親にナビゲートします。
	前に選択したマークされているノードにナビゲートします。
	マークされている次のノードにナビゲートします。
	ツリーを展開して、マークされているノードを表示します。
	マークされているノードをクリアします。

### ノード結果のダウンロード

リスト・ビューおよびツリー・ビューから、検証結果を次のファイル・タイプにダウンロードできます。

- Portable Document Format (PDF)
- Rich Text Document (RTF)
- スプレッドシート(XLS)

 **ノート:**

リスト・ビューでは、CSV ファイルにダウンロードすることもできます。

リスト・ビューで問合せ結果をダウンロードするには:

1. 「**ダウンロード**」から、ファイル・タイプを選択します
2. 「**保存**」をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「**保存**」をクリックします。

### 検証結果のクリア

バッチ検証結果を表示から除去するには、バージョン・レベルまたは階層レベルでこれらをクリアします。

バージョンおよびバージョン内のすべての階層の検証結果をクリアするには:

1. バージョンを選択します。
2. 「**バージョン**」から、「**検証結果のクリア**」を選択します。

検索結果は、バージョン、階層またはバージョン内のノードに対して表示されなくなります。

階層およびそのすべてのノードの検証結果をクリアするには:

1. バージョンおよび階層を選択します。
2. 「**階層**」から、「**検証結果のクリア**」を選択します。

# 8

## ガバナンス・ワークフロー

データ・ガバナンスは、情報をエンタープライズ内の資産として扱うことに関連するデータ品質、データ管理、データ・ポリシー、ビジネス・プロセス管理およびリスク管理が一元的に行われることを表します。データ・ガバナンスを行うことにより、組織は、データ・スチュワードやデータ保管者がデータを処理するために使用するプロセスおよび方法を積極的に管理できます。

Oracle Data Relationship Management では、Oracle Data Relationship Governance モジュールが、次に示す 2 つのクリティカルな方法でガバナンスの課題に対応します:

- マスター・データに対する変更の作成と管理に関連付けられたプロセスの作成、管理および自動化に、業種や部門、職務の異なるビジネス・ユーザーが貢献できるようにする変更要求管理プロセスを組織が構成できるようにします。
- データ・スチュワードや保管者が、データ品質に関連する問題--欠落している、誤りがある、または標準ではない情報など--を識別できるようにし、データ・アクセス権限に基づいて、それらの問題を一番よく修正または対応できる、組織内の利害関係者にルーティングします。

ガバナンス・ワークフローを使用すると、繰返し可能なビジネス・プロセスを使用して、データ・スチュワードがデータ変更の入力、検証および承認を管理できるようになり、質の高いデータ、ポリシー準拠、ユーザーのコラボレーション、およびビジネス・コミュニティ全体での意識の変化を実現できます。

## ワークフロー・モデル

ワークフロー・モデルは、Oracle Data Relationship Management のデータに対する特定の変更セットの管理に関連するユーザー・タスク、ワークフローのステージおよびデータのタイプを制御します。各要求では、ワークフロー・モデルを使用して次を決定します:

- 実行されるワークフロー・タスク
- 完了するワークフロー・ステージ
- 要求を操作できるユーザー・グループ
- 承認方法および順序
- ユーザーが要求について通知される方法とタイミング
- 要求で使用可能なノードのバージョン、階層およびタイプ
- 要求の完了に要する時間の長さ

### ワークフロー・タスク

ワークフロー・タスクは、タスクの際に表示、編集および要求される一連のプロパティとともに、実行される変更アクション(追加、更新、挿入、移動)を表します。ワークフロー・タスクはワークフロー・モデルとは別に定義され、別のビジネス・プロセスで実行される共通タスクの一貫性を保つために、複数のモデルで使用できます。

### ワークフロー・ステージ

ワークフロー・モデルは、複数のワークフロー・ステージで構成されています。ステージがワークフロー・モデル用に定義されている場合、ステージ・タイプは、ワークフローのそのステージにおけるユーザーに対して、参加のレベルを定義します。ワークフロー・モデルには、次のものがあります：

- 可能なワークフロー・タスクのリストで定義されている単一の送信ステージ(変更の送信に使用できます)
- 承認またはエンリッチメントの一連のオプション・ステージ(それぞれが単一のワークフロー・タスクで構成されています)
- 最終承認と実行されたすべてのワークフロー・タスクのコミットに使用される単一のコミット・ステージ

## 要求の操作

要求は、ガバナンス・ワークフローを使用して、その他の **Oracle Data Relationship Management** ユーザーによって完了、承認、エンリッチおよびコミットされる変更を開始するために使用されます。要求は、その要求が検証、承認およびコミットされた後に実行される、特定のデータ・セットへの変更のコレクションを表します。各要求は、単一のワークフロー・モデルを使用して、要求に参加するユーザー、そのユーザーが参加する時期、およびその参加タイプを制御します。

### 変更要求

変更要求は、データ・セット、およびデータ・セットとともに使用するために構成されているワークフロー・モデルの両方に送信アクセス権を持つガバナンス・ユーザーによって送信されます。通常、データおよびワークフロー・モデルに対する送信アクセス権を付与されているユーザーは、そのモデルを使用して管理されるデータの変更要求を開始するユーザーです。

### 改善要求

改善要求は、別のユーザーが実行する修正アクションを開始するために使用されます。改善要求を送信できるのは、ガバナンス・ユーザーであり、かつデータ・セットとワークフロー・モデルに対する読取りインタラクティブ・アクセス権と送信ワークフロー・アクセス権を付与されているインタラクティブ・ユーザーです。改善要求は通常、バッチ検証、問合せ、比較など、別の操作の結果から作成されます。それらの結果のノードを、ノード・クリップボードを使用して改善要求に追加できます。

### 要求アイテム

要求アイテムを使用して、ガバナンス要求のコンテキスト内でワークフロー・タスクを実行します。各要求アイテムは、アイテムを要求に追加する際に指定する必要がある、単一のワークフロー・タスクを使用します。ワークフロー・タスクは、要求で使用する **Data Relationship Management** バージョンの階層ノードに対して実行される変更のタイプを定義します。

要求は、1 つ以上の要求アイテムで構成されます。送信またはエンリッチ・ワークフロー・ステージの間に、新しいタスクを実行するための要求に、新しい要求アイテムを追加できます。エンリッチ・ステージの間に、ワークフロー・ステージに割り当てられた更新タスクを使用して、前のステージで追加された要求アイテムを変更または上書きできます。

要求アイテムは、手動で追加するかソース・ファイルからロードできます。要求における要求アイテムの順序は、検証およびコミットの目的で、要求の変更をターゲット・バージョンに適用する順序を制御するために重要です。

要求アイテムを削除できるのは、その要求アイテムに一致するワークフロー・タスクがあるワークフロー・ステージの間のみです。

### ソース・ファイルの作成

ソース・ファイルからアイテムを要求に追加できます。アイテムは、単一の階層およびワークフロー・タスクに対して、現在のワークフロー・ステージにロードされます。

ソース・ファイルは表形式の区切りフォーマットである必要があります。ファイルの最初のレコードを使用して、各フィールドのロード先の要求アイテム・プロパティを識別します。選択したワークフロー・タスクの編集可能プロパティのみが、ファイルからロードされます。要求アイテムの編集可能プロパティにマップされないフィールドは、ロード中に無視されます。名前プロパティは、ソース・ファイルからロードするすべての要求アイテムに必要です。

要求アイテムのソース・ファイルを作成する上でのガイドラインをいくつか示します。

- 挿入タスクの場合、「名前」は挿入するノード、「親ノード」は挿入先の親、および「要求アイテムのロード」ダイアログ・ボックスで選択する階層が挿入先の階層です。
- 要求アイテムのすべてのデータ値を、フラット・ファイル内の同じレコードの別のフィールドで指定できます。
- ファイルの列見出しレコードを使用して(プロパティ・ラベルを使用して)、ファイルのどのフィールドが、要求アイテムのワークフロー・タスクのどのプロパティに対応するかを定義する必要があります。
- 列見出しのワークフロー・タスク・プロパティのプロパティ・ラベルは、任意の順序で指定できます。
- プロパティ・ラベルの照合では大/小文字は区別されません。
- 名前プロパティは、ソース・ファイルのすべてのレコードに必要です。
- 選択したワークフロー・タスクの編集可能プロパティはすべて、ソース・ファイルからロードできます。
- 見出しレコード値がワークフロー・タスクの編集可能プロパティにマップされない列は、ファイルのロード・プロセスで無視されます。
- プロパティの値を指定しないフィールドでは、空白値を使用します。null 値のプロパティを上書きする場合は、ファイルをロードする際に「空白の値インジケータ」オプションを使用します。
- タスク・プロパティがカスタム・プロパティ・ラベルで定義される場合、ファイルで同じカスタム・フィールド・ラベルを使用します。

### ソース・ファイルの例

```
#New Financial Accounts
Name,Parent Node,Description,Account Type,Start Date,End Date,Allow Posting
6000,5000>Total Employee Expenses,Expense,,,N
6200,6000,Compensation Expenses,,,,N
6210,6200,Vacation Paid,,1/1/2015,12/31/2015,Y
6220,6200,Employee Benefits,,1/1/2015,<blank>,Y
```



## アイテム詳細

プロパティ詳細は、要求の選択された要求アイテムに表示されます。表示および編集が可能なプロパティは、各要求アイテムのワークフロー・タスクまたは現在のワークフロー・ステージのタスクによって制御されます。新しい階層ノードが作成される要求アイテムに対しては、提案された新しい値の単一の列が表示されます。既存の階層ノードを参照する要求アイテムに対しては、2列の値(現在と新規)が表示されます。「現在の値」列には既存のプロパティ値が表示され、「新規の値」列には変更されたプロパティ値が表示されます。変更されたプロパティは、識別しやすいようにマークされます。計算されたプロパティ値は、読取り専用として表示されます。迅速に解決できるよう、プロパティには検証の失敗がタグ付けされています。要求アイテムからプロパティの更新を除去するには、「**前の値に戻す**」リンクをクリックします。

## 要求アイテムの名前変更

要求アイテム詳細の「名前」プロパティに提供されている「**名前変更**」リンクを使用して、要求アイテムを名前変更できます。名前変更機能では、要求アイテムの名前が変更され、新しい名前がそれを親として参照するかノード・データ・タイプ・プロパティを使用する他の要求アイテムと同期されます。ノードの名前変更は、「名前」プロパティが編集可能な任意のワークフロー・ステージで行うことができます。

### ノート:

ノード名を元の名前に戻す場合は、「名前変更」リンクを使用して、前の名前を再入力します。「**前の値に戻す**」ボタンは、「名前」プロパティには使用できません。


## タスクおよびプロパティの手順

要求アイテムの手順は、要求ページで確認できます。手順は、ワークフロー・タスクとそのプロパティに対して定義できます。「手順」領域で、要求アイテム・タスクに定義された手順を確認できます。タスク手順の表示または非表示を切り替えることができます。「アイテムの詳細」セクションで、要求アイテム・タスクのプロパティに定義されている手順を確認できます。手順は、要求アイテムのプロパティ値の上に表示されます。

タスクおよびプロパティの手順を表示するには:

1. ワークリストから要求を選択して開きます。
2. アイテムの詳細を表示する要求アイテムを選択します。
3. 「**手順**」領域で、タスクに定義された手順を確認します。

### ノート:

「**非表示**」をクリックして、タスク手順を非表示にできます。手順が非表示になっている場合、 をクリックして表示できます。

4. 「**アイテムの詳細**」セクションで、プロパティ・フィールドの上に表示されているプロパティ手順を確認します。

## 要求アクション

要求を処理する際、ページ・ヘッダーの右上にあるアクション・ボタンを使用すると、要求に対してアクションを実行できます。特定のアクションは、状況に応じてのみ使用可能になります。次の表ではアクションを説明し、対応するアクション・ボタンを示します。

表 8-1 「アクション」 ボタン


「アクション」 ボタン	説明
保存 	要求の検証または承認は行わず、要求を現在の状態で <b>Data Relationship Management</b> リポジットリに保存します このアクションは、新しい要求および請求済の要求に使用できます。
Excel にエクスポート 	要求アイテムを <b>Excel (.xls)</b> フォーマットでエクスポートします。
CSV にエクスポート 	要求アイテムをカンマ区切り( <b>.csv</b> )フォーマットでエクスポートします
送信 	要求の要求アイテムを検証し、成功したら、要求をワークフロー・パスの次のステージに割り当てます このアクションはドラフト要求、または送信者にプッシュバックされた要求に使用できます。
計算 	要求の提案された変更に基づいて、要求アイテムの詳細を計算します
検証 	要求の要求アイテムに対する提案された変更を検証します このアクションは必要な値を確認し、要求アイテムまたは現在のワークフロー・ステージのタスクに構成されているバッチ検証を実行します。検証の失敗は修正のために戻されます。 次の場合に要求を検証できます： <ul style="list-style-type: none"> <li>要求のワークフロー・ステータスがドラフトで、要求アイテムが少なくとも 1 つある</li> <li>要求のワークフロー・ステータスが請求済である</li> </ul>
コピー 	要求アイテムを新しい要求にコピーします 要求をコピーするには、選択したタイプの要求を送信するアクセス権が必要です。
請求 	アクティブ・ワークフロー・ステージに要求を請求します。 送信された要求の編集、プッシュバック、エスカレート、承認または拒否を実行できるのは、その要求を請求したユーザーのみです。ユーザーが要求を請求するとその要求がロックされ、その他のユーザーは請求できなくなります。別のユーザーが請求できるように解放するには、要求の請求解除を行う必要があります。


表 8-1 (続き) 「アクション」 ボタン

「アクション」 ボタン	説明
請求解除 	請求されたロックを要求から除去しますが、別のステージ、ユーザーまたはグループに対する要求の検証や割当ては行われません ユーザーが要求のプッシュバック、エスカレート、承認または拒否を選択した場合、要求は自動的に請求解除されます。
プッシュバック 	要求の一部の要素の修正、または要求に関する情報の追加を求めるために、現在または前のステージにおける前のユーザーに要求をプッシュバックします 要求をプッシュバックするユーザーは、要求がプッシュバックされた理由に関するコメントを指定する必要があります。
エスカレート 	データ・マネージャの役割を持つユーザーに要求をエスカレートします ユーザーは様々な理由で要求をエスカレートします;たとえば、要求の処理方法がわからない場合や、アクセスの問題がある場合です。データ・マネージャは、要求へのコメントの追加、要求アイテムの変更、階層およびノードへのノード・アクセス・グループの割当ての変更、または要求の拒否を行うことで問題を解決できます。
エスカレート解除 	現在のワークフロー・ステージの次のノード・アクセス・グループに再度要求を割り当てます
承認 	要求の変更を、ターゲット・バージョンに承認してコミットします
却下 	要求を却下します エスカレーション中に、送信された要求が、ワークフロー・パスの承認ユーザーまたはデータ・マネージャによって却下されることがあります。要求が却下されると、要求のワークフローは終了します。拒否された要求は再送信できません。拒否された要求の要求アイテムを再送信するには、元の送信ユーザーまたは送信ステージの他の参加者が、拒否された要求を新しいドラフト要求にコピーし、新しい要求の要求アイテムを編集して、新しい要求を送信します。

### 要求コメント

要求の参加ユーザーが入力したコメントは、「コメント」タブで表示できます。割り当てられたユーザーは、必要に応じて新規コメントを追加できます。

要求にコメントを追加するには:


1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「コメント」タブで  をクリックし、コメントを入力して「OK」をクリックします。

## 要求の添付


ドラフト要求を作成するユーザーまたは送信された要求を請求したユーザーは、電子ファイルをアップロードして要求に添付できます。要求を変更できる任意のステージで、8MB までのサイズのファイルを要求に添付できます。ユーザーは役割およびワークフロー・ノード・アクセス・グループのメンバーシップを介して、アクセス権のある要求の添付を表示およびダウンロードできます。

添付を追加したユーザーまたはデータベース・マネージャの役割を持つユーザーは、要求の添付を要求から削除できます。


要求に添付を追加するには:

1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「添付」タブで  をクリックして、添付するファイルを参照して選択します。オプションでコメントを入力し、「OK」をクリックします。

要求の添付をダウンロードするには:

1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「添付」タブで  をクリックし、ファイルを選択して開くか、ファイルを保存して「OK」をクリックします。


要求の添付を削除するには:

1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「添付」タブで  をクリックして、削除を確認します。

## 要求参加者

要求に参加したユーザーを、「参加者」タブで確認できます。ユーザーの参加に関する詳細情報が必要な場合は、選択したユーザーに連絡できます。要求に参加したユーザー、参加したステージ、実行したワークフロー・アクション、アクションが実行された日時を確認できます。

要求参加者に電子メールを送信するには:

1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「参加者」タブで、連絡する参加者の横の  をクリックします。
3. 電子メールの内容を作成して、「送信」をクリックします。

## 要求アクティビティ

要求に対して実行されるすべてのアクティビティは、要求アクティビティに記録されます。これらのアクティビティには、要求の送信、承認、エンリッチなどのユーザー・アクティビティ、および要求の割当てやコミットなど、システムが開始したアクティビティが含まれます。ユーザー・コメントも要求アクティビティとして記録されます。各アクティビティには、該当する場合は、タイムスタンプとユーザー名が含まれます。アクティビティは、最新のアクティビティとともにリストの最上位に表示されます。

要求のユーザーおよびシステム・アクティビティを表示するには:

1. ワークリストから要求を開きます。
2. 「アクティビティ」タブをクリックします。

### ワークフロー・タグ

ワークフロー・タグを使用すると、ガバナンス・ワークフローにより、ガバナンス・ユーザーが要求を特別に処理できるようになります。編集可能な要求に、次のワークフロー・タグを追加できます:

- **期限**—要求の変更をコミットする必要があるユーザー定義の日にちを示します。要求の期限は、コミットされていない場合に、要求が「遅滞」とマークされる日にちを決定します。遅滞の要求では、個別のワークリスト・ビューを使用できます。
- **緊急**—優先度が高い、または時間に制約があるとして要求がマークされます。緊急の要求では、個別のワークリスト・ビューを使用できます。

ワークフロー・タグを追加するには:


1. 編集可能な要求を開きます。
2. 「ワークフロー・タグ」の隣にある要求の右側で、「追加」をクリックします。
3. 追加するワークフロー・タグを選択します:
  - 期限日

#### ノート:

必ずカレンダーから日付を選択してください。

- 緊急
4. 「OK」をクリックします。

ワークフロー・タグを除去するには:

1. ワークフロー・タグが割り当てられた要求を開きます。
2. 要求の右側の「ワークフロー・タグ」の下で、ワークフロー・タグの隣にある  をクリックして、要求から除去します。

### ワークフロー・パス

要求のワークフロー・パスは、完了するワークフロー・ステージ、要求のアクティブ・ステージ、前のステージの完了ステータス、およびアクティブ・ステージの承認数を示します。ワークフロー・パスを使用すると、要求にかかる時間、関連する承認の数、および全体的な承認プロセスにおける要求の位置を、参加しているすべてのユーザーが把握できます。ワークフロー・パスは、ユーザーが要求の送信、承認、エンリッチ、プッシュバック、または拒否などのアクションを実行すると自動的に更新されます。

要求のワークフロー・パスは次の内容で決定されます:

- 要求に指定されたワークフロー・モデル
- 要求の要求アイテム
- 要求アイテムに関連付けられた階層ノード

- ワークフロー・ユーザー・グループおよび階層ノードに対するそのアクセス・レベル
- ワークフロー・モデルに構成されたワークフロー・ステージ
- 要求の現在のステージ
- 各ステージのステータス


## 要求のライフサイクル

要求のライフサイクルは、ワークフロー・モデルによって決まります。ワークフロー・モデルは、ワークフローのステージ、実行できるタスク、および要求に参加できるユーザーを制御します。ライフサイクルの間、要求は少なくとも 2 つのワークフロー・ステージ(送信およびコミット)を通過しますが、モデルによっては、コミットされるまでに、その他の承認またはエンリッチメント・ステージを通過する必要があります。

## 要求の作成



要求は、ワークフロー・モデルの最初の送信ステージに割り当てられているガバナンス・ユーザーまたはデータ・マネージャによって作成されます。作成したユーザーは、要求に要求アイテムを追加し、ワークフロー・ステージで使用可能なタスクを実行できます。要求アイテムを追加したら、その要求をドラフト要求として保存できます。

ワークリストから要求を作成するには:

1. 「ワークリスト」ページから、 **「新規要求」** をクリックし、要求に使用するワークフロー・モデルを選択します。
2. 要求のターゲット・バージョンを選択します。

### ノート:

ワークフロー・モデルにバージョン変数が使用されている場合は、そのバージョンが事前に選択されており、読取り専用ラベルとして表示され、変更できません。

3.  をクリックしてアイテムを手動で追加するか、 をクリックしてアイテムをソース・ファイルからロードします。ソース・ファイルの詳細は、[ソース・ファイルの作成](#)を参照してください。
4. アイテムを要求に手動で追加するよう選択した場合は、ステップ 5 に進みます。ソース・ファイルからアイテムをロードする場合は、次のオプションを構成し、「OK」をクリックしてステップ 7 に進みます。
  - **デバイス**—「クライアント・ファイル」または「サーバー・ファイル」を選択します。「サーバー・ファイル」を選択した場合は、「接続」を選択します。「参照」をクリックして、ソース・ファイルを選択します。
  - **区切り文字**—ソース・ファイルで使用する区切り文字を選択します。
  - **文字エンコード**—ソース・ファイルで使用する文字エンコード・オプションを選択します。

- **引用符を削除**—ソース・ファイルで値を囲む単一および二重引用符を除去する場合に選択します。
- **タスク**—要求アイテムのワークフロー・タスクを選択します。
- **階層**—ソース・ファイルからロードするすべての要求アイテムに使用する階層を選択します。
- **空白の上書きを許可**—アイテムごとに、「空白の値インジケータ」に従って空白値の上書きとして処理するソース・ファイルの空白値について選択します。選択しない場合、ソース・ファイルの空白値は無視されます。
- **空白の値インジケータ**—要求アイテムによって参照される既存のノードの現在のプロパティ値が空白値で上書きされることを示すテキスト値を定義します。インジケータを指定しない場合、空白の列値は空白値の上書きと解釈されます。

 **ノート:**

ファイルから要求にアイテムをアップロードするには、ファイル・ヘッダーと、アップロードするファイルの各行に次のプロパティを指定します:

- 追加アクションの場合: 名前、親、説明
- 挿入アクションの場合: 名前、親
- 移動アクションの場合: 名前、親

5. シナリオに応じて、「**アイテムの追加**」ダイアログ・ボックスには、次に示す 1 つ以上のフィールドが表示されます。要求アイテムの有効な情報を選択します:
  - **タスク**—リストからタスクを選択します。
  - **階層**—階層を選択して、特定の階層の検索と参照を制限します。
  - **検索**—テキスト値を入力して「検索」をクリックします。検索結果が「使用可能」リストに表示されます。
  - **参照**—選択した階層の構造を参照するか、検索を実行します。検索結果は階層構造に表示されます。
  - **アイテム**—既存の要求アイテムに使用されるノードのリストから選択します。このリストを使用すると、同じノードの複数の要求アイテムを 1 つの要求に含めることができます。
  - **クリップボード**—「参照」、「問合せ」または「比較」ページから取得され、クリップボードにコピーされたノードのリストから選択します。
  - 「**使用可能**」リスト、「**選択済**」リスト--選択したリストにノードを移動します。
6. 「OK」をクリックします。
7. ページの「**アイテムの詳細**」セクションで、要求アイテムの新規プロパティ値を定義します。

 **ノート:**


必須の値はアスタリスクでマークされています。


8. **オプション: 「名前変更」** をクリックしてノードの名前を変更します。
9. **「更新」** をクリックして、選択した要求アイテムに対する変更を一時的に保存します。選択した要求アイテムに行われた変更を破棄するには、**「取消し」** をクリックします。

 **ノート:**

要求アイテムに対して行われた変更は、別の要求アイテムの選択、要求アイテムの移動、新しい要求アイテムの追加などの別の要求アイテムのアクションを実行したときに暗黙的に保存されます。要求アイテムに対する変更は、要求アイテムから移動した後に「取消し」を使用して破棄することはできません。この場合、それらの変更を破棄する唯一の方法は要求を保存せずに閉じることです。

 **ヒント:**

更新されたプロパティは変更済とマークされます。要求アイテムからプロパティの更新を除去するには、 をクリックします。

10. 要求にアイテムを追加するにはステップ 3-8 を繰り返します。
11.  をクリックして要求のタイトルを入力し、**「OK」** をクリックします。

## 要求アイテムのプロパティの計算

要求アイテムには、値が手動で定義またはファイルからロードされるのではなく、計算されるプロパティがある場合があります。これらのプロパティは、「計算された値」アイコンでマークされます。プロパティ値は、要求内のすべての要求アイテムに対して計算されます。

要求アイテムのプロパティを計算するには:

1. 要求アイテムを要求に追加します。
2. 計算されたプロパティで使用する要求アイテムのプロパティ 値を定義します。
3. 要求の **「計算」** をクリックします。
4. 各要求アイテムの計算されたプロパティ 値を表示します。

## 要求アイテムの検証

要求アイテムは、ライフサイクル中に要求が入る各ワークフロー・ステージで検証されます。各要求アイテムの検証は、要求のワークフロー・モデルの構成に基づきます。すべての要求アイテムは、ワークフロー・パスの次のステージに進む前にステージの検証に合格する必要があります。



要求アイテムを検証するには:

1. 要求アイテムを要求に追加します。
2. 要求アイテムのプロパティ 値を定義します。
3. 要求の「検証」をクリックします。
4. 各要求アイテムとそのプロパティの検証エラーを表示します。
5. 要求アイテムに修正を加えます。
6. 要求が検証に合格するまで、「検証」を再度クリックします。


## 要求の送信

要求を作成して保存したら、その要求のワークフロー・モデルを使用しているその他のガバナンス・ユーザーによる承認、エンリッチメントおよびコミットのために、その要求を送信できます。要求には少なくとも 1 つの要求アイテムを追加し、必要なすべての値を指定して、すべての要求アイテムで正常に検証を通過する必要があります。要求が送信されたら、要求はワークフロー・モデルの次のワークフロー・ステージに移動され、送信したユーザーはその要求を編集できなくなります。ガバナンス・ユーザーは、送信した要求の進行状況を「ワークリスト」ページから追跡できます。

### ▲ 注意:

デタッチされたバージョンに対して要求を送信しないでください。

要求を送信するには:

1. 要求を作成するか、ドラフト済の要求を開きます。
2.  をクリックします。


送信された要求は、承認のためにユーザーに割り当てられている承認、エンリッチおよびコミット・ステージを進みます。要求がステージに入ると、要求内の要求アイテムはステージに構成されたユーザー・グループと照合され、一致するグループのユーザーにそのステージで要求が割り当てられます。1 つの要求を、同じステージの複数のユーザーおよびグループに同時に割り当てることはできますが、要求を請求できるのは一度に 1 人のユーザーのみです。

## 要求の請求

ワークフロー・ステージに要求が割り当てられると、そのステージに関連付けられているすべてのユーザー・グループに要求が割り当てられます。その他のアクションを実行できるようにするには、割り当てられた要求をユーザーが請求する必要があります。割り当てられた要求を請求するユーザーは、割り当てられたその他のユーザーがその要求を使用できないようにして請求します。要求が請求されている間、ユーザーは、アクティブ・ワークフロー・ステージに基づいて、使用可能な任意の操作を実行できます。ユーザーが要求の承認、プッシュバック、エスカレートまたは拒否を行うと、要求は自動的に請求解除され、そのワークフロー・ステージの要求にアクションを実行できなくなります。ユーザーがタスクを完了し、要求の承認、プッシュバック、

エスカレートまたは拒否を行わない場合は、要求の請求解除を行うオプションがあります。

要求を請求するには:

1. ワークリストから、送信された要求を開きます。
2.  をクリックします。

## 要求の請求解除

要求の請求解除を行うと、割り当てられたその他のユーザーが、アクティブなワークフロー・ステージに請求するために要求を使用できるようになります。現在要求に対する請求を持っているユーザーおよびデータ・マネージャの役割を持つユーザーは、請求解除オプションを使用できます。このユーザーは、現在他のユーザーによって請求されている要求を請求解除できます。

要求を請求解除するには:

1. ワークリストから、請求解除する要求を選択します。
2. 「**請求解除**」をクリックします。


### ノート:

要求がワークフロー・モデルに構成された請求期間を超えると、要求は自動的に請求解除され、割り当てられたその他のユーザーが請求できるようになります。

## 要求の承認

すべての要求アイテムに対する適切なワークフロー・データのアクセス権を持ち、要求のワークフロー・モデルに関連付けられているガバナンス・ユーザーは、使用可能な承認者として割り当てられます。要求を請求するすべての参加者が、要求の実際の承認者になります。要求の承認は、ユーザーが割り当てられたタスクをワークフロー・ステージ中に実行し、要求がコミットに向けて続行されることに同意していることを意味します。要求のすべての要求アイテムに必要な値が指定され、ワークフロー・ステージのアクティブな検証を渡す必要があります。要求を承認すると、ユーザーのステージへの参加が正常に完了します。承認ワークフロー・ステージのユーザーは承認を行うことはできませんが、要求の要求アイテムを変更することはできません。

要求を承認するには:

1. ワークリストから、請求された要求を開きます。
2. 要求内の要求アイテムをレビューします。  
アイテム詳細をレビューする要求アイテムを選択します。
3.  をクリックします。


## 要求のエンリッチ

エンリッチメント・ステージは、送信中に追加された要求アイテムの更新、別の階層にある同じノードにローカルな変更を行うための要求アイテムの追加、または関連する様々なノー

ドに対する全体的な変更を行うために使用されます。エンリッチメント・ステージに存在できるのは、ワークフロー・タスク 1 つのみです。ユーザーがエンリッチメント・ステージに対して要求を請求すると、そのステージに割り当てられたアクティブなワークフロー・タスクに基づいて要求アイテムを編集できます。アクティブなワークフロー・タスクで、ユーザーが別のワークフロー・ステージで追加した既存の要求アイテムの更新のみを許可する場合は、データに対するユーザーのワークフロー・アクセス権に基づいてアクセス可能なすべての要求アイテムのアイテム詳細を編集できます。ステージのアクティブなワークフロー・タスクで、新しい値の追加や階層関係の保持など、その他のタイプのデータ変更を実行する場合は、要求に新しい要求アイテムを追加できますが、前のステージで追加された要求アイテムは変更できません。

要求がエンリッチされたら、要求への変更を保存して検証する必要があります。場合によっては、要求アイテムに、計算済で編集できない詳細値が含まれることがあります。要求の変更に基づいて計算された値を表示するには、要求を計算する必要があります。


要求をエンリッチするには:

1. ワークリストから、請求された要求を開きます。
2. 要求アイテムを追加または更新します。
3.  をクリックします。

## 要求のプッシュバック

要求の目的、精度または不完全性について問い合わせるには、請求された要求を承認者が前のワークフロー・ステージにプッシュバックします。プッシュバック中、承認者が要求を割り当てるステージを選択すると、要求をプッシュバックした理由を示すコメントの入力を求められます。要求が前のステージに割り当てられると、割り当てられたユーザーが要求を請求し、変更、再送信または承認を行います。承認ユーザーが適切なワークフロー・データ・アクセス権を持っていない大きなステージで追加された、その他の要求アイテムが要求内にある場合、その要求アイテムの詳細は表示されません。前の参加者がプッシュバックの理由に対応し、再送信または承認を行うと、要求は元々プッシュバックを行った承認者に戻ります。

要求をプッシュバックするには:

1. ワークリストから、請求された要求を開きます。
2.  をクリックします。
3. 要求をプッシュバックするワークフロー・ステージを選択します。
4. プッシュバックを説明するコメントを入力し、「OK」をクリックします。

### 例 8-1 再承認


すでに完了して、前のユーザーにより承認されている以前のステージに要求がプッシュバックされる場合は、すでに参加しているユーザーが要求を再送信または再承認する必要があります。後続のステージによる再承認が必須かオプションかは、要求がプッシュバックされるステージによって異なります。ワークフロー・モデルの各ワークフロー・ステージの「再承認」オプションにより、そのモデルを使用する要求のこの動作が制御されます。

## 要求のエスカレート

まれに、ワークフロー・ステージに必要なタスクを承認者が実行できない場合があります。この状況は、ワークフロー・モデルまたはデータ・アクセスが、特定タイプの要求を処理するために適切に構成されていない場合や、ユーザーが続行する方法を理解していない場合に発生します。ユーザーには、請求された要求をデータ・マネージャの役割を持つユーザーおよびワークフロー・モデルのコミット・ステージに構成されたワークフロー・ノード・アクセス・グループのメンバーであるユーザーをエスカレートして、状況の解決に携わらせるオプションが用意されています。

エスカレートすると、要求はこれらのユーザーに割り当てられ、ステージの通常の承認者は、要求を請求して参加することができなくなります。エスカレート中、データ・マネージャおよび割り当てられているワークフロー・ノード・アクセス・グループのメンバーは要求の変更、要求に関連するデータの直接編集、参加しているユーザーのワークフロー・データ・アクセス権の変更、またはワークフロー・モデルを変更するためのアプリケーション管理者への問合せを行うことができます。これらのユーザーが要求の続行を許可すると、要求のエスカレートが解除され、ワークフロー・ステージの元のユーザー・グループに再割り当てされます。

要求をエスカレートするには:

1. ワークリストから、請求された要求を開きます。
2.  をクリックします。
3. エスカレートを説明するコメントを入力し、「OK」をクリックします。

### 例 8-2 自動エスカレーション


要求がワークフロー・パスの次のステージに割り当てられると、Oracle Data Relationship Management では、ワークフロー・モデルのステージに関連付けられたユーザー・グループが、要求内の要求アイテムのデータに対する適切なワークフロー・アクセス権を持つユーザー・グループと照合され、そのステージの要求に参加できるユーザーが判断されます。通常、この交差はステージごとに少なくとも 1 人のユーザーになりますが、特定のステージに一致するユーザーが存在しない場合もあります。

いずれかの要求アイテムに必要な値がない場合、ステージに構成されている検証に失敗した場合、またはステージで承認が必要な場合、要求を次のステージに移動できません。この場合、要求はそのステージに自動的にエスカレートされます。

## 要求の拒否

要求の承認者、またはエスカレート中のデータ・マネージャは、コミットされないように要求を拒否することができます。承認者は、要求されている変更の重複、誤り、不完全性などの理由で要求を拒否できます。拒否の間は、拒否の理由を説明するコメントが必要です。要求が拒否されると、ワークフロー・モデルが取り消され、ユーザーは要求に対するあらゆるアクションを実行できなくなります。拒否された要求は、可能であれば、後からコピーして新しい要求として送信できます。

要求を拒否するには:

1. ワークリストから、請求された要求を開きます。
2.  をクリックします。

- 拒否を説明するコメントを入力し、「OK」をクリックします。

## 遅滞要求の処理

要求の経過時間がワークフロー・モデルに構成された要求期間または要求に構成された期限を超えると、その要求は「遅滞」とマークされます。割り当てられている遅滞要求を識別するために、別のワークリスト・ビューを使用できます。遅滞要求をレビューして、アクションを実行します。

## ワークフロー・ステージのスキップ

要求では、要求アイテムに不要と思われるワークフロー・ステージをスキップできます。ステージに入るまたはステージをスキップする機能は、ワークフロー・モデルで構成されたステージ条件によって制御されます。ステージをスキップすると、要求はワークフロー・パスの次のステージにただちに移動します。

## 要求の上位への移動

承認、エンリッチおよびコミット・ステージでは、承認するユーザー・グループが要求内の要求アイテムに見つからなくても、要求がステージに入ります。この状況では、現在のステージで承認が不要で要求アイテムがそのステージの検証に合格した場合、要求をワークフロー・モデルの次のステージに移動させることができます。ステージは、要求のワークフロー・パスで上位に移動済としてマークされます。

## 要求の分割

ワークフロー・ステージの間に、複数の要求アイテムを含む要求を別個の要求に分割し、関連しないアイテムに異なるワークフロー・パスをたどらせることができます。承認またはエンリッチされるためにワークフロー・ステージに入る必要があるアイテムもあり、ステージをスキップして次のステージに進むことができるアイテムもあります。要求を分割した場合、ステージ条件を満たす要求アイテムは、同じワークフロー・モデルを使用する別の送信済要求に移動されます。新しい要求が、承認のためにワークフロー・ステージに入ります。ステージ条件を満たさないアイテムは、元の要求にとどまり、ステージはスキップされます。

## 要求のコミット

要求のワークフロー・モデルの最終コミット・ステージに割り当てられたユーザーは、要求の変更をターゲット・バージョンのデータにコミットするために承認を行う必要があります。コミット・ステージ中に、すべての要求アイテムに必要なすべての値を指定し、検証すべてに合格する必要があります。承認者は要求アイテムを編集し、残りの問題に対応したり、最終調整を行うことができます。コミット・ユーザーは、要求でのすべての要求アイテムを承認する必要があります。要求をコミットする準備ができたなら、承認者が承認を行ってコミット操作を開始します。コミット・ステージに承認者が複数存在する場合は、最後の承認により、要求の変更のコミットがトリガーされます。

コミットされた要求の次のトランザクション履歴詳細に注意してください。

- 監査目的のために、コミットされた要求アイテムについて、コミット・ステージにいる要求の最終承認ユーザーがトランザクション履歴で作成されたトランザクションに割り当てられます。

- 要求がスキップされる場合、またはコミット・ステージに移動される場合、バージョンまたは階層所有者がトランザクション履歴のトランザクションに割り当てられます。

## ワークリストの移動

ワークリストは、変更要求や改善要求を処理する中央の場所です。ガバナンス・ユーザーは、ワークリストから変更要求を送信したり、ユーザー・グループに割り当てられた要求の確認や参加を行います。データ・マネージャは、ガバナンス・ユーザーに改善要求を送信したり、それらのユーザーが送信したエスカレート済の要求に参加したりします。

### ワークリスト・ビュー

ワークリストには、ユーザーが参加できる方法に基づいて、表示されている要求をガバナンス・ユーザーがフィルタできる一連のビューが含まれています。各ワークリスト・ビューには、そのビューで使用可能な要求の数が表示されます。「ワークリスト」ページの左側にあるメニューからワークリスト・ビューを選択し、ビューで使用可能な要求を表示します。ワークリスト・ビューは次のとおりです：

- **割当て済**—ユーザー、またはユーザーがメンバーであるグループに割り当てられた要求
- **緊急**—ユーザーまたはグループに割り当てられた要求で、「緊急」とマークされているもの
- **遅滞**—ユーザーまたはグループに割り当てられた要求で、「遅滞」とマークされているもの
- **請求済**—ユーザーまたはグループに割り当てられた要求で、現在のユーザーが請求しているもの
- **送信済**—現在のユーザーによって送信された要求
- **ドラフト済**—ユーザーが「ドラフト済」ステータスで保存したが、送信されていない要求
- **参加済**—ユーザーが参加者として追加されている要求(以前に送信または請求されたもの)
- **通知済**—ユーザーが通知された要求(参加または参加していないもの)
- **すべて**—現在システムに存在するすべての要求(データ・マネージャの役割を持ったユーザーのみ使用可能)

### 経過時間別の要求の表示

ワークリストに表示されている要求は、要求経過時間フィルタを使用してフィルタできます。要求経過期間フィルタでは要求の表示が、「今日」、今週、「過去 30 日間」、「四半期累計」、「年次累計」または「すべて」に制限されます。



### 要求の検索

ガバナンス・ユーザーおよびデータ・マネージャは、キーワード検索を使用して既存の要求を検索できます。ワイルドカード検索にアスタリスクを使用できます。ワークフロー・ユーザーは、次に示すいずれかの要求領域を検索できます：

- 要求ヘッダー
- 要求アイテム
- ワークフロー・タグ

- コメント

要求を検索するには:

1. 「ワークリスト」ページで、、「**検索場所**」の順にクリックし、検索する要求領域を選択します:
  - 要求—指定されたテキストの要求ヘッダーを検索します
  - 要求アイテム—指定されたテキストの要求アイテムを検索します
  - ワークフロー・タグ—指定されたテキストのワークフロー・タグを検索します
  - コメント—指定されたテキストのコメントを検索します
2. 検索するテキストを入力し、をクリックします。

### 要求のプレビュー


ワークリストで要求を選択すると、ワークリストの下に要求のプレビューが表示されます。要求のプレビューが表示されます:

- 要求ヘッダー
- 要求アイテム
- 要求アクティビティ

### 要求を開く

要求の詳細を表示する、またはワークリストに表示されている要求に対してアクションを実行するには、要求を開く必要があります。

要求を開くには:

- ワークリストから、要求をダブル・クリックします。
- 要求プレビューで、をクリックします。


### 要求の削除

コミットされていないドラフト・ワークフロー要求および送信済ワークフロー要求を削除できます。要求送信者およびデータ・マネージャの役割を持つユーザーは、次を削除できます。

- ドラフト・ワークフロー要求
- 送信ステージに戻されたワークフロー要求

送信されたワークフロー要求を削除できるのは、データ・マネージャの役割を持つユーザーのみです。

要求を削除するには:

1. ワークリストから、削除する要求を選択します。
2. 要求のプレビューで、をクリックします。
3. 「**要求の削除**」をクリックして、削除を確認します。

## 通知

通知には、Web クライアント・アラートおよび電子メール通知の両方が含まれ、ガバナンス・ユーザーおよび要求のデータ・マネージャに、関連付けられている要求のアクティビティを通知するために使用されます。要求のワークフロー・モデルのステージ構成は、ユーザーに特定のステージで実行されているアクティビティを通知するか、およびどのユーザーに通知するかを制御します。

### ノート:

ユーザーが実行したアクションに関する通知は送信されません。

ステージごとに、次の「通知」オプションの中から選択します:

- **なし**--このワークフロー・ステージに対して実行されたアクションについて、ユーザーは通知されません。
- **担当者**—要求に現在割り当てられているいずれかのワークフロー・ノード・アクセス・グループに属するユーザーは、割当て、承認、コミットまたは却下のアクションが発生したときに通知されます。  
 担当者は、通知設定が「担当者」または「担当者および参加者」のステージに割り当てられているワークフロー・アクセス・グループのメンバーである場合にのみ通知されます。
- **参加者**
  - コミットまたは却下アクションが発生した場合は、要求を送信または請求したユーザーに通知されます。
  - 承認または上位へ移動アクションが発生した場合は、要求を送信したユーザーに通知されます。
 参加者は、通知設定が「参加者」または「担当者および参加者」のステージに割り当てられているワークフロー・ノード・アクセス・グループのメンバーである場合にのみ通知されます。
- **担当者および参加者**--担当者と参加者が通知されます。

### 通知ユーザー

次の表に、各ステージの通知設定に基づいて通知をトリガーするアクションおよび通知の受信者をリストします。

表 8-2 ワークフロー・アラート

ワークフロー・アクション	担当者	送信者	参加者	通知ユーザー
割当て	X			
承認	X	X		X
上位へ移動		X		X
エスカレート	X			X



表 8-2 (続き) ワークフロー・アラート

ワークフロー・アクション	担当者	送信者	参加者	通知ユーザー
却下	X		X	X
コミット	X		X	X

 ノート:

通知ユーザーとは、要求アイテムへの通知アクセス権のみを持つ、ステージに割り当てられているワークフロー・ノード・アクセス・グループのメンバーであるユーザーです。これらのユーザーは、通知設定が「担当者」または「担当者および参加者」の場合のみ通知されます。通知オプションが「なし」または「参加者」の場合、これらのユーザーは通知されません。

## Web クライアント・アラート

ユーザーに要求アクティビティを通知する必要がある場合、ユーザーは、Oracle Data Relationship Management Web クライアントでアラートを受信します。ユーザーがアラートを受信すると、Web ページの上部に「アラート」リンクが表示されます。「アラート」リンクには、表示されるアラートの数が示されます。「アラート」リンクにアクセスすると、アラートの詳細なリストを参照できる「アラート」ダイアログが表示されます。現在、Web クライアントにユーザーのアクティブ・セッションがある場合、「アラート」リンクには、そのユーザーに送信されたアラートがすぐに反映されます。

アラートにアクセスするには:

1. Web ページの上部で、「アラート」をクリックします。
2. 詳細情報を表示するアラートをクリックします。

 ノート:

「すべてクリア」をクリックすると、アラートをすべてクリアできます。

 ノート:

アラートを開くリンクをクリックすると、現在の要求の状態を示す要求インスタンス・ページが開きます。アラートが発行された時期に関係なく、要求のすべてのアクティビティが表示されます。

## 例 8-3 電子メール通知

ガバナンス・ユーザーには、要求アクティビティに関しても電子メール通知を使用して通知が行われます。このタイプの通信は、アクティブなユーザー・セッションを持たないユーザーや、Data Relationship Management に頻繁にアクセスしないユーザー

にアラートを通知する場合に便利です。**Web** クライアント・アラートが発生すると、電子メール通知が送信されます。

- 電子メールの件名に、要求と実行されたアクティビティが示されます。
- 電子メールの本文に、要求ヘッダー、要求アイテムおよび最近の要求アクティビティが表示されます。
- 要求アイテムのプロパティ 詳細の表示、すべての要求アクティビティの表示または要求に対するアクションの実行を行うには、ハイパーリンクを使用し、承認された後に、ユーザーを直接 **Web** クライアントの要求に移動させます。

# 9

## 問合せの使用

Oracle Data Relationship Management では、プロパティ値に基づいてバージョンおよび階層内のノードを問合せできます。ホーム・ページ上の問合せタスクから、問合せを作成、オープンおよび管理できます。異なるタブで複数の問合せを開くことができますが、一度にフォーカスを当てることのできるのは1つの問合せのみです。また、参照対象として選択したデータ・オブジェクトから問合せを実行することもできます。

Data Relationship Management では、問合せは、「が次と類似」、「が次の範囲にある」、「長さが次と等しい」などの複数の演算子をサポートしています。一連のノードに対して実行できる基準のリストを作成できます(従来の SQL 文の WHERE 句と同様)。問合せにより、定義した基準を満たすノードのリストが返されます。問合せを使用すると、AND または OR を使用して複数の基準をまとめて構成することにより、複雑な問合せを形成できます。

プロパティ問合せを保存することにより、ユーザーが問合せ基準を再定義しなくても繰り返し分析を実行できるようになります。データ・マネージャは、他のすべてのユーザーが使用できる標準問合せを作成できます。

問合せの一般的な用途:

- 階層の参照時に特定の基準を満たすノードを検索
- エクスポートおよび比較でのフィルタ・メカニズムとして
- データの整合性を確保するために使用されるカスタム検証のロジックとして

## 問合せタイプ

問合せタイプ:

- **グローバル問合せ**は、バージョン内のすべてのノードに対して実行されます。グローバル問合せは特定の階層を参照せずに一連のノードに対して実行されるため、基準に含めることができるのはバージョン・プロパティおよびグローバル・ノード・プロパティのみです。
- **ローカル問合せ**は、階層内のノードおよびその子孫に対して定義および実行されます。これらは、階層の最上位ノードまたは階層内のノードから実行できます。ローカル問合せは、バージョン、階層、グローバル・ノードおよびローカル・ノードのプロパティを参照できます。

## 演算子の説明

表 9-1 演算子の説明

演算子	説明	データ型の制限
が次より上	指定したプロパティ値は、祖先ノードによって使用されています。	

表 9-1 (続き) 演算子の説明

演算子	説明	データ型の制限
が次より下	指定したプロパティ値は、子孫ノードによって使用されています。	
が次を含む	プロパティのカンマ区切りリスト値には、リストで指定したアイテムが含まれます。	文字列のみ
が次と等しい	プロパティ値は、指定した値と等しいです。	
が次より大きい	プロパティ値は、指定した値より大きい(が、指定した値と等しくない)です。	
が次以上	プロパティ値は、指定した値より大きい、または指定した値と等しいです。	
文字を含む	プロパティ値は、指定した文字を1つ以上含みます。	
文字を含まない	プロパティ値は、指定した文字を1つも含みません。	
が次の範囲にある	プロパティ値は、指定した値のカンマ区切りリスト内にあります。	文字列のみ
アルファベットである	プロパティ値は、アルファベット文字でのみ構成されています。	
英数字である	プロパティ値は、英数字でのみ構成されています。	
が空白である	プロパティ値は、空白です(指定した値項目は使用できません)。	
が定義済みである	プロパティ値は、定義(上書き)された値です。	
アルファベットではない	プロパティ値は、アルファベット文字のみでは構成されていません。	
英数字ではない	プロパティ値は、英数字のみでは構成されていません。	
が空白でない	プロパティ値は、空白ではありません。	
が数値でない	プロパティ値は、数値ではありません。	
が数値である	プロパティ値は、数値です。	
長さが次と等しい	プロパティ値の長さは、指定した値と等しいです。	文字列のみ
長さが次より大きい	プロパティ値の長さは、指定した値より大きい(が、指定した値と等しくない)です。	文字列のみ
長さが次以上	プロパティ値の長さは、指定した値より大きい、または指定した値と等しいです。	文字列のみ

表 9-1 (続き) 演算子の説明


演算子	説明	データ型の制限
長さが次未満	プロパティ値の長さは、指定した値より小さい(が、指定した値と等しくない)です。	文字列のみ
長さが次以下	プロパティ値の長さは、指定した値より小さい、または指定した値と等しいです。	文字列のみ
長さが次と等しくない	プロパティ値の長さは、指定した値と等しくないです。	文字列のみ
が次未満	プロパティ値は、指定した値より小さい(が、指定した値と等しくない)です。	
が次以下	プロパティ値は、指定した値より小さい、または指定した値と等しいです。	
が次と類似	プロパティ値は、指定した値と類似しています(ワイルドカードを含む)。アスタリスク(*)およびパーセント記号(%)をワイルドカードとして使用できます。	文字列のみ
が次より上ではない	指定したプロパティ値は、祖先ノードによって使用されていません。	
が次より下ではない	指定したプロパティ値は、子孫ノードによって使用されていません。	
が次を含まない	プロパティのカンマ区切りリスト値には、リストで指定したアイテムが含まれません。	文字列のみ
が次と等しくない	プロパティ値は、指定した値と等しくありません。	
が次の範囲にない	プロパティ値は、指定した値のカンマ区切りリスト内にありません。	文字列のみ
が次と類似しない	アスタリスク(*)およびパーセント記号(%)をワイルドカードとして使用できます。	文字列のみ


## 問合せの作成

問合せを作成するか開くと、問合せは名前付きタブに表示されます。

問合せウィザードを使用して、問合せのパラメータおよび基準を定義します。ウィザードのコンテンツは、入力をサポートする「ソース」、「スタイル」、「フィルタ」および「列」タブにわたって編成されています。ウィザードのタブは入力を順番に収集するよう順序付けられています。任意のタブ間でナビゲートできます。


問合せを作成するには:


1. 「ホーム」 ページで、「**問合せ**」を選択します。
2.  をクリックします。

3. **オプション:** 実行時にユーザー定義値を問合せフィルタに渡すために、問合せの代替パラメータを作成します。
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 **ノート:**

キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」をクリックします。
4. 「**ソース**」タブから、問合せのバージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「**標準**」をクリックします。
5. 次のいずれかのアクションを行います。
  - グローバル問合せの場合は、次のステップに移動します。
  - ローカル問合せの場合は、 をクリックし、階層および最上位ノードを選択し、「**OK**」をクリックします。

 **ノート:**

階層/最上位ノードの組合せを変更するには、「**クリア**」をクリックし、ローカル問合せ用のステップを繰り返します。

6. 「**スタイル**」で、問合せ結果の表示方法を選択します。
  - リスト: 基準を満たすノードは動的リストとして返されます。
  - ノードをマーク: 基準を満たすノードは階層ツリー内でマークされます。
  - 両方: 基準を満たすノードは動的リストとして返され、階層内でマークされます。

 **ノート:**

グローバル問合せの場合、結果はリストとしてのみ返すことができます。

7. **オプション:** 「ノードをマーク」または「両方」を選択した場合、「マークされているノードまで展開」を選択すると、階層が開いて展開され、マークされたノードが表示されます。

 **ノート:**



このオプションを適用できるのは、ローカル問合せに対してのみです。

8. 「フィルタ」で、「追加」をクリックして基準行を挿入します。
9. プロパティと演算子を選択して、条件行に値または代替パラメータを入力し、[Enter]を押して行を保存します。

 **ノート:**

フォーマットの代替パラメータは<%ParamKey%>で、<%および%>は実行時の代替変数を示す識別子で、ParamKey は代替に使用するパラメータの名前です (例: <%AccountType%>)。カッコを含めることにより、基準をグループ化したり、プロパティに継承値を含めるかどうかを定義できます。演算子の説明は、[演算子の説明](#)を参照してください。

 **ヒント:**

 をクリックし、行を変更します。行を削除するには、 をクリックします。行を移動するには、矢印をクリックします。

10. 「包含オプション」から、問合せ結果に含めるノードを選択します。
  - 一致のみ: 基準を満たすノードのみを返します。
  - 一致と祖先: 基準を満たすすべてのノードとその祖先を返します。
  - 一致と子孫: 基準を満たすすべてのノードとその子孫を返します。
11. オプション: ステップ9で「一致と祖先」または「一致と子孫」を選択した場合、デフォルトでは、「含める」オプションが選択され、基準を満たすノードが結果に含まれます。
12. オプション: ステップ9で「一致と祖先」を選択した場合、「問合せの最上位ノードの上の祖先を含める」を選択すると、最上位ノードの上にある祖先ノードを含めることができます。
 

「問合せの最上位ノードの上の祖先を含める」オプションに追加祖先が含まれるのは、問合せに指定した最上位ノードにすべての祖先が含まれていなかった場合のみです(「一致と祖先」オプション)。このため、このオプションは子孫には影響しません(「一致と子孫」オプション)。
13. 「列」タブを選択し、「カテゴリ」を選択します。
14. 問合せ結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。

 **ノート:**

「名前」プロパティは、どのプロパティを表示するように選択しているかに関係なく、常に問合せ結果に表示されます。

列選択は単なるランタイム・パラメータであり、問合せとともに保存されません。

 **ヒント:**

「選択済」リストでは矢印を使用して列の位置を決定します。リスト内の最初のアイテムが第1列、リスト内の2番目のアイテムが第2列というように続きます。


15. **オプション:** 問合せ結果のフィルタ基準で参照されるプロパティを自動的に含めるには、「**基準プロパティを含める**」を選択します。

16. 次のいずれかを行います:

-  をクリックして問合せを保存します。

問合せの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・オブジェクト・アクセス・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準問合せを作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者の役割を持つユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

- 問合せを実行するには、 をクリックします。

## 問合せ結果の操作

問合せに対して選択した表示オプションに応じて、結果は、リストに表示されるか、ツリーでマークされるか、あるいはその両方になります。ローカル問合せの場合、結果のリストでノードのプロパティを編集できます。階層ツリーでマークされたノードとして表示されるローカル問合せ結果の場合、構造の変更およびプロパティの編集が可能です。グローバル問合せ結果は読取り専用です。

### リスト・ビューでのナビゲート

リストに表示される問合せ結果には、問合せ基準を満たすノードのみが表示されます。「ノード」メニューから、次のオプションを選択できます。

- **取得** - ノードをクリップボードにコピーし、ここから別の場所へのノードの挿入、移動、順序変更、またはノードのプロパティの貼付けを行うことができます。
- **ノードに移動:** ツリー・ビューで選択したノードに移動できます。




- **フィルタ行の表示:** リストをフィルタするために使用できる空の行を開きます。
- **プロパティ:** 「プロパティ」タブにノード・プロパティを表示します。

### ツリー・ビューでのナビゲート

ツリー内でマークされたノードとして表示される問合せ結果の場合、問合せ基準を満たす各ノードの横に青いチェックマークが表示された状態で階層ツリー全体が表示されます。

次のツールバー・ボタンを使用できます。

表 9-2 ツリー・ビュー・ツールバー・ボタン

ツールバー・ボタン	説明
	選択したノードの親にナビゲートします。
	前に選択したマークされているノードにナビゲートします。
	ツリーを展開して、指定したレベルのすべてのノードを表示します。
	マークされている次のノードにナビゲートします。
	ツリーを展開して、マークされているノードを表示します。
	マークされているノードをクリアします。

### 問合せ結果のダウンロード

リスト・ビューおよびツリー・ビューから、問合せ結果を次のファイル・タイプにダウンロードできます。

- Portable Document (PDF)
- Rich Text Document (RTF)
- スプレッドシート(XLS)

#### ノート:

リスト・ビューでは、CSV ファイルにダウンロードすることもできます。

ツリー・ビューで問合せ結果をダウンロードするには:

1. 「ダウンロード」から、ファイル・タイプを選択します
2. 「保存」をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「保存」をクリックします。



## 問合せの管理

保存した問合せはオープン、コピーおよび削除できます。

### 問合せを開く

問合せはオープンおよび変更できます。問合せは実行する前に開く必要があります。

問合せを実行するには:

1. 「**問合せ**」タブを選択し、問合せを選択します。
2.  をクリックし、選択した問合せを開きます。
3. タブをクリックして問合せパラメータを変更し、 をクリックして問合せを実行します。

### 問合せのコピー

問合せをコピーするには:

1. 「**問合せ**」タブを選択し、問合せを選択します。
2. 「**問合せ**」から「**コピー**」を選択します。
3. 問合せの新しい名前と説明を入力します。
4. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準比較を作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
5. 「**OK**」をクリックします。

### 問合せの移動

オブジェクト・アクセス・グループから別のオブジェクト・アクセス・グループに問合せを移動できます。

#### ノート:

移動アクションは、グループに対するオブジェクトの管理権限を持つユーザーにのみ使用可能になります。

問合せを移動するには:

1. 「**問合せ**」タブを選択し、問合せを選択します。
2. 「**問合せ**」から、「**移動**」を選択します。

3. 「オブジェクト・アクセス・グループ」から、別のグループを選択し、「OK」をクリックします。

### 問合せの削除

問合せを削除するには:

1. 「問合せ」タブを選択し、問合せを選択します。
2. 「問合せ」から「削除」を選択します。

#### ノート:

問合せが別のオブジェクトによって使用されている場合は、この問合せを使用しているオブジェクトのリストとともにプロンプトが表示されます。削除を続けるか削除を取り消すかを選択できます。

# 10

## 階層の比較

Oracle Data Relationship Management では、同じバージョン内の階層、または 2 つの異なるバージョン間の階層を比較できます。ホーム・ページ上の比較タスクから、比較を作成、オープンおよび管理できます。異なるタブで複数の比較を開くことができますが、一度にフォーカスを当てることできるのは 1 つの比較のみです。また、参照対象の階層から比較を実行することもできます。

### 比較タイプ

#### 視覚比較

視覚比較では、比較プロセスを実行せずに階層ツリーが横並びで表示されます。

#### 構造比較

構造比較では、同じ階層の 2 つのバージョン間、または異なる階層の 2 つのポイント間で同じであるか異なるノードが識別されます。

構造比較では、実行対象の比較のタイプに基づいて同じであるか異なる各階層のノードが返されます。結果は、2 つのリスト、マークされている 2 つのツリー、またはその両方として表示できます。

#### プロパティ比較

プロパティ比較では、同じ階層の 2 つのバージョン間、または異なる階層の 2 つのポイント間のプロパティ値の差異が識別されます。階層間で共通する各ノードのプロパティを選択して比較できます。結果は、2 つのリスト、マークされている 2 つのツリー、またはその両方として表示できます。

#### 名前変更比較

名前が変更されたノードの比較は、構造比較と同じですが、名前が変更された各ノードを比較のために同じものとして扱います。

たとえば、比較対象の階層 1 にノード A、B および C が含まれ、階層 2 にも同じノードが含まれるがノード C の名前が CC に変更されている場合、名前が変更されたノードの比較では、これら 2 つの階層間で差異を識別しません。構造比較では、差異オプションが選択されている場合、ノード C とノード CC は異なるノードとみなします。



名前が変更されたノードの比較では、実行対象の比較のタイプに基づいて同じであるか異なる各階層のノードが返されます。結果は、2 つのリスト、マークされている 2 つのツリー、またはその両方として表示できます。

### 比較の作成

比較を作成するか開くと、比較は名前付きタブに表示されます。

比較ウィザードを使用して、比較のパラメータおよび基準を定義します。ウィザードのコンテンツは、入力をサポートする「ソース」、「スタイル」、「フィルタ」および「列」タブにわたって編成されています。ウィザードのタブは入力を順番に収集するよう順序付けられていますが、任意のタブ間でナビゲートできます。


比較を作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**比較**」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. **オプション:** 実行時にユーザー定義値を問合せフィルタに渡すために、比較の代替パラメータを作成します。次を参照してください
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

#### ノート:

キー/値ペアでは"<% "または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」 をクリックします。
4. 「**ソース**」 をクリックし、比較する各階層のバージョンまたはバージョン変数を選択します。

「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「**標準**」 をクリックします。
  5. バージョンごとに、 をクリックし、「**ノードの選択**」ダイアログ・ボックスから階層および最上位ノードを選択し、「**OK**」 をクリックします。
  6. 「**スタイル**」 タブを選択し、比較タイプを選択します。
    - 視覚
    - 構造
    - プロパティ
    - 名前変更
  7. 視覚比較またはプロパティ比較を選択した場合、次のステップに進みます。別の比較タイプを選択した場合は、次を実行します。
    - 比較タイプの下で、差異と類似点のどちらを表示するかを選択します。
    - 「**結合**」 から、結合プロパティを選択します。



デフォルトでは、比較により、同じ名前を持つ各階層からノードがマップされます。また、別のプロパティに基づいてノードを結合することもできます。たとえば、指定した階層内で `SortCode` という名前のプロパティが一意的キーを持つ場合、各階層で同じ `SortCode` を持つノード間の差異を識別するためにこのプロパティが使用されます。
    - 「**結果表示**」 から、表示する比較結果を選択します。

- リスト: 基準を満たすノードは動的リストとして返されます。
  - ノードをマーク: 基準を満たすノードは階層内でマークされます。
  - 両方: 基準を満たすノードは動的リストとして返され、階層内でマークされます。
  - **オプション:** 「ノードをマーク」または「両方」を選択した場合、「マークされているノードまで展開」を選択すると、階層が開いて展開され、マークされたノードが表示されます。
8. 「フィルタ」タブを選択し、次のいずれかを実行します。
- 「包含フィルタ」から、保存された問合せを選択します。
  - 次を実行して、比較のフィルタ基準を定義します。
    - a. 「追加」をクリックし、基準行を挿入します。
    - b. プロパティと演算子を選択して、条件行に値または代替パラメータを入力し、[Enter]を押して行を保存します。

 **ノート:**

フォーマットの代替パラメータは<%ParamKey%>で、<%および%>は実行時の代替変数を示す識別子で、ParamKey は代替に使用するパラメータの名前です(例: <%AccountType%>)。カッコを含めることにより、基準をグループ化したり、プロパティに継承値を含めるかどうかを定義できます。演算子の説明は、[演算子の説明](#)を参照してください。

 **ヒント:**

 をクリックし、行を変更します。行を削除するには、 をクリックします。行を移動するには、矢印をクリックします。

9. 「リム/リーフ・フィルタ」から、追加するノードを選択します。
10. 「列」タブを選択し、「カテゴリ」を選択します。
11. 比較結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。

 **ノート:**



列選択はランタイム・パラメータであり、比較とともに保存されません。

 **ヒント:**

「選択済」リストでは矢印を使用して列の位置を決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

12. **オプション:** プロパティ比較のフィルタ基準で参照されるプロパティを自動的に含めるには、「**比較/フィルタのプロパティを含める**」を選択します。

13. 次のいずれかを行います:

-  をクリックして比較を保存します。  
比較の名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準比較を作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- 比較を実行するには、 をクリックします。

## 比較結果の操作

比較を実行する前に選択した表示オプションに応じて、結果は、リスト、ツリーまたはその両方に表示され、横並びで表示されます。

### リスト・ビューでのナビゲート

リストに表示される比較結果には、比較基準を満たすノードのみが表示されます。「ノード」メニューから、次のオプションを選択できます。





- **取得** - ノードをクリップボードにコピーし、ここから別の場所へのノードの挿入、移動、順序変更、またはノードのプロパティの貼付けを行うことができます。
- **ノードに移動:** ツリー・ビューで選択したノードに移動できます。
- **フィルタ行の表示:** リストをフィルタするために使用できる空の行を開きます。
- **プロパティ:** 「プロパティ」タブにノード・プロパティを表示します。

### ツリー・ビューでのナビゲート

「ツリー」タブには、マークされたノードが、行の左側に青いチェックマークが付いた状態で表示されます。

マークされたノードとして表示される比較結果の場合、比較基準を満たす各ノードの横に青いチェックマークが表示された状態で両方の階層ツリーが表示されます。

表 10-1 ツリー・ビュー・ツールバー・ボタン

ツールバー・ボタン	説明
	選択したノードの親にナビゲートします。
	前に選択したマークされているノードにナビゲートします。
	ツリーを展開して、指定したレベルのすべてのノードを表示します。
	マークされている次のノードにナビゲートします。
	ツリーを展開して、マークされているノードを表示します。
	マークされているノードをクリアします。

### バージョン間でのノードの移動

比較結果ページでは、ノードをドラッグすることによってバージョン間でノードをコピーできます。

ノードを別のバージョンに移動するには:


1. 移動するノードを選択し、新しい場所にドラッグします。
2. 「ノードを配置」ダイアログ・ボックスで、オプションを選択します。
  - **子として配置:** 選択したノードを子ノードとして追加します。
  - **兄弟として追加するか順序変更します:** ノードを兄弟ノードとして追加するか、階層内のノードの順序を変更します。
3. ノード・プロパティをコピーするためのオプションを選択します。
  - プロパティをコピーしない
  - グローバル・プロパティのコピー
  - ローカルおよびグローバル・プロパティのコピー
4. **オプション:** ノードの子孫をコピーに含めるには、「子孫を含む」を選択します。
5. **オプション:** コピーする追加ノードに同じ設定を使用するには、「この設定をデフォルトとして使用」を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

### 比較結果のダウンロード

リスト・ビューおよびツリー・ビューから、比較結果を次のファイル・タイプにダウンロードできます。

- Portable Document (PDF)
- Rich Text Document (RTF)
- スプレッドシート(XLS)



 ノート:

リスト・ビューでは、CSV ファイルにダウンロードすることもできます。

ツリー・ビューで比較結果をダウンロードするには:

1. 「ダウンロード」から、ファイル・タイプを選択します
2. 「保存」をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「保存」をクリックします。



## 比較の管理

保存した比較はオープン、コピーおよび削除できます。

### 比較のオープン

既存の比較はオープンおよび変更できます。比較は実行する前に開く必要があります。

比較をオープンおよび実行するには:

1. 「ホーム」ページで、「比較」を選択し、開く比較を選択します。
2.  をクリックします。
3. タブを選択して比較パラメータを変更し、 をクリックして比較を実行します。

### 比較のコピー

比較をコピーするには:

1. 「ホーム」ページで、「比較」を選択し、コピーする比較を選択します。
2. 「比較」から「コピー」を選択します。
3. 新しい名前と説明を入力します。
4. 「オブジェクト・アクセス・グループ」から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準比較を作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
5. 「OK」をクリックします。

## 比較の移動

オブジェクト・アクセス・グループから別のオブジェクト・アクセス・グループに比較を移動できます。

### ノート:

移動アクションは、グループに対するオブジェクトの管理権限を持つユーザーにのみ使用可能になります。

比較を移動するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**比較**」 を選択し、移動する比較を選択します。
2. 「**比較**」 から、「**移動**」 を選択します。
3. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」 から、別のグループを選択し、「**OK**」 をクリックします。

## 比較の削除

比較を削除するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**比較**」 を選択し、削除する比較を選択します。
2. 「**比較**」 から「**削除**」 を選択します。

### ノート:

比較が別のオブジェクトによって使用されている場合は、この比較を使用しているオブジェクトのリストとともにプロンプトが表示されます。削除を続けるか削除を取り消すかを選択できます。

# 11

## アクション・スクリプトの操作

アクション・スクリプトを使用すると、大量の増分変更を自動方式で処理できます。スクリプト内の各レコードは、実行対象の個別アクションを表し、他のアクションとは別個に処理されます。同じスクリプトに異なるタイプのアクションをグループ化できます。アクション・スクリプトが特に役立つのは、複数のバージョン、階層またはノードに対して同じアクション・セットを実行する必要がある場合です。スクリプトの実行時、アクション・スクリプト・ページから移動し、その後ページに戻って結果を表示できます。アクション・スクリプトの結果を表示することもできます。

### ▲ 注意:

アクション・スクリプトを実行する場合、アクション・スクリプトの日時値として予期されるフォーマットを定義するために、クライアント・セッションの地域設定が使用されます。これらの設定が検出されない場合、サーバーの地域設定が使用されます。たとえば、セッションの地域設定で日付を `dd.mm.yyyy` としてフォーマットするよう指定されている場合、アクション・スクリプトで使用されるデータはこのフォーマットにする必要があります。そうでない場合、情報が表示されないか正しく表示されません。

## アクション・スクリプト・パラメータ

各フラット・ファイル列の各アクションによって使用されるパラメータは、次のとおりです。

表 11-1 アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>Activate</b> 階層内で指定したノードをアクティブ化します。	バージョン	階層	ノード				

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>Add</b> 指定したノード(またはドメイン・ノード)を指定した階層に追加します(このアクションを使用できるのは、指定したバージョン内にまだ存在しないノードに対してのみです)。	バージョン	階層	ノード	親ノード	リーフ・プロパティ	説明 ドメイン・ノードを追加する場合は必須	ドメイン ドメイン・ノードを追加する場合は必須
<b>AddDomainToVersion</b> バージョンにドメインを追加します。	バージョン	ドメイン					
<b>AddHierarchy</b> バージョンに階層を追加します。	バージョン	階層	説明	最上位ノード			
<b>AddInsert</b> 指定したノード(またはドメイン・ノード)が指定したバージョンにまだ存在しない場合、このノードを追加します。そうでない場合、このノードは挿入されます。	バージョン	階層	ノード	親ノード	リーフ・プロパティ ノードを追加する場合はのみ必須	説明 ドメイン・ノードを追加する場合は必須	ドメイン ドメイン・ノードを追加する場合は必須
<b>AddOrphan</b> バージョンに孤立ノード(またはドメイン・ノード)を追加します。	バージョン	ノード	リーフ・プロパティ	説明 ドメイン・ノードを追加する場合は必須	ドメイン ドメイン・ノードを追加する場合は必須		

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>Annul</b> 指定したノードを無効化します。	バージョン	階層	ノード				
<b>AnnulAllBelow</b> 指定したノードに続くすべてのノードを無効化します。	バージョン	階層	ノード				
<b>AssignHierValidations</b> 階層レベルで検証を割り当てます。	バージョン	階層	検証				
<b>AssignNodeToDomain</b> ノードをドメインに割り当て	バージョン	ノード	ドメイン				
<b>AssignVersionValidations</b> バージョン・レベルで検証を割り当てます。	バージョン	検証					
<b>ChangeHierarchyTopNode</b> 指定した階層の最上位ノードを変更します。	バージョン	階層	新規最上位ノード				
<b>ChangeProperty</b> 指定したノードの指定したプロパティの値を更新します。	バージョン	階層	ノード	プロパティのラベルまたは名前 「ラベル別のプロパティ参照」オプションによって制御されます。	値		

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>ClearProps Below</b> 指定したノードのすべての子に指定したプロパティの値をクリアします(Oracle Data Relationship Management 内のユーザーが使用できる「下をすべてクリア」コマンドに相当します)	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル			
<b>Delete</b> 指定したノードをバージョンから削除し、マージ・ノード(指定されている場合)とマージします。	バージョン	階層	ノード	(マージ・ノード)			
<b>DeleteHier</b> バージョンから階層を削除します。	バージョン	階層					
<b>DeleteOrphan</b> 孤立ノードを削除します。	バージョン	ノード					
<b>Destroy</b> 指定したノードをバージョンから破棄します。	バージョン	階層	ノード				

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>Inactivate</b> 階層内で指定したノードを非アクティブ化し、マージ・ノード(指定されている場合)とマージします。	バージョン	階層	ノード	(マージ・ノード)	(ドメイン・ノードの非アクティブ日)		
<b>Insert</b> 指定したノードを指定した階層に挿入します(このアクションを使用できるのは、指定したバージョン内の別の階層にすでに存在するノードに対してのみです)。	バージョン	階層	ノード	親ノード			
<b>LockProp</b> 指定したノードの指定したプロパティをロックまたはロック解除します。	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル	ロック済である (0=false、1=true)		
<b>Move</b> 階層内の指定したノードを移動します。	バージョン	階層	ノード	宛先親ノード			
<b>NodeExists</b> 指定したノードが指定したバージョン内に存在する場合は True を返し、そうでない場合は False を返します。	バージョン	ノード					

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>NodeExistsInHier</b> 指定したノードが指定した階層内に存在する場合は <b>True</b> を返し、そうでない場合は <b>False</b> を返します。	バージョン	階層	ノード				
<b>NodeHasAsParent</b> 指定した親ノードが指定したノードの親である場合は <b>True</b> を返し、そうでない場合は <b>False</b> を返します。	バージョン	階層	ノード	親ノード			
<b>PropCompare</b> 指定したノードの指定したプロパティの値が、フラット・ファイルにリストされている値と等しい場合は <b>True</b> を返し、そうでない場合は <b>False</b> を返します。	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル	値		
<b>PropQuery</b> アクション・スクリプト結果セットに指定したノードの指定したプロパティの値を返します。	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル			



表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>Rem</b> フラット・ファイル内の備考/コメント行を示します(文書化を目的としてこの行の他の列に任意のテキストを入力できますが、これはアクション・スクリプト・プロセスによって無視されます)。	備考	備考	備考	備考	備考		
<b>Remove</b> 指定したノードを階層から除去します。	バージョン	階層	ノード				
<b>RemoveDomainFromVersion</b> バージョンからドメインを除去します。	バージョン	ドメイン					
<b>RemoveDuplicateProps</b> 指定したノードの重複プロパティを除去(クリア)します (Data Relationship Management 内のユーザーが使用できる「重複の除去」コマンドに相当します)。	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル			

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>RemoveHierPropValue</b> 階層プロパティの値を除去(クリア)します。	バージョン	階層	プロパティ・ラベル				
<b>RemoveProp</b> 指定したノードの指定したプロパティの値を除去(クリア)します(プロパティ自体は、他の多くのノードがこのプロパティを使用している可能性があるため、削除されません)。	バージョン	階層	ノード	プロパティ・ラベル			
<b>RemoveVersionPropValue</b> バージョン・プロパティの値を除去(クリア)します。	バージョン	プロパティ・ラベル					
<b>SetControlledProperties</b> 1つ以上のプロパティの制御階層を設定します。	バージョン	階層	プロパティ・リスト				
<b>UpdateHierPropValue</b> 階層プロパティの値を更新します。	バージョン	階層	プロパティ・ラベル	値			

表 11-1 (続き) アクション・スクリプト・パラメータ

アクション名	Param1	Param2	Param3	Param4	Param5	Param6	Param7
<b>UpdateVersionProperty</b> 階層バージョンの値を更新します。	バージョン	プロパティ・ラベル	値				

## フラット・ファイルからのアクション・スクリプトのロード

アクション・スクリプトは、指定されたフラット・ファイルから行を読み取ります。各フラット・ファイル行には、**Data Relationship Management** で実行されるアクションが定義されています。各行が読み取られ、適切なアクションが順番に実行されます。行ごとにステータス・メッセージが表示されます。詳細は「戻り値」列に表示されます。


フラット・ファイルからアクション・スクリプトをロードするには:

1. 「ホーム」 ページで、「スクリプト」 を選択します。
2. 「ソース・タイプ」 から、「ファイル」 を選択します。
3. 「参照」 をクリックし、アクション・スクリプトに使用されるフラット・ファイルを選択します。
4. 次のオプションのいずれかを選択します。
  - **列順序**--矢印を使用して、フラット・ファイル内の 6 つの必須列の順序をカスタマイズします。
  - **文字エンコード**--エンコード・オプションの 1 つを選択します。
  - **区切り文字**--フラット・ファイル内で使用される列区切り文字を選択します。
  - **引用符で囲まれた文字列を削除**--引用符を除去する場合に選択します。
  - **ラベル別のプロパティ参照**--名前かわりにプロパティ・ラベルを使用する場合に選択します。

### ▲ 注意:



一意のラベルがないプロパティを参照する場合、スクリプトのロード中に適切なプロパティを選択するために追加情報が必要になります。

- **デフォルト**--すべてのオプションをデフォルト設定にリセットする場合にクリックします。
5. 「ロード」 をクリックします。
  6. ロードが完了したら、スクリプト・アクションおよびパラメータ値を確認します。次が可能です:

-  をクリックし、行を変更します。
- 「スクリプト」、「代替バージョン」の順に選択し、バージョンを変更します。置換されるバージョンと置換するバージョンを選択し、「OK」をクリックします。
- 列ヘッダーをクリックし、アルファベット順にソートします。


 **ノート:**

スクリプトは引き続きロードされたときの順序で処理されます。この順序は「順序」列に示されます。

-  をクリックし、1 つ以上の列をフィルタします。
  -  をクリックし、プロパティをラベル別と名前別のどちらで表示するか切り替えます。
7. 実行する各行の横にある「処理」列でチェック・ボックスを選択します。

 **ノート:**

「スクリプト」メニューで「すべて選択」を使用すると、すべてのアクションを処理できます。スクリプトからアクションのサブセットを選択すると、これらのアクションのみを処理できます。

8.  をクリックし、アクション・スクリプトを実行します。

各スクリプト・アクションの結果は、「ステータス」および「結果の値」列に表示されます。スクリプトと結果は、「スクリプト」メニューの「ダウンロード」オプションを使用してファイルに保存できます。[アクション・スクリプト結果のダウンロード](#)を参照してください。

### アクション・スクリプト結果のダウンロード

アクション・スクリプト結果は、次のファイル・タイプにダウンロードできます。

- アクション・スクリプト・ファイル(TSV)
- カンマ区切りのファイル(CSV)
- タブ区切りのファイル(TSV)
- Portable Document Format (PDF)
- Rich Text Document (RTF)
- スプレッドシート(XLS)

アクション・スクリプトの結果は、ダウンロードする前にフィルタリングできます。たとえば、「失敗」を使用してステータス・フィールドをフィルタリングして、ロードに失敗した行のみを表示できます。

アクション・スクリプト結果をダウンロードするには:

1. 「スクリプト」から「ダウンロード」を選択し、ファイル・タイプを選択します。
2. 「保存」をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「保存」をクリックします。

## トランザクション・ログからのアクション・スクリプトのロード

トランザクション・ログ問合せから返されるランザクション・ログからアクション・スクリプトをロードできます。多くの場合、トランザクション・ログから作成されるアクション・スクリプトを使用して、バージョン間で手動で行われる変更を自動化します。




トランザクション・ログからアクション・スクリプトをロードするには:

1. 「ホーム」ページで、「スクリプト」を選択します。
2. 「ソース・タイプ」から、「トランザクション・ログ」を選択します。
3. 「ソース」タブで、次を実行します。
  - ソース・バージョン、階層およびノードを選択します。
  - システム・トランザクション、データ・トランザクション、またはその両方を返すかどうかを選択します。

### ノート:


データ・トランザクションを選択する場合、バージョン、階層およびノードを選択できます。

4. 「フィルタ」タブで、次のオプションから選択します。
  - **レベル:**  をクリックし、フィルタ対象のアクション・レベルを指定します。
    - **コア:** バージョン・データへの変更を示すアクションを含めます(メタデータ・オブジェクトは含めません)。
    - **ログ済:** 実行されたが結果としてデータの追加、変更または更新は行われなかったシステム・アクティビティを示すアクションを含めます。
    - **損失:** ノードの削除などのコア・アクションが原因で失われたデータを格納するトランザクション履歴レコードを含めます。
    - **結果:** コア・アクションに関連付けられた(コア・アクションの結果である)アクションを含めます。
    - **管理:** メタデータ・オブジェクトに影響するアクションを含めます(バージョン関連のデータは含めません)。
  - **アクション:**  をクリックし、フィルタ対象のトランザクション・ログ・アクション・タイプを指定します。
  - **プロパティ:**  をクリックし、フィルタ対象のプロパティのリストを指定します。
  - **ユーザー:**  をクリックし、フィルタ対象のユーザーを指定します。

- **子ノードを含める**: 選択し、問合せによって返されたノードの子ノードを含めます。
  - **共有ノードを含める**: 選択し、問合せによって返されたノードの共有ノードを含めます。
  - **開始日**: 選択し、開始日を入力します。
  - **終了日**: 選択し、終了日を入力します。
  - **現在のセッションへのフィルタ**: 選択し、フィルタ処理し、現在のセッション中に実行されたトランザクションのみに限定します。
  - **開始トランザクション**: 選択し、開始トランザクション ID を入力します。
  - **終了トランザクション**: 選択し、終了トランザクション ID を入力します。
  - **最大レコード数**: 表示されるトランザクションの数を制限するための値を入力します。
5. 「ロード」をクリックします。
6. ロードが完了したら、スクリプト・アクションおよびパラメータ値を確認します。次が可能です:
-  をクリックし、行を変更します。
  - 「スクリプト」、「代替バージョン」の順に選択し、バージョンを変更します。置換されるバージョンと置換するバージョンを選択し、「OK」をクリックします。
  - 列ヘッダーをクリックし、アルファベット順にソートします。
  -  をクリックし、1 つ以上の列をフィルタします。
  -  をクリックし、プロパティをラベル別と名前別のどちらで表示するか切り替えます。
7. 実行対象の各行の横にある「処理」列のチェック・ボックスを選択します。

 **ノート:**

「スクリプト」メニューで「すべて選択」を使用すると、すべてのアクションを処理できます。スクリプトからアクションのサブセットを選択すると、これらのアクションのみを処理できます。

8.  をクリックし、アクション・スクリプトを実行します。
- 各スクリプト・アクションの結果は「ステータス」および「結果の値」列に表示されます。スクリプトと結果は、「スクリプト」メニューの「ダウンロード」オプションを使用してファイルに保存できます。

# ノード・モデルからのアクション・スクリプトのロード

既存のノードのモデルからアクション・スクリプトをロードできます。このタイプのスクリプトを使用すると、新規ノードを作成し、これを複数の階層に挿入し、既存のノードの関係および属性に基づいてプロパティ値を定義できます。

ノード・モデルからアクション・スクリプトのロードするには:

1. 「ホーム」 ページで、「スクリプト」 を選択します。
2. 「ソース・タイプ」 から、「ノード・モデル」 を選択します。
3. 「ソース」 タブで、次を実行します。
  - a. ソース・バージョンを選択します。
  - b. 次のいずれかを実行し、ノードを選択します。
    - をクリックし、ノードを選択し、「OK」 をクリックします。
    - **モデルにするノード** にノード名を入力し、「フェッチ」 をクリックします。

## ノート:



フェッチにより、選択したノードのプロパティ値も取得されます。

- c. チェック・ボックスを使用して、アクション・スクリプトに含めるノードのインスタンスを選択します。
4. 「プロパティ」 タブの「プロパティのコピー」 で、ノード・モデルからコピーするプロパティを選択します。
    - **なし**--プロパティはコピーされません。
    - **上書き済**--上書きされたプロパティ値のみがコピーされます。
    - **選択済**--選択したプロパティのみがコピーされます。

## ノート:

「**選択済**」 の場合、 をクリックして、プロパティを選択するプロパティ・セレクタを表示します。

- **すべて**--すべてのプロパティがコピーされます。
5. 次を実行します:
    - ステップ 4 の選択内容に基づいてアクション・スクリプトに含めるグローバル・プロパティ値を表示するには、「**グローバル・プロパティ**」 タブを選択します。
    - ステップ 4 の選択内容に基づいて各階層から含めるローカル・プロパティ値を表示するには、「**ローカル・プロパティ**」 タブを選択して階層を選択します。必要に応じて、変更を行います。

6. 「ターゲット」タブで、次を実行します。
  - 新規ノードのターゲット・バージョンを選択します。
  - 新規ノードの名前を入力します。
  - 新規ノードの説明を入力します。
7. 「ロード」をクリックします。
8. ロードが完了したら、スクリプト・アクションおよびパラメータ値を確認します。次が可能です:
  -  をクリックし、行を変更します。
  - 「スクリプト」、「代替バージョン」の順に選択し、バージョンを変更します。置換されるバージョンと置換するバージョンを選択し、「OK」をクリックします。
  - 列ヘッダーをクリックし、アルファベット順にソートします。
  -  をクリックし、1つ以上の列をフィルタします。
9. 実行する各行の横にある「処理」列でチェック・ボックスを選択します。

 ノート:

「スクリプト」メニューで「すべて選択」を使用すると、すべてのアクションを処理できます。スクリプトからアクションのサブセットを選択すると、これらのアクションのみを処理できます。

10.  をクリックし、アクション・スクリプトを実行します。

各スクリプト・アクションの結果は「ステータス」および「結果の値」列に表示されます。スクリプトと結果は、「スクリプト」メニューの「ダウンロード」オプションを使用してファイルに保存できます。



# 12

## インポートの操作

Oracle Data Relationship Management を使用すると、外部システムまたはリレーショナル・データベース表およびビューから抽出されたデータ、または複数セクションのテキスト・ファイル・フォーマットを使用してユーザーによって手動で作成されたデータをインポートできます。インポートは常に、インポート・プロセスの一部として作成された空の新規バージョンに対して実行されます。この方式を使用すると、データが正しくインポートされたことを検証し、データをデータベースに保存したり他のバージョンのデータとマージする前に問題を解決できます。データを検証した後、ブレンダを使用して、インポートしたデータを、他のソースから生成されたデータと結合できます。

### ▲ 注意:

インポートを実行する場合、インポート対象の日時値として予期されるフォーマットを定義するために、クライアント・セッションの地域設定が使用されます。これらの設定が検出されない場合、サーバーの地域設定が使用されます。たとえば、セッションの地域設定で日付を `dd.mm.yyyy` としてフォーマットするよう指定されている場合、インポートで使用されるデータはこのフォーマットにする必要があります。そうでない場合、情報が表示されないか正しく表示されません。

インポートをカスタマイズおよび保存できるのは、アプリケーション管理者、データ・マネージャおよびデータ作成者の役割を持つユーザーです。

## インポート・セクション

インポートは、最大 5 つのセクションで構成されています。各インポート・セクションは、特定粒度の一連のソース・データに対応します。インポート・セクションの全レコードの列数は、同一にする必要があります。ソース・ファイルのインポート・セクションは、接頭辞、ラベルおよび接尾辞で構成された一意のセクション・ヘッダーで識別されています。インポート・セクションは、同じタイプの複数のセクションで構成できますが、タイプが同一のすべてのセクションで列数を同じにする必要があります。データベース・ソースの場合、各インポート・セクションは単一のデータベース表またはビューにマップされています。

表 12-1 インポート・セクション

インポート・セクション	説明
バージョン	新規バージョンのプロパティ値 このインポート・セクションは、インポートで作成された新しいバージョンの名前または説明を、実行ごとに変える場合や、バージョン・プロパティ値をロードする場合にのみ必要です。 必須列: 「バージョン名」

表 12-1 (続き) インポート・セクション

インポート・セクション	説明
階層	インポート・プロセス、その最上位ノード、および各階層のプロパティ値により作成される階層 このセクションは、階層関係を使用してノード同士を関連付ける際に必要です。 <i>必須列: 「階層名」、「最上位ノード」</i>
ノード	各ノードのインポート・プロセスおよびグローバル・ノードのプロパティ値により作成されるノード 階層に関連付けられていないノードは、新しいバージョンに孤立としてインポートされます。 <i>必須列: 「ノード名」</i>
関係	階層内のノード間の親子関係、および子ノードのグローバルまたはローカル・ノードのプロパティ値 このセクションは、階層関係を使用してノード同士を関連付ける際に必要です。インポートされる階層の最上位ノードに直接または間接的に関連付けられているノードは、挿入によってノードのインスタンスが重複する場合を除き、階層に挿入されます。 <i>必須列: 親ノード名、「ノード名」</i>
階層ノード	指定した階層に固有のローカル・ノード・プロパティ値 このセクションを使用する場合は、階層インポート・セクションが必要です。 <i>必須列: 「階層名」、「ノード名」</i>

### 例 12-1 ファイルのインポート例

```
[version]
My Version
[hier]
Balance Sheet,BALSHEET
[node]
1000,Assets
2000,Liabilities
3000,Equity
[relation]
BALSHEET,1000
BALSHEET,2000
BALSHEET,3000
```

### 引用符で囲まれた文字列とフォーマットの保持

インポート・プロセスは引用符で囲まれた文字列、タブおよびキャリッジ・リターンのフォーマットを保持できます。引用およびフォーマットを保持するセクションの場合、インポート・ファイル内のセクション全体を引用符で囲みます。セクション内の引用符で囲まれたアイテムの場合、さらに引用符で囲む必要があります。インポート

での引用符で囲まれた文字列の処理は、「引用符で囲まれた文字列を削除」パラメータによって有効化されます。引用符で囲まれた文字列の処理および削除を有効にするには、このオプションを選択する必要があります。

たとえば、次のセクション内のフォーマットおよび引用符で囲まれた文字列を保持する場合:

```
IF (@ISMBR("Plan") AND @ISMBR(&NextYear))
    "Units"->"P_TP1"->"YearTotal" / "Avg Order Size" / "Close Rate" * "Travel
    %";
ELSEIF (@ISMBR("Forecast") AND @ISMBR(&NextYear))
    "Units"->"P_TP1"->"Rolling" / "Avg Order Size" / "Close Rate" * "Travel %";
ENDIF
```

次のように引用符を追加します:

```
"IF (@ISMBR("Plan") AND @ISMBR(&NextYear))
    ""Units""->"P_TP1"->"YearTotal" / ""Avg Order Size"" / ""Close Rate"" *
    ""Travel %"";
ELSEIF (@ISMBR("Forecast") AND @ISMBR(&NextYear))
    ""Units""->"P_TP1"->"Rolling" / ""Avg Order Size"" / ""Close Rate"" *
    ""Travel %"";
ENDIF"
```

#### ノート:

セクションで一重引用符が使用されている場合、それらのアイテムを一重引用符でさらに囲みます。

## 代替パラメータの使用

代替パラメータをインポート・プロファイルに定義して、実行時にユーザー定義値をインポート・プロセスに渡すことができます。次のインポート・オプションでは、代替パラメータを使用できます。



- 孤立階層名
- 孤立階層の説明
- 孤立階層の最上位ノード名
- 孤立階層の最上位ノードの説明
- 孤立階層の一意の名前の接頭辞
- インポート時にノードをスキップ

代替パラメータのフォーマットは<%ParamKey%>で、<%および%>は代替パラメータを指し、ParamKey は代替に使用するパラメータの名前です。例: <%TopNode%>。

## インポートの作成

インポート・ウィザードを使用して、インポートのパラメータおよび基準を定義します。ウィザードのコンテンツは、入力をサポートする「ソース」、「スタイル」、「フィルタ」、「列」および「ターゲット」タブにわたって編成されています。ウィザードのタブは入力を順番に収集するよう順序付けられていますが、任意のタブ間でナビゲートできます。

インポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**インポート**」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. **オプション**: 実行時にユーザー定義値を問合せフィルタに渡すために、インポートの代替パラメータを作成します。
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<% "または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」 をクリックします。
4. 「**ソース**」 タブで、「**デバイス**」 リストからインポート・ソースを選択します。
    - 「**クライアント・ファイル**」 を選択した場合、「**参照**」 をクリックし、インポート・ファイルにナビゲートして選択します。


### ノート:

クライアント・ファイルはインポートでは保存されず、代替実行のために再び選択する必要があります。

- 「**サーバー・ファイル**」 を選択した場合、接続およびファイル名を選択します。

### ノート:

サーバー・ファイルは、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリのものが使用されます。

- 「**データベース**」 を選択した場合は、次を行います:
  - a. 「**接続**」 で、データベースに対する外部接続を選択します。
  - b.  をクリックして接続をテストします。

- c. インポート・セクションごとに、インポート元のデータベース表またはビューを選択します。
- d. **オプション:** インポートが正常に完了したときに、ソース接続からロードされたデータベース・レコードをクリアするには、「**インポートされたレコードを処理後にクリア**」を選択します。

 **ノート:**

「インポートされたレコードを処理後にクリア」オプションはソース表にのみ適用されます。フィルタ目的で使用される制御表には適用されません。

- e. ステップ 6 に進みます。

5. 次の「**インポート・セクション**」オプションから選択します:

- **接頭辞区切り文字:** セクション見出しの先頭に表示される文字。
- **接尾辞区切り文字:** セクション見出しの最後に表示される文字。接尾辞区切り文字はオプションです。
- インポート・ソース内のセクション見出しを選択し、セクション見出しのテキストを入力します。

 **ノート:**

デフォルトでは、インポート・セクションはすべて選択されています。インポート・ソース内にはないセクションの選択は解除してください。

6. 「**ファイル・フォーマット**」オプションを選択します。

- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **引用符で囲まれた文字列を削除**—インポート・ファイル内の引用符で囲まれた文字列を処理し、データのインポート時に引用符を除去する場合に選択します。

 **ノート:**

一重引用符(')および二重引用符(")が除去されます。両方のタイプの引用符が同時に使用されている場合、外側の引用符セットのみが削除されます。

- 「**固定幅**」または「**区切り**」: 「区切り」の場合、区切り文字を入力します。「固定幅」の場合、「**列**」タブの「**列のオプション**」に固定幅の列値を入力します。
- クライアントまたはサーバー・ファイルの場合: **ファイル内でスキップする先頭の行数** — スキップするファイルの先頭からの行数を入力します。
- クライアントまたはサーバー・ファイルの場合: **ファイルにセクション・ヘッダーがありません** — 1 セクションのみインポートする場合に選択します。1 つのインポート・セクションが選択されている場合にのみ使用可能です。ソース・ファイルにセクション見出しが含まれていない場合に選択します。

7. 「スタイル」タブを選択して次のセクションからオプションを選択します:

- **ノード・オプション**

- **インポート・プロセスの最後にリーフ・ノードを指定** - インポート・プロセスの最後に子のない任意のノードに対してリーフ・プロパティを自動的に True に設定するよう指定する場合に選択します。

 **ノート:**

このオプションの場合、インポートしたデータの 2 回目の受渡しが必要であり、処理時間が長くなる可能性があります。このオプションを選択しない場合、インポートしたデータの「ノード」または「関係」セクションの列としてリーフ・プロパティが指定されていないかぎり、すべてのノードがリム・ノードとしてインポートされます。

- **ノード名の無効な文字の適用** - InvName システム・プリファレンスに基づいてノード名を検証する場合に選択します。
- **関係のソート--関係のソート** - インポート時に、ノードがソース・ファイルまたはデータベース表の関係セクションに表示される順序に基づいてノードをソートし、次のアクションの両方を完了する場合に選択します。
  - **伝播するソート・プロパティ** - ソート順を格納するノード・プロパティを選択します。
  - **ソートされる階層**: ソートを適用する階層を入力します。階層をカンマで区切るか、個別の行に入力します。

 **ノート:**

ここで指定しないかぎり、デフォルトではすべての階層がソートされます。

- **階層オプション**--インポート時に作成されるすべての階層に対して次の情報を指定します:
  - **割り当てるノード・タイプ・プロパティ**--インポートから作成される各階層の階層ノード・タイプ・プロパティに割り当てられるノード・タイプ・プロパティを選択します。
  - **割り当てる検証**--インポートから作成される階層に割り当てる検証を選択します。
  - **区切り文字の複製**--インポート中に重複が発生した時に一意の修飾子名からベース階層名を区切るために使用される文字を入力します。
- **ドメイン・オプション**--オプションを選択し、インポートでドメイン名を修飾する方法を指定します。
  - **なし** - ドメイン名は使用されません
  - **ドメインの選択** - ドメイン内のすべてのノードを修飾します

 **ノート:**

このオプションを選択する場合、ドロップダウン・リストからドメイン名を選択します。

- **インポート列の選択** - 選択した列に基づいてノードを修飾します。ステップ 9 から 11 を参照してください。

 **ノート:**

ノード名を修飾すると、指定したドメインの修飾子テキストが追加されます。このノードはドメインに割り当てられません。

- **重複する処理**

- **ノード名の最後に一意のテキストを追加:** 元のノード名の最後に名前の一意の部分を追加する場合に選択します。

 **ノート:**

このオプションを選択する場合、「一意の文字列」、「区切り文字」、「一意の ID シード」および「ゼロ・パディング長」パラメータを使用して、重複ノードの命名ルールを作成します。元のノード名の最後に名前の一意の部分が追加されます。選択しない場合、名前の一意の部分は先頭に接頭辞として追加されます。たとえば、001NodeA、002NodeA などです。

- **一意の文字列:** 一意の新規ノード名の一部を形成するために使用する文字列を入力します。
- **区切り文字:** 名前の一意の部分から元のノード名を区切るために使用する区切り文字を入力します。
- **一意の ID シード:** この ID の開始ポイントを選択します。

たとえば、NodeA が階層内で 3 回使用されており、一意の ID シードが 1 である場合、元のノードは変更されず、他のノード名は NodeA1 および NodeA2 に置き換えられます。この例では、一意の ID シードの使用について説明するために他の重複設定は無視しています。

- **ゼロ・パディング長:** 重複名の一意の ID 部分に必要な最小桁数を入力します。  
たとえば、ゼロ・パディング長の値を 3 にすると、NodeA001、NodeA002 などの名前重複ノードが作成されます。値を 2 にすると、NodeA01、NodeA02 などの名前重複ノードが作成されます。
- **関連付けられているプロパティ:** インポートの完了後に簡単に問合せできるように重複ノードのグループ化を可能にするプロパティを選択します。


関連付けられているプロパティが設定されると、このプロパティには、すべての重複ノード内の元のノードのノード名が移入されます。このオプションは、グローバルな関連グループ(AscGroup)プロパティを参照する必要があります。

- **重複エラー・モード:** インポート・プロセッサが重複を処理する際の重要度を決定するモードを選択します。
  - \* **警告の生成:** 各重複のログに警告メッセージが追加されます。
  - \* **エラーの生成:** 各重複のログにエラー・メッセージが追加されます。

 **ノート:**

エラーの数が「最大エラー数」の値(「ターゲット」タブ上)を超えると、処理は中止されます。

- **孤立オプション**--インポートによって生成された孤立の処理方法を選択します。

 **ノート:**


孤立ノードから階層を作成する場合、2つのタイプの孤立が使用されます。

他の孤立ノードの子ではなく、子のない孤立(標準の孤立)

他の孤立ノードの子ではなく、子を持つ孤立(最上位ノードの孤立)

- **ベース孤立階層の作成**—標準の孤立の階層を作成する場合に選択し、階層に次のパラメータを入力します。
    - \* **名前**--孤立階層の名前を入力します。
    - \* **説明**—**オプション:** 孤立階層の説明を入力します
    - \* **最上位ノード名**—孤立階層の最上位ノードの名前を入力します。
    - \* **最上位ノードの説明**—**オプション:** 孤立階層の最上位ノードの説明を入力します。
  - **孤立分岐階層の作成**—最上位ノードの孤立から孤立分岐階層を作成する場合に選択し、次の設定を入力します:
    - \* **最大作成数**—作成する孤立階層の最大数を入力します。
    - \* **一意の名前の接頭辞**—**オプション:** 階層名に付加される接頭辞を入力します。
    - \* **親の階層プロパティ**—有効な階層プロパティを入力します。関係インポート・セクションの親フィールドで値が入力される階層レベル・プロパティを選択します(定義されている場合)。このオプションを「インポート時にノードをスキップ」パラメータとともに使用して、1つの大きい階層から複数の階層を作成します。その後、このプロパティをエクスポートで使用して、それらの階層の最上位ノードの親値を出力できます。
8. 「列」タブで、「セクション」リストからインポート・セクションを選択します。
  9. 「列の選択」タブで、インポート用にインポートで移入されるプロパティを選択し、それらを「使用可能」から「選択済」に移動します。



 **ノート:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。

「列を無視」という名前の特殊列は、インポート時に処理されないようにする必要がある入力ソース内の任意の列のプレースホルダとして使用できます。



 **ヒント:**

クライアントおよびサーバー・ファイルのインポートの場合は、選択したリストの右側にある矢印を使用し、ソース・ファイルで列が存在する順序に基づいて列を配置します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

10. 「列のオプション」タブで、列を階層にマップできます。列名の行をダブルクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。
  - 列の値をすべての階層に適用する場合は、「すべての階層に値を適用」を選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。
  - 「階層リスト」フィールドで、列を適用する各階層の名前を入力します。プロパティ値は、リストに指定されている階層にのみ設定されます。




 **ノート:**

リストされている階層は、インポート・ソースに指定されている階層の名前と一致する必要があります。

- 「ソース」タブで「固定幅」を選択した場合、「固定幅」列に値を入力します。
11. ステップ 7 で「インポート列の選択」ドメイン名修飾方法を選択した場合、「ドメイン・オプション」タブが表示されます。次のセクションを構成できます。
    - 階層: 「最上位ノード」列
    - ノード: 「ノード」列
    - 関係: 「子」および「親」列
    - 階層ノード: 「ノード」列
  12. データベース表からインポートしている場合、「データベース・オプション」タブが表示されます。インポート・セクションごとに、次の列が表示されます:
    - **列**--移入される Oracle Data Relationship Management プロパティの名前を表示します。
    - **ソース・フィールド**--「アクション」列で  をクリックして、セクションのソース・データベース表からフィールドを選択します。  をクリックして変更を保存します。

 **ノート:**

ソース・フィールドは、複数の Data Relationship Management プロパティにマップできます。

- **フィールド・タイプ**--ソース・データベース表のフィールドのデータ型を表示します。
- **長さ**--ソース・データベース表のフィールドの長さを表示します(該当する場合)。
- **順序**--「アクション」列で  をクリックして、インポート前にデータの順序付けに使用されたソース・データベース表からフィールドを選択します。   をクリックして変更を保存します。




13. 「フィルタ」タブで、次のいずれかを行います:




- 特定のプロパティ・タイプの空白値のスキップ
- 特定のプロパティ・タイプのデフォルト値のスキップ
- インポート時にノードをスキップ—これらのノードは、インポート・プロセスで無視されます。

 **ノート:**


空白はスキップし、デフォルト値を使用することにより、インポートしたバージョンのサイズを最小限に抑えることをお勧めします。

14. データベース表からデータをインポートしている場合、次のデータベース・フィルタを使用できます:

- **なし**--インポート中にデータベース・レコードのフィルタは発生しません。
- **制御表**--フィルタを制御するためのソース・データベース表の使用を指定します。制御表に存在するレコードにより、インポート・セクション表のどのレコードをインポートするかが決定されます。
  - a. 「**表のフィルタ**」から、フィルタに使用するソース・データベース表を選択します。
  - b. 「**キー・フィールドのフィルタ**」から、インポート表のデータのフィルタに使用された、指定フィルタ表のフィールドを選択します。
  - c. 「**結合フィールドのフィルタ**」セクションで  をクリックし、フィルタに使用される各インポート・セクション表のフィールドを選択します。   をクリックして変更を保存します。
- **包含リスト**--インポート・セクション表のレコードのフィルタに使用するリテラル値を指定します。
  - a. 「**包含リスト**」セクションで、「**追加**」をクリックし、結合フィールドのフィルタが指定されたすべてのインポート・セクションの表のフィルタとして使用するリテラル値を入力します。

- b. 「**結合フィールドのフィルタ**」セクションで  をクリックし、フィルタに使用される各インポート・セクション表のフィールドを選択します。   をクリックして変更を保存します。

15. 「**ターゲット**」タブで、インポートによって作成される新規バージョンの名前を入力します。
16. 次のオプションから選択します。
- **最大エラー数**--処理中にインポートが停止するまでに発生が許可されるエラーの最大数の値を選択します。
  - **変数に割当て**--インポートしたバージョンを割り当てるバージョン変数を選択します。
  - **バージョンをリポジトリに保存**--新規バージョンをリポジトリに保存する場合に選択します。

17.  をクリックしてインポートを保存します。



インポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準のインポートを作成および編集できるのは、データ・マネージャとアプリケーション管理者ユーザーのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

## インポートの実行、コピー、移動および削除

インポートは、実行、コピー、移動および削除できます。インポートは実行する前に開く必要があります。

インポートを実行するには:

1. 「ホーム」ページで、「**インポート**」を選択し、実行するインポートを選択します。
2.  をクリックします。
3. タブをクリックしてインポート・パラメータを変更し、  をクリックしてインポートを実行します。

インポートをコピーするには:

1. 「ホーム」ページで、「**インポート**」を選択し、コピーするインポートを選択します。
2. 「**インポート**」から「**コピー**」を選択します。
3. インポートの新しい名前と説明を入力します。
4. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。

- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準インポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者の役割を持つユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

5. 「OK」をクリックします。

インポートを移動するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**インポート**」 を選択し、移動するインポートを選択します。
2. 「**インポート**」 から、「**移動**」 を選択します。
3. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」 から、別のグループを選択し、「**OK**」 をクリックします。

インポートを削除するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**インポート**」 を選択し、削除するインポートを選択します。
2. 「**インポート**」 から「**削除**」 を選択します。

## インポート結果の表示

インポートの実行後、画面の下部に結果が表示されます。

インポート結果をダウンロードするには:

1. 「**ダウンロード**」 から、ファイル・タイプを選択します:
  - CSV としてダウンロード
  - PDF としてダウンロード
  - RTF としてダウンロード
  - XLS としてダウンロード
2. 「**保存**」 をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「**保存**」 をクリックします。

# 13

## バージョンのブレンド

Oracle Data Relationship Management では、2 つの異なるバージョンの要素を同じバージョンに結合できます。

ブレндаを使用すると、次のアクションを実行できます。

- 既存の階層に対する追加、移動または削除の処理
- アクティブ化および上位への移動(リーフからリムへ)の処理
- 階層の任意の組合せの操作
- 新規階層の作成
- ソース階層からターゲット階層内のノードへの最上位ノードのマッピング。


ブレндаをカスタマイズおよび保存できるのは、アプリケーション管理者、データ・マネージャおよびデータ作成者の役割を持つユーザーです。

## ブレндаの作成

ブレндаを作成するか開くと、ブレндаは名前付きタブに表示されます。

ブレнда・ウィザードを使用して、ブレндаのパラメータおよび基準を定義します。ウィザードのコンテンツは、入力をサポートする「ソース」、「スタイル」、「フィルタ」、「プロパティ」および「ターゲット」タブにわたって編成されています。ウィザードのタブは入力を順番に収集するよう順序付けられていますが、任意のタブ間でナビゲートできます。

ブレндаを作成するには:


1. 「ホーム」 ページで、「**ブレンド**」を選択します。
2.  をクリックします。
3. 「**ソース**」 タブで、ブレндаのソース・バージョンおよびターゲット・バージョンまたはバージョン変数を選択します。
4. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 「**すべての階層のブレンド**」を選択し、選択したバージョン内のすべての階層をブレンドします。

### ノート:

このオプションを選択する場合、「**すべての階層セットでプロファイルのデフォルトを使用**」オプションが必要です。

- 「**すべての階層のブレンド**」の選択を解除し、「**新規**」をクリックします。
  - a. 「**ソース**」タブで、ブレンド対象の階層と最上位ノードのマッピングを選択します。

- b. 「ターゲット」タブで、次のいずれかを実行します。
  - ソース・バージョンの階層および最上位ノードからターゲット・バージョン内の同じ階層および最上位ノードにマップするには、ドロップダウン・リストから「指定済」を選択し、「ソースと同じ」の使用を選択します。
  - ソース・バージョンの階層および最上位ノードからターゲット・バージョン内の別の階層および最上位ノードにマップするには、ドロップダウン・リストから「選択済」を選択し、ターゲット・バージョン内の階層および最上位ノードを選択します。
- c. オプション: 「ドメイン・オプション」タブで、ドメイン・プロパティを選択します。
- d. 「OK」をクリックします。

 ノート:

「すべての階層セットでプロファイルのデフォルトを使用」を選択すると、すべての階層/最上位ノード・セットでデフォルト値を使用できます。プロパティのプロファイル・デフォルトは、「プロパティ」タブで設定します。このオプションの選択を解除する場合、階層/最上位ノードのペアを選択する際にデフォルトを使用する階層とデフォルトを使用しない階層を選択できます。

5. 「スタイル」タブで、次を実行します。
  - 次の構造オプションから選択します。
    - **構造の処理:** ノードや階層関係などの構造要素をブレンドします。
    - **階層の作成を許可:** ソース・バージョンにのみ存在する階層をターゲット・バージョンで作成します。

 ノート:

このオプションが選択されていないときに、ソースには存在するがターゲットには存在しない階層がある場合、エラーが発生します。

- **リーフの上位への移動を許可:** ソース内に子があるノードをターゲット内のリムに移動します。

 ノート:

ソース内のノードに子があるが、ターゲット内で対応するノードがリーフ・ノード(子が許可されていない最も外側のノード)である場合、このオプションを使用すると、このノードをリム・ステータスに上げることができます。これにより、ソースの子ノードがターゲット内のリム・ノードに追加されます。

- 次のプロパティ・オプションから選択します。
  - **プロパティの処理:** プロパティ 値をブレンドします。
  - **リアルタイム検証を使用不可にする:** ブレンドする前にターゲット・バージョンに対するリアルタイム検証をオフにします。この設定は、ターゲット・バージョンがデタッチされている場合にのみ適用されます。ターゲット・バージョンが(デタッチされずに)保存される場合、この設定にかかわらず検証は引き続き有効になります。

 **ノート:**

リアルタイム検証を使用すると、変更がターゲットに伝播されるのを阻止できます。

- **バージョン検証割当ての処理:** ソースからターゲットへのバージョン・レベル検証の割当てを処理します。
- 「**ドメイン・オプション**」セクションで、オプションを選択することにより、ドメイン名を割り当てる方法を指定します。
  - **なし**--ドメイン名は使用されません。
  - **ドメインの選択**--すべてのノードに割り当てる単一ドメインを指定します。

 **ノート:**

このオプションを選択する場合、すべてのノードに割り当てるドメインを選択します。

- **ドメイン・プロパティの選択**--ドロップダウン・リストからドメイン保持プロパティを選択します。
  - **オプション:** 「**ターゲット・バージョンへのドメインの割当て**」を選択します。
6. 「**フィルタ**」タブで、「プロファイルのデフォルト」タブまたは「階層上書き」タブの次のオプションから選択します。

 **ノート:**

ステップ 3 で「すべての階層セットでプロファイルのデフォルトを使用」を選択した場合は、「プロファイルのデフォルト」タブで選択を行います。任意の階層セットが存在し、いずれの階層もデフォルトを使用しないよう設定されている場合、「階層上書き」タブが有効になります。このタブで各階層セットに対する上書きを指定します。

- **挿入の処理**--ソース階層にのみ存在する任意のノードをターゲット階層に挿入します。
- **除去の処理**--「除去モード」リストおよび「除去インジケータ」リストの設定に応じて、ターゲット階層にのみ存在する任意のノードを除去します。

「**除去の処理**」を選択した場合、次の除去モードのいずれかを選択します。

- **除去**--ノードはブレンド時に即時除去されます
- **マーク**--ノードは後で除去する対象としてマークされます

「除去モード」が「マーク」に設定されている場合、「除去インジケータ」オプションは、ノードが除去対象としてフラグ設定されていることを示す値がどのプロパティに含まれるかを指定します。除去インジケータ・プロパティは、ローカルのブール・プロパティとして作成する必要があります。プロパティの作成の詳細は、*Oracle Data Relationship Management 管理者ガイド*を参照してください。

- **移動の処理**--ソース内で異なる親を持つノードをターゲット内の親に移動します。
  - **アクティブ化の処理**--ターゲットからソースへのノードのアクティブ化(非アクティブ化および再アクティブ化)を処理します。
  - **階層検証割当ての処理**--ソースからターゲットへの階層レベル検証の割当てを処理します。
7. 「**プロパティ**」タブで、「**プロパティ選択**」から、プロパティをブレンドする次のいずれかの方法を選択します。
- **すべての除外検証/アクセス**--すべてのプロパティがブレンドされます;ただし、ノード・レベルの検証や、ノード・アクセス・グループのリーフ・レベルおよびリム・レベルの設定に使用されるプロパティは除きます。
  - **なし**--プロパティはブレンドされません。
  - **選択済**--選択したプロパティがブレンドされます。
8. 「**プロパティ伝播モード**」から、次のいずれかのモードを選択し、ターゲットにプロパティを移入する方法を決定します。

#### ノート:

ステップ 3 で「すべての階層セットでプロファイルのデフォルトを使用」を選択した場合は、「プロファイルのデフォルト」タブで選択を行います。プロファイルのデフォルトを使用することを選択しなかった場合、「階層上書き」タブで選択を行います。

- **強制**--プロパティがノードで定義されたものか、継承されたものか、または導出されたものかとは関係なく、プロパティはターゲット内のすべてのノードに割り当てられます。
  - **差分**--プロパティをターゲットに移入する方法とは関係なく、値が異なる任意のノードに対してプロパティを移入します。
  - **定義済**--プロパティがブレンドされるのは、ソース内のノードに明確に定義されている場合のみです。
9. **オプション:** ソース内の継承ロックをターゲットにブレンドする場合は、「**プロパティ・ロックの伝播**」を選択します。
10. 「**ターゲット**」タブで、ターゲット・バージョンを選択します。



- **選択したターゲットの使用**--選択したターゲット・バージョンに変更をブレンドします。
- **新規バージョンにコピー**--選択したターゲット・バージョンのコピーに変更をブレンドします。

 **ノート:**

このオプションを選択する場合、新規バージョンの名前および説明を指定する必要があります。

11. 「**最大反復数**」に値を入力します。

 **ノート:**

この値により、ソース・バージョンとターゲット・バージョンの調整時にブレンダによって実行される最大試行回数が決まります。これにより、解決できない競合が発生した場合にブレンダが無限に実行されることを阻止します。推奨値は 3 です。


12. 「**最大エラー数**」に値を入力します。

 **ノート:**

この値により、処理中にブレンダが完了せずに停止するまでに発生が許可されるエラーの最大数が設定されます。

13. 次のブレンダ・ステータスのプロパティ・オプションについて選択を行います。

- **値のクリア**--処理時に「ブレンダ・ステータスのプロパティ」のすべての値を **False** に設定します。
- **値の移入**--処理時に「ブレンダ・ステータスのプロパティ」の各値を **True** に設定します。
- **ブレンドされたバージョン**--バージョンがブレンドされている場合に **TRUE** に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたバージョン・レベルのブール・プロパティである必要があります。
- **移動されたノード**--ノードがブレンドによって移動された場合に **TRUE** に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたローカル・ノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。
- **作成されたノード**--ノードがブレンドによって作成された場合に **TRUE** に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたグローバル・ノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。
- **変更されたローカル・ノード**--ノードのローカル・プロパティがブレンドによって変更された場合に **TRUE** に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたローカル・ノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。

- **ドメインに割り当てられたノード**--ノードにドメインが割り当てられている場合に TRUE に設定されるプロパティの名前。
  - **ブレンドされた階層**--階層がブレンドされている場合に TRUE に設定されるプロパティの名前。これは、定義された階層レベルのブール・プロパティである必要があります。
  - **変更されたグローバル・ノード**--ノードのグローバル・プロパティがブレンドによって変更された場合に TRUE に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたグローバル・ノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。
  - **挿入されたノード**--ノードがブレンドによって挿入された場合に TRUE に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。
  - **上位に移動されたリーフ**--ノードがブレンドによってリーフからリムに移動された場合に TRUE に設定されるプロパティの名前。これは、定義されたグローバル・ノード・レベルのブール・プロパティである必要があります。
14.  をクリックしてブレンダを保存します。



ブレンダの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準ブレンダを作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

## ブレンダの実行、コピー、移動および削除

保存したブレンダは、実行、コピー、移動および削除できます。ブレンダは実行する前に開く必要があります。

ブレンダを実行するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**ブレンド**」を選択し、実行するブレンダを選択します。
2.  をクリックします。
3. タブをクリックしてブレンダ・パラメータを変更し、 をクリックしてブレンダを実行します。

ブレンダをコピーするには:

1. 「ホーム」 ページで、「**ブレンド**」を選択し、コピーするブレンダを選択します。
2. 「**ブレンダ**」 から 「**コピー**」 を選択します。
3. ブレンダの新しい名前と説明を入力します。
4. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」 から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。

- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準ブレンダを作成および変更できるのはデータ・マネージャ・ユーザーのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

5. 「OK」をクリックします。

ブレンダを移動するには:

1. 「ホーム」 ページで、「ブレンド」 を選択し、移動するブレンダを選択します。
2. 「ブレンダ」 から、「移動」 を選択します。
3. 「オブジェクト・アクセス・グループ」 から、別のグループを選択し、「OK」 をクリックします。

ブレンダを削除するには:

1. 「ホーム」 ページで、「ブレンド」 を選択し、削除するブレンダを選択します。
2. 「ブレンダ」 から 「削除」 を選択します。

## ブレンダの結果の表示

ブレンダの実行後、画面の下部に結果が表示されます。

ブレンダの結果をダウンロードするには:

1. 「ダウンロード」 から、ファイル・タイプを選択します:
  - CSV としてダウンロード
  - PDF としてダウンロード
  - RTF としてダウンロード
  - XLS としてダウンロード
2. 「保存」 をクリックします。
3. ドキュメントをダウンロードするディレクトリを参照し、ドキュメントの名前を入力し、「保存」 をクリックします。

# 14

## エクスポートの操作

Oracle Data Relationship Management では、システムやユーザーごとに異なるニーズを満たすように、様々なフォーマットで情報をエクスポートできます。ブックを使用すると、複数のエクスポートをグループ化してまとめて実行できます。ホーム・ページ上のエクスポート・タスクから、エクスポートとブックを作成、オープンおよび管理できます。異なるタブで複数のエクスポートを開くことができますが、一度にフォーカスを当てることできるのは1つのエクスポートのみです。また、参照対象として選択したデータ・オブジェクトからエクスポートを実行することもできます。

## エクスポートの作成

Oracle Data Relationship Management には、データを様々なフォーマットで出力するための複数のエクスポート・タイプが用意されています。

次の表に、Data Relationship Management のエクスポート・タイプを示します。

エクスポート	エクスポート・タイプ	説明
階層エクスポート	階層	階層からノードおよびプロパティを出力します。このエクスポートを使用して、階層ノードの親子フォーマットまたは基本リストを作成できます。 <b>使用頻度:</b> 高 <b>出力フォーマット:</b> ファイル、データベース表
	階層 XML	階層からノード、その関係およびプロパティを XML フォーマットで出力します。 <b>使用頻度:</b> 高 <b>出力フォーマット:</b> ファイル
	世代	世代、または階層内のノードのレベル・ベースのフォーマットを作成します。各ノード、その祖先ノードおよびプロパティのレコードを出力します。このエクスポート・タイプを使用して、階層関係が列として表されるフォーマットを作成できます。 <b>使用頻度:</b> 中 <b>出力フォーマット:</b> ファイル

エクスポート	エクスポート・タイプ	説明
比較エクスポート	比較	2 つの階層を比較し、比較基準を満たす各ノードのレコードを出力します。このエクスポートを使用して、ターゲット・システムに増分変更を提供できます。 <b>使用頻度:</b> 中 <b>出力フォーマット:</b> ファイル、データベース表
	差分	2 つの階層を比較し、検出された各差分のレコードを出力します。このエクスポートを使用して、ユーザーに増分変更を報告できます。 <b>使用頻度:</b> 低 <b>出力フォーマット:</b> ファイル
統合エクスポート	EPM アーキテクト	Oracle Hyperion Financial Management や Oracle Hyperion Planning などの複数の EPM アプリケーションと共有したりこれらにデプロイできる階層、ノードおよびプロパティを Data Relationship Management から出力します。 <b>使用頻度:</b> Oracle Hyperion EPM Architect と統合する場合のみ <b>出力フォーマット:</b> ファイル
バージョン・エクスポート	バージョン	バージョン全体の各ノードおよびそのプロパティのレコードを出力します。このエクスポート・タイプでは、階層関係およびローカル・プロパティは使用できません。 <b>使用頻度:</b> 中 <b>出力フォーマット:</b> ファイル、データベース表
プロパティ・エクスポート	プロパティ・リスト	プロパティ定義の値のリスト内の各アイテムのレコードを出力します。これは、特別なユースケースのエクスポート・タイプです。 <b>使用頻度:</b> 低 <b>出力フォーマット:</b> ファイル
	プロパティ参照	プロパティ定義の参照表内のキーと値の各ペアのレコードを出力します。これは、特別なユースケースのエクスポート・タイプです。 <b>使用頻度:</b> 低 <b>出力フォーマット:</b> ファイル

エクスポート	エクスポート・タイプ	説明
ログ・エクスポート	トランザクション・ログ	フィルタ基準を満たすトランザクション・ログ内の各アイテムのレコードを出力します。このエクスポートは、監査用として使用できます。 <b>使用頻度:</b> 中 <b>出力フォーマット:</b> ファイル、データベース表
	マージ・ログ	フィルタ基準を満たすマージ・ログ内の各アイテムのレコードを出力します。このエクスポートが使用可能なのは、マージ機能が使用される場合のみです。 <b>使用頻度:</b> 低 <b>出力フォーマット:</b> ファイル

## 代替パラメータの使用

代替パラメータをエクスポート・プロファイルに追加して、実行時にユーザー定義値をエクスポート・プロセスに渡すことができます。次のエクスポート・タイプでは、代替パラメータを使用できます。

- 階層
- 世代
- 比較
- 階層 XML
- バージョン
- EPM アーキテクト

次のエクスポート・オプションでは、代替パラメータを使用できます。

- 階層グループ選択
- 問合せフィルタ条件のエクスポート
- 動的エクスポート列
- ヘッダー/フッター

代替パラメータのフォーマットは<%ParamKey%>で、<%および%>は代替パラメータを指し、ParamKey は代替に使用するパラメータの名前です。例: <%TopNode%>。

## エクスポート固有の列

一部のエクスポート・タイプでは、特定のエクスポート列を指定できます。



表 14-1 エクスポート固有の列

エクスポート列	説明	エクスポート・タイプ
[アクション・タイプ・コード]	現在のエクスポート・レコードで比較されているアクションのテキスト・ラベル。 <b>「スタイル」</b> タブで、次のいずれかのオプションのオプション・カスタム・ラベルを入力します: <b>追加、削除、マージ、移動、名前変更</b> または <b>プロパティの更新</b> 。	比較
[計算済レベル{0}] [計算済レベル{1}]	エクスポート用に選択した最上位ノードからの現在のノードのレベルは {0, 1} です。	階層、階層 XML
[計算済の親]	除外問合せフィルタが使用されている場合、現在のノードの親、またはエクスポートに含まれる最も近い祖先。デフォルトは「なし」です。	階層、階層 XML
[動的列]	特定の値を、エクスポート・データに表示されていない列に追加します。動的な列には定数値および代替変数の組合せを指定できます。 <b>「列」</b> タブで、 <b>「カテゴリ」</b> リストから <b>「エクスポート固有」</b> を選択し、 <b>「動的列」</b> を選択して <b>「選択済」</b> リストに追加します。動的な列の名前を入力します。 <b>列のオプション</b> タブで、エクスポート列の値を入力します。	階層、生成、比較、バージョン
[マージされたノード]	削除されたノードに選択されたマージ・ノードの名前。ノードがマージまたは削除されていない場合、またはマージ機能がアプリケーションで有効化されていない場合、この値は空白です。	比較
[ノード・シーケンス番号]	祖先リストでのノードの位置のシーケンス番号を出力します(リーフ・ノードはゼロ(0))。	世代
[プロパティ・ラベル]	プロパティ比較レコードのプロパティ表示ラベルを出力します。	比較
[プロパティ値]	プロパティ比較レコードの先バージョン・プロパティ値を出力します。	比較
[レコード ID]	データベース表にエクスポートする際にエクスポート順序を維持します。この列は、1 から開始してエクスポート内の行ごとに順次増分して自動生成される数値を提供します。 <b>「列」</b> タブで、 <b>「カテゴリ」</b> リストから <b>「エクスポート固有」</b> を選択し、 <b>「レコード ID」</b> を選択して <b>「選択済」</b> リストに追加します。	階層、階層 XML、比較、バージョン

## 階層エクスポート

階層エクスポートでは、階層からノードおよびプロパティを出力します。この情報は、ファイルまたはデータベース表に出力できます。このエクスポート・タイプを使用して、階層ノードの親子フォーマットまたは基本リストを作成できます。

階層エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「エクスポート」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「階層」 を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「追加」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」 をクリックします。
5. 「ソース」 タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」 をクリックします。
  6. 「階層の選択」 でオプションを選択します:
    - **最上位ノード**—「追加」 をクリックして階層を選択し、ノードを選択して「OK」 をクリックします。すべてのノードが追加されるまで繰り返します。

### ノート:

矢印を使用してノードを再配置します。これにより、階層ノードがエクスポートされる順序が決まります。

- **階層グループ**—階層グループ・プロパティおよび階層グループを選択します

### ノート:

階層グループ・プロパティおよび階層グループに対する代替変数を使用できません。




- **階層グループ・プロパティ**—階層グループ・プロパティを選択するか、**[パラメータからの値の取得]**を選択し、プロパティに使用するパラメータを選択します。
- **階層グループ**—階層グループを選択するか、**[パラメータからの値の取得]**を選択し、グループに使用するパラメータを選択します。

7. 「スタイル」タブで、次のオプションから選択します。

- **ノード選択:** どのノード(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」および「リーフ・ノードのみ」)をエクスポートに含めるかを決定します。
- **最上位ノードから再帰:** 最上位ノードの下にあるすべてのノードの出力を含める場合に選択します。クリアされている場合、最上位ノードのみが含まれます。選択した階層ごとに単一レコードをエクスポートする場合、このオプションが役立ちます。
- **非アクティブ・ノードを含める:** エクスポートに非アクティブ・ノードを含める場合に選択します。
- **共有ノードを暗黙的に含める:** 明示的に共有されている共有リム・ノードの下にある子孫ノードを含める場合に選択します。暗黙的共有ノードがエクスポートされるのは、別のオプションによってフィルタで除外されていない場合のみです。
  - エクスポートに問合せフィルタが使用されている場合、管理者は、共有ノードを明示的に含める必要があります。たとえば、フィルタ(`#Children=0`)を(`#Children=0 OR (Shared Node Flag = True)`)に変更する必要があります。
  - 暗黙的共有ノードの場合、親プロパティには実際のノード(プライマリ・ノード)の値が反映されます。たとえば、暗黙的共有ノードの親ノード・プロパティがエクスポートに含まれる場合、この親はプライマリ・ノードと表されます。
- **キーに基づいて重複を除去:** 主キー(「列のオプション」タブで定義)を使用して重複レコードがエクスポートされないようにする場合に選択します。
- **タブ区切り出力:** タブ文字を使用して階層の各レベルのノードをインデントして構造化された出力フォーマットを生成する場合に選択します。

8. 「バッチ検証」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**

バッチ検証は、エクスポートに含まれる階層およびノードに対してのみ実行されます。検証はエクスポートの前に実行されます。エラーが発生した場合、エクスポートは停止します。

- **なし:** 検証は実行されません。
- **割当て済:** エクスポート対象のバージョン、階層およびノードに割り当てられたすべての検証が実行されます。
- **選択済:**  をクリックして実行対象の検証を選択します。

9. 「繰返しパラメータ」セクションで、次のオプションから選択します。

- **繰返し数プロパティ**: エクスポート構造内でノードを繰り返すローカルのノード・レベルの整数プロパティを参照します。たとえば、**A-B-C** という親子階層があるときに、「繰返し数プロパティ」の値が、ノード **B** は 2、ノード **A** および **C** は 1 である場合、エクスポートは **A,B,B,C** のようになります(ノード **B** は繰り返されて 2 つになります)。


#### ノート:

「繰返し数プロパティ」を使用する場合、エクスポート結果に含めるノードに対して少なくとも値 1 を設定する必要があります。「繰返し数プロパティ」のデフォルト値は 1 に設定することをお勧めします。

- **「最下位レベル・プロパティ」** および **「最下位レベル値」**: エクスポート構造の最大の深さを決定します。この値は、階層レベルの整数プロパティ(「最下位レベル・プロパティ」)または絶対値(「最下位レベル値」)として定義できます。

最下位レベルが定義されている場合、繰返しオプションを使用して、エクスポート構造で定義されているレベルまでノードを自動的に繰り返すことができます。たとえば、親子階層内のノード **A-B-C** の場合、「最下位レベル値」が 6 に定義されており、ノード **B** の「繰返し数プロパティ」が 2 であり、「最下位リーフ・ノードの繰返し」オプションが選択されている場合、エクスポート構造は **A,B,B,C,C,C** のようになります(エクスポート構造の深さは 6 レベルであり、リーフ・ノード **C** はレベル 6 に達するまで繰り返され、ノード **B** は繰り返されて 2 つになります)。

10. 「フィルタ」タブで、次のオプションから選択します。

- 「検証」から、エクスポートのフィルタに使用される検証を選択します。
- 「問合せ」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、 をクリックします。
- **テキスト・ファイルを使用して子孫ノードを含める/除外する**: エクスポートに含めるかエクスポートから除外するノードが含まれるテキスト・ファイルを作成した場合に選択します。ファイル・フォーマットは、1 行ごとにノード名が記載されたリストです。接続を選択し、ファイル名を入力し、ノードをエクスポートに含めるかエクスポートから除外するかを選択します。

11. 「列」タブで、エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。

詳細は、次を参照してください [エクスポート固有の列](#)

#### ヒント:


「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

12. 「列のオプション」タブで、次のオプションから選択します。

- **ピボット** - プロパティに値のカンマ区切りリストが含まれる場合、他のすべてのエクスポート列が同じ値に設定された状態で値ごとに個別レコードがエクスポートされます。「ピボット」オプションは 1 つの列に対してのみ選択できます。
  - **デフォルトをスキップ**: フィールド値がプロパティのデフォルト値と等しい場合にエクスポートに空白(空の文字列)または NULL (データベース表への出力)を配置します
  - **主キー** - 重複が存在するかどうかを決定する場合に使用する主キーとして 1 つのフィールド(または複数のフィールド)を定義します。(これは「スタイル」タブの「重複の除去」オプションによって使用されます。)
  - **動的な値**—動的列を追加した場合、列の値をここで定義します。値は null または定数値と代替変数の組合せです。
13. 「ターゲット」タブで、結果の出力タイプを選択します。
- **クライアント・ファイル**: ブラウザを介して結果をダウンロードします。
  - **サーバー・ファイル**: 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
  - **データベース表**: 結果をデータベース表に保存します。
14. 次のいずれかのアクションを行います。
- 「クライアント・ファイル」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。
    - **列見出し**: 選択したプロパティのラベルに基づいてエクスポートに列見出しを含めます。
    - **引用符で囲まれた文字列**: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。  
たとえば、  

```
=IF("ABC", "XYZ",)
```

  
は、次のように変更されます  

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```
    - **固定幅**: 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
    - **文字エンコード**: エンコード・オプションの 1 つを選択します。エンコードは、出力ファイルおよびノードを含める/除外するファイル(指定されている場合)に適用します。
    - **「置換」オプション**: 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。指定したとおりにエクスポート内のすべてのインスタンスが置換されます。たとえば、すべてのカンマをタブに置換できます。
    - **ヘッダー/フッター**: ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- 「**区切り文字**」オプション: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- 「**データベース表**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、データベース表を選択する必要があります。データベースをドロップダウン・リストに表示するには、データベースに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。
  - 「**表のクリア**」オプション
    - \* **表をクリアしない:** 指定した表内の既存のデータに追加します。
    - \* **バージョン ID に基づきクリア:** 指定した「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のデータを削除します。このオプションを選択する場合、「データベース列オプション」セクションで「キー」フィールドを指定する必要があります。エクスポートが実行されると、「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のすべてのデータが最初に削除されます。他の「表のクリア」オプションの場合、「キー」フィールドは無視されます。
    - \* **すべての行をクリア:** エクスポート出力を書き込む前に表からデータを削除します。
  - **トランザクションの使用:** エクスポートはデータベース・トランザクション内で実行され、エクスポート・エラーが発生した場合は操作全体をロールバックできます。
  - **高速追加の使用:** エクスポートのパフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク挿入操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
  - **高速削除の使用:** パフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク削除操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
  - **データベース列オプション:** エクスポート対象の各列を外部データベース表内のフィールドにマップする必要があります。「フィールド名」で、フィールドの名前を選択します。「バージョン ID に基づきクリア」を指定した場合、「キー」フィールドを指定します。

 **ヒント:**

「長さ」オプションを空白のままにすると、最大でデータベース列の宣言までの文字列長をデータベースに送信できます。

 **ノート:**

列は、マップ先のデータベース・フィールドと同じデータ型である必要があります。たとえば、文字列プロパティが数値データベース・フィールドにマップされると、エラーが発生します。

- 「**サーバー・ファイル**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。**UNC** または **FTP** ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。


- **列見出し:** 列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC", "XYZ", )
```

は、次のように変更されます

```
"=IF( ""ABC"" , ""XYZ"" , )"
```


- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- 「**置換**」**オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**



カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくできます。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。



- 「**区切り文字**」**オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

15. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、 をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。

- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者の役割を持つユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

- エクスポートを検証するには、 をクリックします。
- エクスポートを実行するには、 をクリックします。

「**スタイル**」タブで検証の実行を選択した場合、 をクリックすると、検証が実行されます。ここで、エラーが発生しない場合、エクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。 をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。

## カスタマイズ・タグ

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。次の表に、使用可能なカスタマイズ・タグの説明を示します。オプションのパラメータは大カッコ[]で囲まれています。

表 14-2 カスタマイズ・タグ

カスタマイズ・タグ	説明
<%Date[(format)]%>	ユーザーの地域設定に基づいて現在の日付を返します(フォーマット = MM/DD/YYYY)。
<%Time[(format)]%>	ユーザーの地域設定に基づいて現在の時刻を返します(フォーマット = HH:MM:SS AMPM)。
<%Timestamp%>	日付と時刻の組合せを返します。
<%CurrentUser%>	現在の Oracle Data Relationship Management ユーザーを返します。
<%CurrentVersion%>	このエクスポートの現在の Data Relationship Management バージョンを返します。
<%PreviousVersion%>	このエクスポートの前の Data Relationship Management バージョンを返します。
<%ExportName%>	エクスポートの名前を返します。
<%FileName%>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 出力ファイル名を返します(指定されている場合)。</li> <li>• デフォルトのファイル名を返します(指定されていない場合)。</li> </ul>
<%RecordCount%>	エクスポートされたレコードの数を返します(フッターでのみ使用可能)。
<%AppVersion%>	Data Relationship Management 製品番号を返します(11.1.2 など)。
<%PropValue()%>	戻り値は、次のように指定したエクスポート・タイプによって異なります。
<%PropValue([Previous   Current(Default)], PropName)%>	比較/差分エクスポートの場合、Previous/Current バージョンの CompareCriteria 内の最初のノードの値を返します。



表 14-2 (続き) カスタマイズ・タグ

カスタマイズ・タグ	説明
<%PropValue([HierName], PropName)%>	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層エクスポートの場合、リスト内の最初のノードの値を返します。</li> <li>HierName が指定されている場合、HierName と一致する最初のノードの値が返されます。</li> </ul>
<%PropValue(PropName)%>	バージョン・エクスポートの場合、バージョン・プロパティのみを返します。
<%RunTimeParam(ParamName)%>	次のエクスポート・タイプで使用されます: バージョン、階層、世代、比較、差分、プロパティ参照、トランザクション・ログおよびマージ・ログ - ParamName はパラメータ(ランタイムおよび/またはデフォルトのパラメータ)の名前を定義します。代替変数の値は、タグの処理時にエクスポート・ヘッダーまたはフッターに配置されます。

## 階層 XML エクスポート

階層 XML エクスポートの場合、階層からノード、その関係およびプロパティを XML フォーマットで出力します。この情報は、ファイルに出力できます。

階層 XML エクスポートを作成するには:

- 「ホーム」 ページで、「エクスポート」 を選択します。
-  をクリックします。
- エクスポート・タイプとして 「階層 XML」 を選択します。
- オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  -  をクリックします。
  - 「追加」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<% "または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- 「OK」 をクリックします。
- 「ソース」 タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」 リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」 リストの下の「標準」 をクリックします。
  - 「階層の選択」 でオプションを選択します:

- **最上位ノード**—「追加」をクリックして階層を選択し、ノードを選択して「OK」をクリックします。すべてのノードが追加されるまで繰り返します。

 **ノート:**

矢印を使用してノードを再配置します。これにより、階層ノードがエクスポートされる順序が決まります。

- **階層グループ**—階層グループ・プロパティおよび階層グループを選択します

 **ノート:**

階層グループ・プロパティおよび階層グループに対する代替変数を使用できます。

- **階層グループ・プロパティ**—階層グループ・プロパティを選択するか、**[パラメータからの値の取得]**を選択し、プロパティに使用するパラメータを選択します。
- **階層グループ**—階層グループを選択するか、**[パラメータからの値の取得]**を選択し、グループに使用するパラメータを選択します。

7. 「スタイル」タブで、次のオプションから選択します。

- **ノード選択:** どのノード(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」および「リーフ・ノードのみ」)をエクスポートに含めるかを決定します。
- **最上位ノードから再帰:** 最上位ノードの下にあるすべてのノードの出力を含める場合に選択します。クリアされている場合、最上位ノードのみがエクスポートに含まれます。選択した階層ごとに単一レコードをエクスポートする場合、このオプションが役立ちます。
- **非アクティブ・ノードを含める:** エクスポートに非アクティブ・ノードを含める場合に選択します。

8. 「バッチ検証」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**


バッチ検証は、エクスポートに含まれる階層およびノードに対してのみ実行されます。検証はエクスポートの前に実行され、エラーが発生した場合、エクスポートは停止されます。

- **なし:** 検証は実行されません。
- **割当て済:** エクスポート対象のバージョン、階層およびノードに割り当てられたすべての検証が実行されます。
- **選択済:**  をクリックして実行対象の検証を選択します。

9. 「フィルタ」タブで、次のオプションから選択します。

- 「検証」から、エクスポートに適用する検証を選択します。






- 「問合せ」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、をクリックします。
  - **テキスト・ファイルを使用して子孫ノードを含める/除外する:** エクスポートに含めるかエクスポートから除外するノードが含まれるテキスト・ファイルを作成した場合に選択します。ファイル・フォーマットは、1 行ごとにノード名が記載されたリストです。接続を選択し、ファイル名を入力し、ノードをエクスポートに含めるかエクスポートから除外するかを選択します。
10. 「列」タブで、エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。



詳細は、次を参照してください [エクスポート固有の列](#)

### ヒント:

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

11. 「ターゲット」タブで、結果の出力タイプを選択します。
- **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。
  - **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
  - **データベース表:** 結果をデータベース表に保存します。
12. 次のいずれかのアクションを行います。
- 「クライアント・ファイル」へのエクスポートを選択した場合、次のステップに進みます。
  - 「サーバー・ファイル」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。
13. 次のいずれかを行います:



- エクスポートを保存するには、をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- エクスポートを検証するには、をクリックします。
- エクスポートを実行するには、をクリックします。

「スタイル」タブで検証の実行を選択した場合、をクリックすると、検証が実行され、エラーが発生しない場合はエクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。

## 世代エクスポート

世代エクスポートでは、世代、または階層内のノードのレベル・ベースのフォーマットが作成されます。このエクスポートでは、各ノード、その祖先ノードおよびプロパティのレコードを出力します。この情報は、ファイルに出力できます。このエクスポート・タイプを使用して、階層関係が列として表されるフォーマットを作成できます。

世代エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」ページで、「エクスポート」を選択します。
2. をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「世代」を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a. をクリックします。
  - b. 「追加」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」をクリックします。
5. 「ソース」タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」をクリックします。
6. 「階層の選択」でオプションを選択します:
  - **最上位ノード**—「追加」をクリックして階層を選択し、ノードを選択して「OK」をクリックします。すべてのノードが追加されるまで繰り返します。

### ノート:

矢印を使用してノードを再配置します。これにより、階層ノードがエクスポートされる順序が決まります。

- **階層グループ**—階層グループ・プロパティおよび階層グループを選択します

 **ノート:**

階層グループ・プロパティおよび階層グループに対する代替変数を使用できます。

- **階層グループ・プロパティ**—階層グループ・プロパティを選択するか、[**パラメータからの値の取得**]を選択し、プロパティに使用するパラメータを選択します。
- **階層グループ**—階層グループを選択するか、[**パラメータからの値の取得**]を選択し、グループに使用するパラメータを選択します。

7. 「**スタイル**」タブで、次のオプションから選択します。

- **ノード選択:** どのノード(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」および「リーフ・ノードのみ」)を含めるかを決定します。
- **最上位ノードから再帰:** 最上位ノードの下にあるすべてのノードの出力を含める場合に選択します。選択しない場合、最上位ノードのみが含まれます。選択した階層ごとに単一レコードをエクスポートする場合、このオプションが役立ちます。
- **非アクティブ・ノードを含める:** 非アクティブ・ノードを含める場合に選択します。
- **共有ノードを暗黙的に含める:** 明示的に共有されている共有リム・ノードの下にある子孫ノードを含める場合に選択します。暗黙的共有ノードがエクスポートされるのは、最上位ノード選択や問合せフィルタなどの別のオプションによってフィルタで除外されていない場合のみです。共有親ノードの下にある暗黙的共有ノードの構造は、階層エクスポートの祖先セクションに反映されません。
  - エクスポートに問合せフィルタが使用されている場合、管理者は、共有ノードを明示的に含める必要があります。たとえば、フィルタ(#Children=0)を(#Children=0 OR (Shared Node Flag = True))に変更する必要があります。
  - 暗黙的共有ノードの場合、親プロパティには実際のノード(プライマリ・ノード)の値が反映されます。たとえば、暗黙的共有ノードの親ノード・プロパティがエクスポートに含まれる場合、この親はプライマリ・ノードと表されます。
- **ルートからノード:** エクスポート順序を設定する場合に選択します(選択しない場合、順序はノードからルートになります)。たとえば、ノード A がノード B の親であるときにこのオプションを選択すると、出力は A,B になります。そうではなく、このボックスが選択されていない場合は、B,A になります。

8. 「**バッチ検証**」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**

バッチ検証は、エクスポートに含まれる階層およびノードに対してのみ実行されます。検証はエクスポートの前に実行されます。エラーが発生した場合、エクスポートは停止します。

- **なし**: 検証は実行されません。
  - **割当て済**: エクスポート対象のバージョン、階層およびノードに割り当てられたすべての検証が実行されます。
  - **選択済**:  をクリックして実行対象の検証を選択します。
9. 「**繰返しパラメータ**」セクションで、次のオプションから選択します。
- **繰返し数プロパティ**: エクスポート構造内でノードを繰り返すローカルのノード・レベルの整数プロパティを参照します。たとえば、**A-B-C** という親子階層があるときに、「繰返し数プロパティ」の値が、ノード **B** は 2、ノード **A** および **C** は 1 である場合、エクスポートは **A,B,B,C** のようになります(ノード **B** は繰り返されて 2 つになります)。

 **ノート:**

「繰返し数プロパティ」を使用する場合、エクスポート結果に含めるノードに対して少なくとも値 1 を設定する必要があります。「繰返し数プロパティ」のデフォルト値は 1 に設定することをお勧めします。

- 「**最下位レベル・プロパティ**」および「**最下位レベル値**」: エクスポート構造の最大の深さを決定します。この値は、階層レベルの整数プロパティ(「最下位レベル・プロパティ」)または絶対値(「最下位レベル値」)として定義できます。  
  
最下位レベルが定義されている場合、繰返しオプションを使用して、エクスポート構造で定義されているレベルまでノードを自動的に繰り返すことができます。たとえば、親子階層内のノード **A-B-C** の場合、「最下位レベル値」が 6 に定義されており、ノード **B** の「繰返し数プロパティ」が 2 であり、「最下位リーフ・ノードの繰返し」オプションが選択されている場合、エクスポート構造は **A,B,B,C,C,C** のようになります(エクスポート構造の深さは 6 レベルであり、リーフ・ノード **C** はレベル 6 に達するまで繰り返され、ノード **B** は繰り返されて 2 つになります)。
10. 「**祖先オプション**」セクションで、次のオプションから選択します。
- **最大祖先レベル**: エクスポート構造内の祖先レベルの数を定義します。
  - **反転レベルの使用**: Oracle Essbase のレベル手法が使用されます。リーフが 0 の位置となり数が増えていきます。複数の分岐が下位にあるノードの場合、このノードが使用可能な値の最大値になります。
  - **繰返しレベルを空白にする**: 繰返しノードが出力に表示されないようにします。クリアしている場合、指定したレベルに到達するまで出力内でノードが繰り返される可能性があります。
  - **繰返し列のグループ化** - 繰返し列は祖先列のプロパティでグループ化されます。
11. 「**フィルタ**」タブで、次のオプションから選択します。
- 「**検証**」から、エクスポートに適用する検証を選択します。
  - 「**問合せ**」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、 をクリックします。

 **ノート:**

包含フィルタにより、結果に含める一連のノードが決まります。包含フィルタは、祖先列として表示されるノードを制限します。

- **テキスト・ファイルを使用して子孫ノードを含める/除外する:** エクスポートに含めるかエクスポートから除外するノードが含まれるテキスト・ファイルを作成した場合に選択します。ファイル・フォーマットは、1 行ごとにノード名が記載されたリストです。接続を選択し、ファイル名を入力し、ノードをエクスポートに含めるかエクスポートから除外するかを選択します。
12. 「列」タブで、「列セット」リストからオプションを選択します。
- **列の前:** 各エクスポート・レコードの先頭にエクスポートするプロパティ
  - **最下位ノード列:** 指定した最下位ノードのプロパティ
  - **祖先の列:** 指定した最下位ノードの祖先リストのノード・プロパティ
  - **列の後:** 各エクスポート・レコードの末尾にエクスポートするプロパティ
13. エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。
- 詳細は、次を参照してください [エクスポート固有の列](#)

 **ヒント:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

14. 「列のオプション」タブで、オプションを選択します。
- **ピボット:** プロパティに値のカンマ区切りリストが含まれる場合、他のすべてのエクスポート列が同じ値に設定された状態で値ごとに個別レコードがエクスポートされます。「ピボット」オプションは 1 つの列に対してのみ選択できます。
  - **デフォルトをスキップ:** フィールド値がプロパティのデフォルト値と等しい場合にエクスポートに空白(空の文字列)または NULL (データベース表への出力)を配置します
  - **主キー:** 重複が存在するかどうかを決定する場合に使用する主キーとして 1 つのフィールド(または複数のフィールド)を定義します。これは「スタイル」タブの「重複の除去」オプションによっても使用されます。
  - **ファイル値:** 「スタイル」タブの「最大祖先レベル」設定とともに使用して、祖先の最下位レベルを超えて、エクスポート・プロファイルで定義されている祖先レベルの数まで、祖先列に値を入力します。
  - **動的な値**—動的列を追加した場合、列の値をここで定義します。値は null または定数値と代替変数の組合せです。
15. 「ターゲット」タブで、結果の出力タイプを選択します。

- **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。
- **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。

16. 次のいずれかのアクションを行います。

- 「**クライアント・ファイル**」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。

- **列見出し:** エクスポートに列見出しを含めます。

- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```


は、次のように変更されます

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```

- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。

- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。

- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。

- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

- 「**サーバー・ファイル**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

- **列見出し:** 列見出しを含めます。


- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF ("ABC", "XYZ", )"
```






- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくできます。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

17. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- エクスポートを検証するには、をクリックします。  
検証エラーはクリップボードにコピーできます。
- エクスポートを実行するには、をクリックします。  
「スタイル」タブで検証の実行を選択した場合、をクリックすると、検証が実行されます。ここで、エラーが発生しない場合、エクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。



## 比較エクスポート

比較エクスポートでは、2つの階層を比較し、比較基準を満たす各ノードのレコードを出力します。この情報は、ファイルまたはデータベース表に出力できます。このエクスポートを使用して、ターゲット・システムに増分変更を提供できます。

### ヒント:

データベース表へのエクスポート時のエクスポート順を保持するには、レコード ID 列を出力に追加します。この列は、1 から開始してエクスポート内の行ごとに順次増分して自動生成される数値を提供します。

比較エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「エクスポート」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして 「比較」 を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「追加」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは "<%" または "%>" を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」 をクリックします。
5. 「ソース」 タブで、比較するバージョン、階層および最上位ノードを選択します。

### ノート:

現在のバージョンと前のバージョンの両方に対して階層および最上位ノードを選択する必要があります。

- 「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」をクリックします。
6. 「スタイル」 タブで、オプションを選択します。
    - **ノード選択:** エクスポートに含めるノード・タイプ(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」および「リーフ・ノードのみ」)を決定します。



- **プロパティの結合:** デフォルトでは、同じ名前を持つ各階層のマップ・ノードを比較します。また、他のプロパティに基づいてノードを結合することもできます。たとえば、指定した階層内で **SortCode** という名前のプロパティが一意的なキーを持つ場合、各階層で同じ **SortCode** を持つノード間の差異を識別するためにこのプロパティが使用されます。
  - **追加:** ソース(開始)階層には存在しないターゲット(終了)階層内のすべてのノードを含めます。
  - **削除:** ターゲット(終了)階層には存在しないソース(開始)階層内のすべてのノードを含めます。
  - **マージ:** エクスポートにマージ情報を含めます(マージ機能が使用可能な場合)。
  - **移動:** 比較階層で親が異なるすべてのノードを含めます。
  - **名前変更:** 比較階層で名前が異なるが内部 **NodeID** が同じであるすべてのノードを含めます。
  - **プロパティの更新:** 比較階層で指定したプロパティのリスト内で値が異なるすべてのノードを含めます。「**編集**」を選択し、プロパティを選択します。
7. 「**バッチ検証**」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**

バッチ検証は、エクスポートに含まれる階層およびノードに対してのみ実行されます。検証はエクスポートの前に実行されます。エラーが発生した場合、エクスポートは停止します。

- **なし:** 検証は実行されません。
  - **割当て済:** エクスポート対象のバージョン、階層およびノードに割り当てられたすべての検証が実行されます。
  - **選択済:**  をクリックして実行対象の検証を選択します。
8. 「**フィルタ**」タブで、次のオプションから選択します。
- 「**検証**」から、エクスポートに適用する検証を選択します。
  - 「**問合せ**」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、 をクリックします。

 **ノート:**

包含フィルタにより、比較する各階層の一連のノードが決まります。除外フィルタにより、エクスポート結果からノードが除外されます。

9. 「**列**」タブで、エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「**使用可能**」から「**選択済**」に移動します。
- 詳細は、次を参照してください [エクスポート固有の列](#)

 **ヒント:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

**10. 「列のオプション」** タブで、次のオプションから選択します。

- **ピボット:** プロパティに値のカンマ区切りリストが含まれる場合、他のすべてのエクスポート列が同じ値に設定された状態で値ごとに個別レコードがエクスポートされます。「ピボット」オプションは 1 つの列に対してのみ選択できます。
- **デフォルトをスキップ:** フィールド値がプロパティのデフォルト値と等しい場合にエクスポートに空白(空の文字列)または NULL (データベース表への出力)を配置します
- **主キー:** 重複が存在するかどうかを決定する場合に使用する主キーとして 1 つのフィールド(または複数のフィールド)を定義します。
- **動的な値—**動的列を追加した場合、列の値をここで定義します。値は null または定数値と代替変数の組合せです。

**11. 「ターゲット」** タブで、結果の出力タイプを選択します。

- **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。
- **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
- **データベース表:** 結果をデータベース表に保存します。


**12.** 次のいずれかのアクションを行います。

- **「クライアント・ファイル」** へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。
  - **列見出し:** エクスポートに列見出しを含めます。
  - **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。  
たとえば、  

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

  
は、次のように変更されます  

```
"=IF("ABC","XYZ",)"
```
  - **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
  - **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
  - **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
  - **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行

をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

#### ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- 「区切り文字」オプション: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- 「データベース表」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、データベース表を選択する必要があります。データベースをドロップダウン・リストに表示するには、データベースに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。
  - 「表のクリア」オプション
    - \* **表をクリアしない:** 指定した表内の既存のデータに追加します。
    - \* **バージョン ID に基づきクリア:** 指定した「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のデータを削除します。このオプションを選択する場合、「データベース列オプション」セクションで「キー」フィールドを指定する必要があります。エクスポートが実行されると、「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のすべてのデータが最初に削除されます。他の「表のクリア」オプションの場合、「キー」フィールドは無視されます。
    - \* **すべての行をクリア:** エクスポート出力を書き込む前に表からデータを削除します。
  - **トランザクションの使用:** エクスポートはデータベース・トランザクション内で実行され、エクスポート・エラーが発生した場合は操作全体をロールバックできます。
  - **高速追加の使用:** エクスポートのパフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク挿入操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
  - **高速削除の使用:** パフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク削除操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
  - **データベース列オプション:** エクスポート対象の各列を外部データベース表内のフィールドにマップする必要があります。「フィールド名」で、フィールドの名前を選択します。「バージョン ID に基づきクリア」を指定した場合、「キー」フィールドを指定します。

#### ヒント:

「長さ」オプションを空白のままにすると、最大でデータベース列の宣言までの文字列長をデータベースに送信できます。


 **ノート:**

列は、マップ先のデータベース・フィールドと同じデータ型である必要があります。たとえば、文字列プロパティが数値データベース・フィールドにマップされると、エラーが発生します。

- 「**サーバー・ファイル**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。**UNC** または **FTP** ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。
  - **列見出し**: 列見出しを含めます。
  - **引用符で囲まれた文字列**: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。  
たとえば、  

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

  
は、次のように変更されます  


```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```
  - **固定幅**: 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
  - **文字エンコード**: エンコード・オプションの 1 つを選択します。
  - 「**置換**」**オプション**: 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
  - **ヘッダー/フッター**: ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**



カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。



- 「**区切り文字**」**オプション**: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

13. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**: 個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。

- **標準:** すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
- **システム:** アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。



- エクスポートを検証するには、 をクリックします。  
検証エラーはクリップボードにコピーできます。
- エクスポートを実行するには、 をクリックします。

「**スタイル**」タブで検証の実行を選択した場合、 をクリックすると、検証が実行され、エラーが発生しない場合はエクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。 をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。

## 差分エクスポート

差分エクスポートでは、2つの階層を比較し、検出された各差分のレコードを出力します。この情報は、ファイルに出力できます。このエクスポートを使用して、ユーザーに増分変更を報告できます。

差分エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**差分**」を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<%>"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」をクリックします。
5. 「**ソース**」タブで、差分をエクスポートするバージョン、階層および最上位ノードを選択します。

### ノート:


現在のバージョンと前のバージョンの両方に対して階層および最上位ノードを選択する必要があります。

「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」をクリックします。

6. 「スタイル」タブで、次のオプションから選択します。

- **ノード選択:** どのノード(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」 および「リーフ・ノードのみ」)をエクスポートに含めるかを決定します。
- **プロパティの結合:** デフォルトでは、同じ名前を持つ各階層のマップ・ノードを比較します。また、他のプロパティに基づいてノードを結合することもできます。たとえば、指定した階層内で **SortCode** という名前のプロパティが一意的キーを持つ場合、各階層で同じ **SortCode** を持つノード間の差異を識別するためにこのプロパティが使用されます。
- **要約を含める:** エクスポート結果に差分の要約を含めます。
- **追加:** ソース(開始)階層には存在しないターゲット(終了)階層内のすべてのノードを含めます。
- **削除:** ターゲット(終了)階層には存在しないソース(開始)階層内のすべてのノードを含めます。
- **マージ:** エクスポートにマージ情報を含めます(マージ機能が使用可能な場合)。
- **移動:** 比較階層で親が異なるすべてのノードを含めます。
- **名前変更:** 比較階層で名前が異なるが内部 **NodeID** が同じであるすべてのノードを含めます。
- **プロパティの更新:** 比較階層で指定したプロパティのリスト内で値が異なるすべてのノードを含めます。「編集」をクリックし、プロパティを選択します。

7. 「フィルタ」タブで、オプションを選択します。

- 「検証」から、エクスポートに適用する検証を選択します。
- 「問合せ」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、をクリックします。

 **ノート:**

包含フィルタにより、比較する各階層の一連のノードが決まります。

8. 「列」タブで、エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「使用可能」から「選択済」に移動します。

 **ヒント:**


「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

9. 「列のオプション」タブで、オプションを選択します。

- **ピボット**: プロパティに値のカンマ区切りリストが含まれる場合、他のすべてのエクスポート列が同じ値に設定された状態で値ごとに個別レコードがエクスポートされます。「ピボット」オプションは 1 つの列に対してのみ選択できます。
  - **デフォルトをスキップ**: フィールド値がプロパティのデフォルト値と等しい場合にエクスポートに空白(空の文字列)または NULL (データベース表への出力)を配置します
  - **主キー**: 重複が存在するかどうかを決定する場合に使用する主キーとして 1 つのフィールド(または複数のフィールド)を定義します。
10. 「ターゲット」タブで、結果の出力タイプを選択します。
- **クライアント・ファイル**: ブラウザを介して結果をダウンロードします。
  - **サーバー・ファイル**: 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
  - **データベース表**: 結果をデータベース表に保存します。
11. 次のいずれかのアクションを行います。
- 「**クライアント・ファイル**」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。
    - **列見出し**: エクスポートに列見出しを含めます。
    - **引用符で囲まれた文字列**: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。  
たとえば、  

```
=IF("ABC", "XYZ",)
```

  
は、次のように変更されます  

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```
    - **固定幅**: 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
    - **文字エンコード**: エンコード・オプションの 1 つを選択します。
    - **「置換」オプション**: 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。指定したとおりにエクスポート内のすべてのインスタンスが置換されます。たとえば、すべてのカンマをタブに置換できます。
    - **ヘッダー/フッター**: ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- 「区切り文字」オプション: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- 「サーバー・ファイル」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。


- 列見出し: 列見出しを含めます。
- 引用符で囲まれた文字列: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC", "XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF("ABC", "XYZ",)"
```


- 固定幅: 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- 文字エンコード: エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- 「置換」オプション: 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- ヘッダー/フッター: ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。


- 「区切り文字」オプション: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

12. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、 をクリックします。

エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:



- **ユーザー:** 個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準:** すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム:** アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- エクスポートを実行するには、 をクリックします。
- 「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。

## EPM Architect エクスポート



Oracle Hyperion EPM Architect エクスポートは、Performance Management Architect のインポート・フォーマットで Oracle Data Relationship Management から階層、ノードおよびプロパティを出力します。出力は、Oracle Hyperion Financial Management や Oracle Hyperion Planning などの複数の EPM アプリケーションと共有したりこれらにデプロイできます。Performance Management Architect エクスポートは、Data Relationship Management 内から実行することも、Performance Management Architect インポート・プロファイルから実行することもできます。

### ノート:

Performance Management Architect エクスポートでは、ディメンションの関連付けが必要なプロパティを使用する新しい Performance Management Architect ディメンションを作成することはできません。そのようなディメンションは、まず、ディメンションの関連付けとともに Performance Management Architect で作成する必要があり、その後、マージ・モードまたは置換モードで、Data Relationship Management からそれらの新しく作成したディメンションにインポートできます。

これらのエクスポートの Performance Management Architect インポート・プロファイルからの実行の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect 管理者ガイド*を参照してください。

EPM Architect エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**EPM Architect**」を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 **ノート:**



キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」をクリックします。
5. 「ソース」タブで、次を実行します。
  - a. バージョンまたはバージョン変数を選択します。
  - b. ターゲット・アプリケーション・タイプを選択します。
    - 連結
    - プランニング
    - Essbase (ASO)
    - Essbase (BSO)
    - 共有ライブラリ
  - c. ディメンション・プロパティを選択します。これは、データ型が階層グループであるプロパティで、エクスポート対象のディメンションおよび階層を決定するために使用されます。
  - d. ディメンション・タイプ・プロパティを選択します。これは、階層レベルの参照プロパティで、エクスポート対象の各ディメンションのディメンション・タイプを決定するために使用されます。
6. 「スタイル」タブで、オプションを選択します。
  - **非アクティブ・ノードを含める:** 非アクティブ・ノードを含める場合に選択します。
  - **共有ノードを暗黙的に含める:** 明示的に共有されている共有リム・ノードの下にある子孫ノードを含める場合に選択します。暗黙的共有ノードがエクスポートされるのは、最上位ノード選択や問合せフィルタなどの別のオプションによってフィルタで除外されていない場合のみです。共有親ノードの下にある暗黙的共有ノードの構造は、階層エクスポートの祖先セクションに反映されます。
    - エクスポートに問合せフィルタが使用されている場合、管理者は、共有ノードを明示的に含める必要があります。たとえば、フィルタ(#Children=0)を(#Children=0 OR (Shared Node Flag = True))に変更する必要があります。
    - 暗黙的共有ノードの場合、親プロパティには実際のノード(プライマリ・ノード)の値が反映されます。たとえば、暗黙的共有ノードの親ノード・プロパティがエクスポートに含まれる場合、この親はプライマリ・ノードと表されます。
7. 「バッチ検証」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**






バッチ検証は、エクスポートに含まれる階層およびノードに対してのみ実行されます。検証はエクスポートの前に実行されます。エラーが発生した場合、エクスポートは停止します。

- **なし:** 検証は実行されません。

- **割当て済:** エクスポート対象のバージョン、階層およびノードに割り当てられたすべての検証が実行されます。
  - **選択済:**  をクリックして実行対象の検証を選択します。
8. **オプション: 「フィルタ」** タブで、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、 をクリックします。

 **ノート:**

包含フィルタにより、比較する各階層の一連のノードが決まります。

9. 「列」タブで、「親キー・プロパティ」および「メンバー・キー・プロパティ」(重複を決定する際のノードの Data Relationship Management プロパティ)を選択します。
10. 次のいずれかを行います:
- エクスポートを保存するには、 をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
    - **ユーザー:** 個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
    - **標準:** すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
    - **システム:** アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
  - エクスポートを検証するには、 をクリックします。  
検証エラーはクリップボードにコピーできます。
  - エクスポートを実行するには、 をクリックします。  
「スタイル」タブで検証の実行を選択した場合、 をクリックすると、検証が実行されます。ここで、エラーが発生しない場合、エクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。 をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。

## バージョン・エクスポート

バージョン・エクスポートでは、バージョン全体の各ノードおよびそのプロパティのレコードを出力します。この情報は、ファイルまたはデータベース表に出力できます。



 **ヒント:**


データベース表へのエクスポート時のエクスポート順を保持するには、レコード ID 列を出力に追加します。この列は、1 から開始してエクスポート内の行ごとに順次増分して自動生成される数値を提供します。

 **ノート:**

このエクスポート・タイプでは、階層関係およびローカル・プロパティは使用できません。

バージョン・エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**バージョン**」を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 **ノート:**

キー/値ペアでは"<%>"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」をクリックします。
5. 「**ソース**」タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「**標準**」をクリックします。
6. 「**スタイル**」タブで、次のオプションから選択します。
  - **ノード選択:** どのタイプのノード(「すべてのノード」、「リム・ノードのみ」および「リーフ・ノードのみ」)をエクスポートに含めるかを決定します。
  - **共有ノードを暗黙的に含める:** 明示的に共有されている共有リム・ノードの下にある子孫ノードを含める場合に選択します。暗黙的共有ノードがエクスポートされるのは、最上位ノード選択や問合せフィルタなどの別のオプションによってフィルタで除外されていない場合のみです。共有親ノードの下にある暗黙的共有ノードの構造は、階層エクスポートの祖先セクションに反映されます。
    - エクスポートに問合せフィルタが使用されている場合、管理者は、共有ノードを明示的に含める必要があります。たとえば、フィルタ(#Children=0)を(#Children=0 OR (Shared Node Flag = True))に変更する必要があります。

- 暗黙的共有ノードの場合、親プロパティには実際のノード(プライマリ・ノード)の値が反映されます。たとえば、暗黙的共有ノードの親ノード・プロパティがエクスポートに含まれる場合、この親はプライマリ・ノードと表されます。

7. 「**バッチ検証**」セクションで、実行する検証のタイプを選択します。

 **ノート:**

バッチ検証は、エクスポートに指定したバージョン全体に対して実行されます。検証はエクスポートの前に実行されます。エラーが発生した場合、エクスポートは停止します。

- **なし:** 検証は実行されません。
- **割当て済:** 割当て済検証がすべて実行されます。
- **選択済:**  をクリックして実行対象の検証を選択します。

 **ノート:**

検証は、バージョン全体に対して実行されます。

8. 「**フィルタ**」タブで、オプションを選択します。

- 「**検証**」から、エクスポートに適用する検証を選択します。
- 「**問合せ**」から、エクスポートに適用する問合せ、または問合せを定義するための問合せを選択し、 をクリックします。

 **ノート:**

包含フィルタにより、比較する各階層の一連のノードが決まります。

9. 「**列**」タブで、エクスポート結果で列として表示するプロパティを選択し、これらを「**使用可能**」から「**選択済**」に移動します。

詳細は、次を参照してください [エクスポート固有の列](#)

 **ヒント:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

10. 「**ターゲット**」タブで、結果の出力タイプを選択します。

- **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。

- **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
- **データベース表:** 結果をデータベース表に保存します。

11. 次のいずれかのアクションを行います。

- 「**クライアント・ファイル**」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。

- **列見出し:** エクスポートに列見出しを含めます。

- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```


は、次のように変更されます

```
"=IF("ABC","XYZ",)"
```

- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。

- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。

- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。

- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

- 「**データベース表**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、データベース表を選択する必要があります。データベースをドロップダウン・リストに表示するには、データベースに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

- 「**表のクリア**」オプション

- \* **表をクリアしない:** 指定した表内の既存のデータに追加します。

- \* **バージョン ID に基づきクリア:** 指定した「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のデータを削除します。このオプションを選択する場合、「データベース列オプション」セクションで「キー」フィールドを指定する必要があります。エクスポートが実行される

と、「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のすべてのデータが最初に削除されます。他の「表のクリア」オプションの場合、「キー」フィールドは無視されます。

- \* **すべての行をクリア:** エクスポート出力を書き込む前に表からデータを削除します。
- **トランザクションの使用:** エクスポートはデータベース・トランザクション内で実行され、エクスポート・エラーが発生した場合は操作全体をロールバックできます。
- **高速追加の使用:** エクスポートのパフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク挿入操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
- **高速削除の使用:** パフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク削除操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。
- **データベース列オプション:** エクスポート対象の各列を外部データベース表内のフィールドにマップする必要があります。「フィールド名」で、フィールドの名前を選択します。「バージョン ID に基づきクリア」を指定した場合、「キー」フィールドを指定します。

#### ヒント:

「長さ」オプションを空白のままにすると、最大でデータベース列の宣言までの文字列長をデータベースに送信できます。

#### ノート:

列は、マップ先のデータベース・フィールドと同じデータ型である必要があります。たとえば、文字列プロパティが数値データベース・フィールドにマップされると、エラーが発生します。

- **「サーバー・ファイル」**へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。


- **列見出し:** 列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC", "XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```






- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

#### ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

#### 12. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、 をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- エクスポートを検証するには、 をクリックします。  
検証エラーはクリップボードにコピーできます。
- エクスポートを実行するには、 をクリックします。  
「スタイル」タブで検証の実行を選択した場合、 をクリックすると、検証が実行されます。エラーが発生しない場合、エクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。 をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。

## プロパティ・リスト・エクスポート


プロパティ・リスト・エクスポートでは、プロパティ定義の値のリスト内の各アイテムのレコードを出力します。この情報は、ファイルに出力できます。




 **ノート:**

これは、特別なユースケースのエクスポート・タイプです。

プロパティ・リスト・エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**プロパティ・リスト**」を選択します。
4. 「**ソース**」 タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。

「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「**標準**」をクリックします。

 **ノート:**

結果がバージョンによってフィルタされないとしても、このリリースでは、バージョンを選択する必要があります。

5. 「**使用可能**」 から、エクスポートの基準となるリスト・プロパティを選択します。
6. 「**ターゲット**」 タブで、結果の出力タイプを選択します。
  - **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。
  - **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
7. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 「**クライアント・ファイル**」 へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。
    - **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。  
たとえば、  

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

  
は、次のように変更されます  

```
"=IF("ABC","XYZ",)"
```
    - **列見出し:** 列見出しを含めます。
  - 「**サーバー・ファイル**」 へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、



```
=IF("ABC", "XYZ", )
```

は、次のように変更されます

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"", )"
```

- **列見出し:** 列見出しを含めます。

#### 8. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、 をクリックします。  
エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- エクスポートを実行するには、 をクリックします。  
「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。



## プロパティ参照エクスポート

プロパティ参照エクスポートでは、プロパティ定義の参照表内のキーと値の各ペアのレコードを出力します。この情報は、ファイルに出力できます。

### ノート:

これは、特別なユースケースのエクスポート・タイプです。


プロパティ参照エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「エクスポート」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**プロパティ参照**」 を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 ノート:

キー/値ペアでは"<%>"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」をクリックします。
5. 「ソース」タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」をクリックします。

 ノート:

結果がバージョンによってフィルタされないとしても、このリリースでは、バージョンを選択する必要があります。

6. 「使用可能」から、エクスポートの基準となる検索プロパティを選択します。
7. オプション: 「スタイル」タブを選択し、「差分のみ」を選択し、「検索キー」と「結果の値」が同じである検索ペアをフィルタで除外します。
8. 「列」タブで、エクスポート対象の列を選択します。  
このエクスポート・タイプに関連する列は「検索キー」と「結果の値」のみであるため、使用可能な列は 2 つのみです。

 ヒント:

「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。


9. 「ターゲット」タブで、結果の出力タイプを選択します。
  - **クライアント・ファイル:** ブラウザを介して結果をダウンロードします。
  - **サーバー・ファイル:** 外部接続を使用し、ネットワーク・ファイル・システムまたは FTP ディレクトリに結果を保存します。
10. 次のいずれかのアクションを行います。
  - 「クライアント・ファイル」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。
    - **列見出し:** エクスポートに列見出しを含めます。
    - **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF("ABC","XYZ",)"
```

- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

#### ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- **「サーバー・ファイル」**へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

- **列見出し:** 列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。


たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF("ABC","XYZ",)"
```

- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。


- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくできます。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。


- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

11. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、をクリックします。

エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。



- エクスポートを実行するには、をクリックします。

「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。

## トランザクション・ログ・エクスポート

トランザクション・ログ・エクスポートでは、フィルタ基準を満たすトランザクション・ログ内の各アイテムのレコードを出力します。この情報は、ファイルまたはデータベース表に出力できます。このエクスポートは、監査用として使用できます。

トランザクション・ログ・エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2. をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして「**トランザクション・ログ**」を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a. をクリックします。
  - b. 「**追加**」をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 **ノート:**

キー/値ペアでは"<%>"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」をクリックします。
5. 「ソース」タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「標準」をクリックします。
6.  をクリックし、エクスポート対象の階層およびノードを選択します。
7. 「フィルタ」タブで、オプションを選択します。
  - **レベル:**  をクリックし、フィルタ対象のレベルを指定します。
    - **コア:** バージョン・データへの変更を示すアクションを含めます(メタデータ・オブジェクトは含めません)。
    - **ログ済:** 実行されたが結果としてデータの追加、変更または更新は行われなかったシステム・アクティビティを示すアクションを含めます。
    - **損失:** ノードの削除などのコア・アクションが原因で失われたデータを格納するトランザクション履歴レコードを含めます。
    - **結果:** コア・アクションに関連付けられた(コア・アクションの結果である)アクションを含めます。
    - **管理:** メタデータ・オブジェクトに影響するアクションを含めます(バージョン関連のデータは含めません)。
  - **アクション:**  をクリックし、フィルタ対象のトランザクション・ログ・アクション・タイプを指定します。
  - **プロパティ:**  をクリックし、フィルタ対象のプロパティのリストを指定します。
  - **ユーザー:**  をクリックし、フィルタ対象のユーザーを指定します。
  - **子ノードを含める:** 子ノードを含める場合に選択します。
  - **共有ノードを含める:** 共有ノードを含める場合に選択します。
  - **開始日:** 選択し、開始日を入力します。
  - **終了日:** 選択し、終了日を入力します。
  - **開始トランザクション:** 選択し、開始トランザクション ID を入力します。
  - **終了トランザクション:** 選択し、終了トランザクション ID を入力します。
  - **現在のセッションへのフィルタ:** トランザクションをフィルタして現在のセッション中に実行されるものに限定します。
8. 「列」タブで、エクスポート対象の列を選択します。

 **ヒント:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

9. 「ターゲット」タブで、「デバイス」リストから、結果のエクスポート先である場所を選択します(「クライアント・ファイル」、「データベース表」または「サーバー・ファイル」)。

10. 次のいずれかのアクションを行います。

- 「クライアント・ファイル」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。


- **列見出し:** エクスポートに列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```

- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、 をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくできます。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- 「データベース表」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、データベース表を選択する必要があります。データベースをドロップダウン・

リストに表示するには、データベースに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

– 「**表のクリア**」 オプション

- \* **表をクリアしない:** 指定した表内の既存のデータに追加します。
- \* **バージョン ID に基づきクリア:** 指定した「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のデータを削除します。このオプションを選択する場合、「データベース列オプション」セクションで「キー」フィールドを指定する必要があります。エクスポートが実行されると、「キー」フィールドがエクスポート対象のデータの現在のバージョン ID と等しい表内のすべてのデータが最初に削除されます。他の「表のクリア」オプションの場合、「キー」フィールドは無視されます。
- \* **すべての行をクリア:** エクスポート出力を書き込む前に表からデータを削除します。

– **トランザクションの使用:** エクスポートはデータベース・トランザクション内で実行され、エクスポート・エラーが発生した場合は操作全体をロールバックできます。

– **高速追加の使用:** エクスポートのパフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク挿入操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。

– **高速削除の使用:** パフォーマンスを向上させるために、ターゲット・データベース表に対するバルク削除操作を実行します。データベース固有の接続の場合のみ使用可能です。

– **データベース列オプション:** エクスポート対象の各列を外部データベース表内のフィールドにマップする必要があります。「フィールド名」で、フィールドの名前を選択します。「バージョン ID に基づきクリア」を指定した場合、「キー」フィールドを指定します。

 **ノート:**

列は、マップ先のデータベース・フィールドと同じデータ型である必要があります。たとえば、文字列プロパティが数値データベース・フィールドにマップされると、エラーが発生します。

- 「**サーバー・ファイル**」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。

– **列見出し:** 列見出しを含めます。

– **引用符で囲まれた文字列:** 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。


たとえば、

```
=IF ("ABC", "XYZ", )
```



は、次のように変更されます

```
"=IF ("ABC", "XYZ", )"
```


- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

#### ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。


- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

#### 11. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、をクリックします。

エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

- エクスポートを実行するには、をクリックします。

「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。



## マージ・ログ・エクスポート

マージ・ログ・エクスポートでは、フィルタ基準を満たすマージ・ログ内の各アイテムのレコードを出力します。この情報は、ファイルに出力できます。

 **ノート:**


このエクスポートが使用可能なのは、マージ機能が使用される場合のみです。

マージ・ログ・エクスポートを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. エクスポート・タイプとして 「**マージ・ログ**」 を選択します。
4. **オプション:** エクスポート用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「**追加**」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

 **ノート:**

キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「**OK**」 をクリックします。
5. 「**ソース**」 タブで、バージョンまたはバージョン変数を選択します。  
「標準」、「ベースライン」または「時点」バージョンを選択できます。「バージョン」リストは、「標準」バージョンにデフォルト設定されています。「ベースライン」または「時点」バージョンを選択するには、「バージョン」リストの下の「**標準**」をクリックします。
6. 「**フィルタ**」 タブで、次のオプションから選択します。
  - **開始日/終了日:** エクスポートの開始日と終了日を設定します。
  - **削除されたノード:** 削除されたノードの名前を入力します。
  - **マージ・ノード:**  をクリックし、マージ・ノードを指定します
  - **ユーザー:** ユーザーを選択します。
  - **ステータス:** ステータスを選択します。
7. 「**列**」 タブで、エクスポート対象の列を選択します。

 **ヒント:**

「カテゴリ」リストを使用してプロパティ・カテゴリを選択すると、ナビゲーションしやすくなります。「選択済」リスト内の列の位置は、上下矢印を使用して決定します。リスト内の最初のアイテムが第 1 列、リスト内の 2 番目のアイテムが第 2 列というように続きます。

8. 「**ターゲット**」 タブで、「**デバイス**」 リストから、結果のエクスポート先である場所を選択します(「クライアント・ファイル」または「サーバー・ファイル」)。

9. 次のいずれかのアクションを行います。

- 「クライアント・ファイル」へのエクスポートを選択した場合、オプションを選択します。


- **列見出し**: エクスポートに列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列**: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF(""ABC"", ""XYZ"",)"
```

- **固定幅**: 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード**: エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション**: 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター**: ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

 **ノート:**

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくできます。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。

- **「区切り文字」オプション**: フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。
- 「サーバー・ファイル」へエクスポートすることを選択した場合、接続を設定し、ファイル名を入力する必要があります。UNC または FTP ファイルに対して有効な外部接続がすでに作成されている必要があります。次のオプションから選択することもできます。


- **列見出し**: 列見出しを含めます。
- **引用符で囲まれた文字列**: 各列値を引用符で囲みます。列値にすでに含まれている引用符は二重になります。

たとえば、

```
=IF("ABC","XYZ",)
```

は、次のように変更されます

```
"=IF ("ABC", "XYZ", )"
```


- **固定幅:** 固定幅、列の左右行揃え、およびパッド文字数を指定できます。列情報は「固定幅オプション」セクションに入力できます。
- **文字エンコード:** エンコード・オプションの 1 つを選択します。
- **「置換」オプション:** 置換する文字をリストから最大 3 つ選択します。たとえば、カンマをタブに置換できます。
- **ヘッダー/フッター:** ヘッダー/フッターと本文の間に行を追加したり、エクスポート結果のヘッダーおよびフッターに印刷するテキストを入力します。テキスト行をテキスト・ボックスに入力するか、をクリックしてテキスト・エディタを開きます。

#### ノート:

カスタマイズ・タグを挿入すると、エクスポート結果をさらに読みやすくなります。詳細は、[カスタマイズ・タグ](#)を参照してください。


- **「区切り文字」オプション:** フィールド区切り文字およびレコード区切り文字を選択します。

#### 10. 次のいずれかを行います:

- エクスポートを保存するには、をクリックします。

エクスポートの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:

- **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
- **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

- エクスポートを実行するには、をクリックします。

「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。

#### ノート:

ブック内のエクスポートに対してバッチ検証を実行することを選択した場合、これらの検証が最初に実行されます。

## エクスポート・ブックの作成

保存したエクスポートは、エクスポート・ブックでグループ化してまとめて実行できます。これにより、一般的に使用される一連のエクスポートを個別に実行するかわりに 1 回のアクションで実行できます。また、ブックを使用することにより、複数のエクスポートの出力を単一の出力ファイルに結合できます。

### ノート:



ブック・エクスポートは、複数のバージョンを参照できません。ブックのすべてのエクスポートが同じバージョンを参照する必要があります。

ブックには、現行バージョンと旧バージョンの両方を指定する必要があります。

- 現行バージョンは、「バージョン」または「先バージョン」パラメータが必要な、ブックでのすべてのエクスポートに使用されます。
- 旧バージョンは、「元バージョン」パラメータが必要な、ブックでのすべてのエクスポートに使用されます。

ブックの「現行バージョン」および「旧バージョン」パラメータは、ブックでのエクスポートに構成されたすべてのバージョンを上書きします。これには、すべてのバージョン・タイプが含まれます(標準、ベースライン、時点、変数)。

エクスポート・ブックを作成するには:

1. 「ホーム」 ページで、「エクスポート」 を選択します。
2.  をクリックします。
3. **オプション:** ブック用の代替パラメータを作成するには:
  - a.  をクリックします。
  - b. 「追加」 をクリックして、キー/値ペアを追加します。

### ノート:

キー/値ペアでは"<%"または"%>"を連続して使用したり、等号記号を使用することはできません。

- c. 「OK」 をクリックします。
4. 「ソース」 タブで、ブックのエクスポートの選択元となるバージョンまたはバージョン変数を選択します。
  5. 「オブジェクトのアクセス権」 から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
    - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
    - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。

- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。

 **ノート:**

選択するアクセス・レベルに応じて、使用可能なエクスポートのリストは制限できます。ユーザー・ブックでは、ユーザー・エクスポートと標準エクスポートを選択できます。標準ブックが参照できるのは標準エクスポートのみであり、システム・ブックが参照できるのは標準エクスポートまたはシステム・エクスポートのみです。

6. ブックに含めるエクスポートを選択し、これらを「**使用可能**」から「**選択済**」に移動します。


 **ノート:**


「エクスポート・タイプ」リストを使用すると、使用可能なエクスポートのリストをフィルタできます。

7. **オプション:** 出力を結合する場合、「**ターゲット**」タブを選択し、次を実行します:
  - a. 「**デバイス**」で、結合されるファイルがサーバー・ファイルであるかクライアント・ファイルであるかを指定します。
  - b. 「**結合されたエクスポート出力ファイルを含める**」を選択します。
  - c. 「**文字エンコード**」で、結合されるファイル、前ファイルおよび後ファイル(使用する場合)に適用するエンコードを選択します。
  - d. サーバー・ファイルに結合する場合、外部接続を設定します。
  - e. **オプション:** 前ファイルおよび後ファイルの外部接続を設定します。  
「前ファイル」および「後ファイル」を使用すると、結合した出力ファイルの先頭および末尾に追加されるデータを指定できます。



 **ノート:**

ファイルに出力するよう構成されているエクスポートと、データベース表に出力するよう構成されているエクスポートの両方がブックに含まれる場合、「**結合**」オプションは、ファイルに書き込むエクスポートに対してのみ影響します。

8. 次のいずれかを行います:
  - エクスポートを保存するには、 をクリックします。  
ブックの名前、説明およびオブジェクト・アクセス・グループを定義するよう求められます。カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
    - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
    - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。

- **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
- ブックを実行するには、 をクリックします。  
「クライアント・ファイル」を選択した場合、ファイルをローカルにダウンロードできるダウンロード・オプションを使用できます。


### ノート:

検証を実行するブック内のエクスポートの場合、 をクリックすると、検証が実行され、エラーが発生しない場合はブックが実行されます。検証エラーが発生した場合、ブック・プロセスは停止され、エラーが表示されます。検証を実行する各エクスポートを開き、 をクリックしてエラーを検索します。




## エクスポートおよびエクスポート・ブックの実行、コピー、移動および削除

エクスポートおよびエクスポート・ブックは、実行、コピー、移動および削除できます。エクスポートおよびエクスポート・ブックは、実行する前に開いておく必要があります。

エクスポートまたはブックを実行するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」を選択します。
2. 次のいずれかを行います:
  - 「**エクスポート**」 タブで、エクスポートをダブルクリックします。
  - 「**ブック**」 タブで、エクスポート・ブックをダブルクリックします。
3. タブをクリックしてエクスポート・パラメータまたはエクスポート・ブック・パラメータを変更し、 をクリックします。

### ノート:

エクスポートでは、「**スタイル**」 タブで検証の実行を選択した場合、 をクリックすると、検証が実行され、エラーが発生しない場合はエクスポートが実行されます。検証エラーが発生した場合、エクスポートは停止され、エラーが表示されます。 をクリックすると、検証エラーのリストが表示されます。ブックの場合、検証エラーが発生したら、検証を実行する各エクスポートを開き、 をクリックしてエラーを検索します。

エクスポートまたはエクスポート・ブックをコピーするには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」 をクリックし、コピーするエクスポートまたはエクスポート・ブックを選択します。
2. 「**エクスポート**」 から、「**コピー**」 を選択します。
3. エクスポートまたはエクスポート・ブックの新しい名前と説明を力します。
4. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」 から、カスタム・グループまたは次のいずれかを選択します:
  - **ユーザー**--個別ユーザーのみが表示および実行できる個人オブジェクト。
  - **標準**--すべてのユーザーが表示および実行できるパブリック・オブジェクト。標準エクスポートを作成および変更できるのはデータ・マネージャのみです。
  - **システム**--アプリケーション管理者役割ユーザーのみが表示および実行できる制限オブジェクト。
5. 「**OK**」 をクリックします。

エクスポートまたはエクスポート・ブックを移動するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」 を選択し、移動するエクスポートを選択します。
2. 「**エクスポート**」 から、「**移動**」 を選択します。
3. 「**オブジェクト・アクセス・グループ**」 から、別のグループを選択し、「**OK**」 をクリックします。

エクスポートまたはエクスポート・ブックを削除するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**エクスポート**」 を選択し、削除するエクスポートまたはエクスポート・ブックを選択します。
2. 「**エクスポート**」 から、「**削除**」 を選択します。



# 15

## ジョブ管理

ジョブ管理により、長時間実行される操作(ジョブ)とそれにより生成される結果を、より強力で制御し、可視化することができます。操作をジョブとして実行すると、ユーザーは、プロセスの実行中に別のタスクを実行でき、そのユーザーが次にアクセスしたときには、その操作のステータスや任意の結果にアクセスできるようになります。**Oracle Data Relationship Management** では、次のタイプの操作がジョブとして処理されます:

- アクション・スクリプト: ロード・ファイル、ロードのログ基準、プロセスのアクション
  - 下をすべて無効化
  - ブレンド
  - ブック
  - 比較: 構造、プロパティ、名前変更
  - ドメイン割当てメンバーシップ
  - エクスポート
  - インポート
  - プロパティ・プロファイル
  - ノードの配置
  - 問合せ: ローカル、グローバル
  - 検証: 選択されたバージョン、割り当てられたバージョン、グローバルに選択されたバージョン、グローバルに割り当てられたバージョン、選択された階層、割り当てられた階層、選択されたノード、割り当てられたノード、選択された特定ノード、割り当てられた特定ノード
  - バージョン: バックアップ、閉じる、コピー、時点での作成、削除、ロード、復元、保存
- 一部のジョブ・タイプはバックグラウンドでの実行が可能で、ユーザーがジョブを取り消すことや、ジョブが実行されたページから移動して別のタスクを実行することができます。次のジョブ・タイプはバックグラウンドで実行されます:

- アクション・スクリプト
- ブレンド
- ブック
- 比較(構造、プロパティ、名前変更)
- エクスポート
- インポート
- 問合せ

## ジョブの実行

ジョブを実行すると、そのジョブは現在実行中のジョブのキューに追加されます。実行中のジョブのタブから離れるか、実行中のジョブのタブを閉じるか、**Data Relationship Management** をログオフした場合でも、ジョブの実行は続行します。ジョブが完了したときに実行中のジョブのタブが開いている場合、(結果を返すジョブに対する)結果がタブに表示されます。

## ジョブの取消し

タブで実行中のジョブに対して、「取消し」ボタン(赤い四角)をクリックして、ジョブを取り消すことができます。ジョブ履歴ウィンドウからジョブを取り消すこともできます。一部のジョブは取り消すことができないことに注意してください。次のジョブ・タイプは、取り消すことができません:

- アクション・スクリプトの実行
- 保存済バージョンにブレンド(ブレンド・ターゲットが「新規バージョンにコピー」の場合は、ジョブを取り消すことができ、それ以外の場合は、ジョブを取り消すことができません。)
- ドメイン割当てメンバーシップ
- ノードの配置
- バージョンの削除
- バージョンの保存

## ジョブ結果の削除

ジョブ結果は、ジョブ履歴から個別に削除できます。また、アプリケーション管理者は、**JobResultsRetentionAge** システム・プリファレンスを使用し、ジョブ結果がシステムにより自動的に削除されるまでに、どのくらい保持するかを定義できます。

## トランザクション、ジョブおよび要求の監査

Oracle Data Relationship Management では、アプリケーション内で実行された様々なアクティビティの履歴が監査目的で記録されます。トランザクション履歴には、バージョン・データ、アプリケーション・メタデータ、ユーザー・セキュリティへの変更など、実行されたすべての操作が記録されます。ジョブ履歴では、インポート、ブレンダ、エクスポートなど、実行に長い時間がかかるプロセスの完了が追跡されます。要求履歴には、外部アプリケーションから送信された変更要求のレコードが維持されます。

監査ウィザードを使用して、問合せのパラメータおよび基準を定義します。ウィザードのコンテンツは、入力をサポートする「ソース」、「フィルタ」および「列」タブタブにわたって編成されています。ウィザードのタブは入力を順番に収集するよう順序付けられています。任意のタブ間でナビゲートできます。

トランザクション、要求およびジョブ履歴は、監査タスクを使用して問合せおよび表示できます。詳細は、次を参照してください:





- [トランザクション履歴の監査](#)
- [トランザクション履歴のデータ・アクション](#)
- [要求の監査](#)
- [ジョブ履歴の表示](#)

### トランザクション履歴の監査

Oracle Data Relationship Management 操作はすべてトランザクション履歴に記録されます。それぞれの操作はタイム・スタンプ、ユーザー名、実行したアクションのタイプおよびその他の関連情報とともに記録されます。

トランザクション履歴を問合せおよび表示するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**監査**」を選択します。
2. 「**監査タイプ**」 から、「**トランザクション**」を選択します。
3. 「**ソース**」 タブで、次を実行します。
  - 「**バージョン**」、「**階層**」、「**ノード**」および「**要求 ID**」 から、監査対象のソースを選択します。
  - 戻されるトランザクションのタイプを選択します: 「**システム・トランザクション**」、「**データ・トランザクション**」、またはその両方。
4. 「**フィルタ**」 タブで、次のオプションから選択します。
  - **レベル:**  をクリックし、フィルタ対象のレベルを指定します。
    - **コア:** バージョン・データへの変更を示すアクションを含めます(メタデータ・オブジェクトは含めません)。
    - **ログ済:** 実行されたが結果としてデータの追加、変更または更新は行われなかったシステム・アクティビティを示すアクションを含めます。

- **損失:** ノードの削除などのコア・アクションが原因で失われたデータを格納するトランザクション履歴レコードを含めます。
  - **結果:** コア・アクションに関連付けられた(コア・アクションの結果である)アクションを含めます。
  - **管理:** メタデータ・オブジェクトに影響するアクションを含めます(バージョン関連のデータは含めません)。
- **アクション:**  をクリックし、フィルタ対象のトランザクション・ログ・アクション・タイプを指定します。
  - **プロパティ:**  をクリックし、フィルタ対象のプロパティのリストを指定します。
  - **ユーザー:**  をクリックし、フィルタ対象のユーザーを指定します。
  - **子ノードを含める:** 選択し、問合せによって返されたノードの子ノードを含めます。
  - **共有ノードを含める:** 選択し、問合せによって返されたノードの共有ノードを含めます。
  - **開始日:** 選択し、開始日を入力します。
  - **終了日:** 選択し、終了日を入力します。
  - **現在のセッションへのフィルタ:** 選択し、フィルタ処理し、現在のセッション中に実行されたトランザクションのみに限定します。
  - **開始トランザクション:** 選択し、開始トランザクション ID を入力します。
  - **終了トランザクション:** 選択し、終了トランザクション ID を入力します。
  - **最大レコード数:** 表示されるトランザクションの数を制限するための値を入力します。
5. 「列」タブで、問合せ結果で列として表示するフィールドを選択します。
  6.  をクリックします。  
トランザクション履歴の問合せ結果がウィザードの下に表示されます。
  7. 問合せの実行後、次を実行できます。
    - 行の左にある矢印をクリックして、トランザクションの詳細を表示します。トランザクション詳細は、「アクション」、「オブジェクト」、「履歴」および「要求」タブに表示されます。

 **ノート:**

「要求」タブは、トランザクションがワークフロー要求に関連付けられている場合にのみ使用できます。

- 「ダウンロード」をクリックし、ファイルのフォーマット(TSV、CSV、PDF、RTF または XLS)を選択します。

# トランザクション履歴のデータ・アクション

トランザクション履歴は、バージョン、階層およびノード・データなどのコア・システムに対するすべてのデータ変更、およびユーザー・ログインなどの多くの基本機能のログのレコードを提供します。データ・トランザクションは、アクション・タイプ別に分類されます。記録されるアクション・タイプのリストは、次のとおりです。

## コア・データの変更

- ドメインをバージョンに追加
- 階層の追加
- ノードの追加
- 孤立ノードの追加
- ノードの下をすべて無効化
- ノードの無効化
- 要求の承認
- 階層検証の割当て
- ノードをドメインに割当て
- バージョン検証の割当て
- 最上位ノードの変更
- 下をすべてクリア
- 階層の削除
- ノードの削除
- 孤立の削除
- ノードの非アクティブ化
- ノードの挿入
- ノード・プロパティのロック
- ノードの移動
- ノードの再アクティブ化
- ドメインをバージョンから除去
- 重複するプロパティ値の除去
- 階層プロパティ値の除去
- ノードの除去
- ノード・プロパティ値の除去
- バージョン・プロパティ値の除去
- ノード・プロパティのロック解除
- 制御されたプロパティの更新

- 階層プロパティ値の更新
- ノード・プロパティ値の更新
- バージョン・プロパティ値の更新

#### ログに記録されたアクション

- アクション・スクリプト実行
- カテゴリの追加
- ドメインの追加
- グリフの追加
- 階層グループの追加
- ノード・アクセス・グループの追加
- ノード・タイプの追加
- オブジェクト・アクセス・グループの追加
- プロパティの定義の追加
- プロパティ参照値の追加
- ユーザーの追加
- 検証の追加
- バージョンの追加
- バージョン変数の追加
- ワークフロー・モデルの追加
- ワークフロー・タスクの追加
- ノード・タイプ・プロパティの適用
- ノード・タイプ検証の適用
- ユーザー・カテゴリの割当
- ユーザー・ノード・アクセス・グループの割当て
- ファイルにバックアップ
- バッチ検証実行
- ブレンダ・オブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- ブレンダ実行
- ブック・オブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- バルク・コピー・プロセスの実行
- ユーザーのパスワードの変更
- バージョンを閉じる
- 比較オブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- 比較実行
- 接続オブジェクト・アクセス・グループ変更済み

- バージョンのコピー
- ブレンダの削除
- ブックの削除
- カテゴリの削除
- 比較基準の削除
- 基準リストの削除
- ドメインの削除
- エクスポートの削除
- グリフの削除
- 階層グループの削除
- インポートの削除
- ノード・アクセス・グループの削除
- ノード・タイプの削除
- オブジェクト・アクセス・グループの削除
- プロパティ定義の削除
- プロパティ参照値の削除
- 要求の削除
- ユーザーの削除
- 検証の削除
- バージョンの削除
- バージョン変数の削除
- ワークフロー・モデルの削除
- ワークフロー・タスクの削除
- バージョンのデタッチ
- エクスポート・オブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- エクスポート実行
- グローバル問合せ
- インポート・オブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- インポート実行
- ログイン
- ログアウト
- エクスポートの移行
- インポートの移行
- バージョンを開く
- 子の順序付け

- プロファイラ実行
- プロパティ比較実行
- 問合せ
- 問合せオブジェクト・アクセス・グループ変更済み
- 階層ノードの再構築
- 比較基準の名前変更
- 比較実行の名前を変更
- 基準リストの名前変更
- ファイルから復元
- ファイル警告から復元
- ブレンダの保存
- ブックの保存
- 比較基準の保存
- エクスポートの保存
- インポートの保存
- 要求の保存
- バージョンの保存
- ユーザー・パスワードの設定
- 検証レポートの設定
- アクセス・グループの制御階層の更新
- アクセス・グループのメンバーの更新
- カテゴリの更新
- プロパティ定義のカテゴリ・リストの更新
- カテゴリ・プロパティの更新
- カテゴリ・ユーザーの更新
- 比較基準の更新
- 基準リストの更新
- ドメインの更新
- グリフの更新
- 階層検証の更新
- 階層グループの更新
- ノード・アクセス・グループの更新
- ノード・タイプの更新
- オブジェクト・アクセス・グループの更新
- プロパティ定義の更新



- プロパティ定義パラメータの更新
- プロパティ・リスト値の更新
- プロパティ参照値の更新
- システム・プリファレンスの更新
- ユーザーの更新
- ユーザー・ロックアウトの更新
- 検証の更新
- バージョン検証の更新
- バージョン変数の更新
- ワークフロー・モデルの更新
- ワークフロー・タスクの更新
- 検証ソート済

#### 損失アクション

- ノード・プロパティ・データの欠落
- 孤立メンバーから除去

## 要求の監査

Oracle Data Relationship Management のガバナンス・ワークフローによって処理された変更要求および改善要求は、ワークリストを使用して、ガバナンス・ユーザーおよびデータ・マネージャが監査できます。詳細は、[ワークリストの移動](#)を参照してください。


Web サービス API の要求インタフェースを使用して処理される外部要求は、要求履歴に記録されます。「ワークリスト」ページから使用可能な変更要求または改善要求は、要求履歴には記録されません。要求領域にアクセスするには、ユーザーがワークフロー・ユーザーの役割を持っている必要があります。各リクエストは、タイムスタンプ、リクエスト所有者のユーザー ID、実行対象のアクション、検証および承認ステータス、および他のリクエスト・レベルの情報とともに記録されます。「要求履歴」画面に初めてアクセスする場合、デフォルトの問合せにより、所有している未承認のリクエストがすべて表示されます。

「要求履歴」画面の最上位セクションでは、問合せ基準を定義できます。下部セクションには、現在の問合せ基準を満たす変更リクエストのリストが表示されます。問合せ基準は、4つのカテゴリに分けられます。

- 要約
  - 要求 ID: 変更できません。リクエストの作成時に自動的に生成されます。
  - 「所有者」ユーザー ID: 変更できません。リクエストの作成時に定義されます。
  - 「コミット者」ユーザー ID: 変更できません。リクエストの承認時に定義されます。
  - リクエストのターゲット・バージョン。
  - 文字列値に対する完全一致の実行オプション。
  - 返されるレコードの最大数に関する設定。
- ワークフロー: アプリケーション・データの定義に使用されます。

- カスタム ID
- カスタム・ラベル
- カスタム・ステータス
- コメント
- 履歴
  - ユーザーを管理するための「作成者」、「更新者」および「承認者」フィールド: ワークフロー・アプリケーションの関連情報。
  - リクエストの作成、更新および承認時の「作成日」、更新日および承認日。

リクエスト履歴を問合せおよび表示するには:

1. 「ホーム」 ページで、「**監査**」 を選択します。
2. 「**監査タイプ**」 から、「**要求**」 を選択します。
3. 「**ソース**」 タブで、リクエスト ID、ワークフロー ID を入力するか、問合せのソースとして使用するバージョン、階層およびノードを選択します。
4. 「**フィルタ**」 タブで、日付範囲、作成者、更新者および承認者を含むリクエスト履歴問合せのフィルタ基準を定義します。
5. 「**列**」 タブで、問合せ結果で列として表示するフィールドを選択します。
6.  をクリックします。  
リクエスト履歴の問合せ結果がウィザードの下に表示されます。
7. 問合せの実行後、次を実行できます。
  - リクエストの詳細を表示するには、行の左側にあるプラス記号をクリックします。リクエスト詳細は、「アクション」、「オブジェクト」および「履歴」タブにわたって表示されます。
  - 「**ダウンロード**」 をクリックし、ファイルのフォーマット(TSV、CSV、PDF、RTF または XLS)を選択します。

## ジョブ履歴の表示

実行中のジョブおよび完了したジョブのリストは、ジョブ履歴で表示および問合せできます。ジョブ結果はアプリケーション・サーバーによって保持され、後で同じユーザー・セッションや今後のセッションで取得できます。次のジョブ・タイプは、ジョブ履歴で表示できる結果を返します:

- アクション・スクリプト
- ブレンド
- 比較
- エクスポートまたはブック--出力デバイスがクライアント・ファイルのみの場合、結果が保管されます。
- インポート
- 問合せ

ジョブ履歴リストをフィルタして、ジョブのサブセットを表示できます。フィルタを使用しないと、すべてのジョブが返されます。ジョブ履歴リスト用の列を選択し、順序付けることもできます。

ジョブ履歴を表示するには:



1. 「ホーム」 ページで、「**監査**」を選択します。
2. 「**監査タイプ**」 から、「**ジョブ**」を選択します。
3. 「**フィルタ**」 タブで、ジョブ履歴リストをフィルタするように、次のフィールドを変更します:
  - **タイプ**--をクリックして、ジョブ・タイプを選択します。
  - **ステータス**--をクリックして、ジョブ・ステータスを選択します。
  - **オブジェクト名**--オブジェクトの名前を入力します。ワイルドカード検索にアスタリスクを使用できます。
  - **バージョン**--単一バージョンのジョブに結果をフィルタするためのバージョンを選択します。
  - **開始日**--チェック・ボックスを選択し、ジョブの開始日時を入力します。
  - **終了日**--チェック・ボックスを選択し、ジョブの終了日時を入力します。
  - **最大レコード数**--返すレコードの最大数を入力します。
4. 「**列**」 タブで、「**使用可能**」 リストから列を選択し、「**選択済**」 リストに移動します。上下の矢印を使用して、列を順序付けします。

#### ノート:

「タイプ」、「説明」 および 「アクション」 列は、ジョブ履歴リストに常に含まれます。これらの列は、選択解除や順序付けを行うことはできません。「タイプ」と「説明」は最初の 2 つの列で、「アクション」は最後の列です。

ジョブ履歴リストの列は次のとおりです:

- **アクション**—結果を返すジョブの場合は、削除アクションを使用できます。現在進行中のジョブの場合は、取消しアクションを使用できます。
- **説明**—ジョブの説明
- **経過時間**—ジョブの実行にかかった時間
- **終了**—ジョブが終了した日時
- **ジョブ名**--実行されたオブジェクトの名前
- **メッセージ**—エラーで完了したジョブの情報メッセージ
- **パーズされた結果**—結果がパーズされた日時
- **結果サイズ**—結果の添付のサイズ(KB 単位)
- **表示された結果**—結果が表示された日時
- **開始**—ジョブが開始された日時

- ステータス—「完了」または「エラー付き完了」などのジョブのステータス
  - タイプ—「バージョンのロード」、「エクスポート」および「アクション・スクリプト・ロード・ファイル」など、実行中のジョブのタイプ
  - 開始バージョン—開始バージョンの名前
  - 終了バージョン—終了バージョンの名前
5. 次のいずれかのアクションを行います。
- ジョブ履歴リストをリフレッシュするには、 をクリックします。
  - 成功したジョブのジョブ結果を表示するには、「ステータス」列の「完了しました」列をクリックします。
  - ジョブ結果をページするには、「アクション」列で、 をクリックします。

 ノート:

ジョブ結果がジョブ履歴からページされると、ジョブ結果の添付が削除されますが、ジョブ・エントリ自体は履歴に残ります。

# Data Relationship Management バッチ・クライアントの使用

Oracle Data Relationship Management バッチ・クライアントは、次を含む様々な Data Relationship Management 操作にバッチ・モードでアクセスできるコマンドライン・ユーティリティです。

- アクション・スクリプト
- インポート
- ブレンダ
- エクスポート(個別エクスポートおよびブック・エクスポート)
- バージョンのオープンおよびクローズ
- ガバナンス要求の送信

バッチ・クライアント・ユーティリティ (`drm-batch-client.exe`)は、デフォルトでは `C:\Oracle\Middleware\EPMSysstem11R1\products\DataRelationshipManagement\client\batch-client\` にインストールされます。

操作に適したコマンドライン・パラメータを渡すことにより、バッチ・クライアントは、指定された資格証明を使用して **Data Relationship Management** エンジンにログインし、操作を実行し、サーバーから対応する結果を受信しながら、実行時のアクティビティを記録できます。操作が成功すると、エラー・レベル値として **0** が返されます。操作が失敗すると、ゼロ以外のエラー・レベル値が返されます。詳細は、[エラー・レベル値](#)を参照してください。

バッチ・クライアントは、コマンドライン、構成ファイル、またはこれら 2 つの組合せからオプションを受け入れます。

## ノート:

値の異なる構成ファイルとコマンドラインの両方で値が提供されている場合、コマンドラインの値が構成ファイルの値より優先されます。

## バッチ・クライアントの保護

バッチ・クライアントを使用して、Oracle Data Relationship Management でバッチ・プロセスを実行します。この場合、Data Relationship Management サーバーに接続するためのユーザー名とパスワードが必要です。

バッチ・クライアントでは、**Windows Data Protection API (DPAPI)**を使用することにより、バッチ・クライアントの資格証明を格納するためによりセキュアな方法を使用できます。DPAPI は、情報を保護し、作成したユーザーのみがアクセスできる場所にこれを格納します。

Data Relationship Management には、バッチ・クライアントによって使用される資格証明を設定できるコマンドライン・ユーティリティが用意されています。

バッチ・クライアントの実行時に、資格証明がコマンドラインまたは構成ファイルに渡されない場合、Windows DPAPI を使用して格納された資格証明が使用されます。

### バッチ・クライアント資格証明の設定

資格証明ユーティリティ (drm-batch-client-credentials.exe) を使用して、バッチのユーザー名およびパスワードの資格証明を設定します。資格証明ユーティリティは、バッチ接続ツールをセキュアに実行するために Data Relationship Management ユーザーを現在の Windows アカウントに関連付けます。

次のコマンドライン・パラメータが有効です。

- **Add:** 現在の Windows アカウントの Data Relationship Management 資格証明を格納します。
- **Clear:** 現在の Windows アカウントの Data Relationship Management 資格証明をクリアします。
- **Info:** 現在の Windows アカウントに関連付けられた Data Relationship Management ユーザー名を表示します。
- **?:** ヘルプ・ファイルを表示します。

引数が渡されない場合、資格証明ユーティリティは対話型のプロンプトを起動します。

## バッチ・クライアントの実行

Oracle Data Relationship Management バッチ・クライアントを実行するには:

1. コマンド・プロンプトを開きます。
2. インストール・プログラムをダウンロードしたディレクトリ (C:\Oracle\Middleware\EPMSysstem11R1\products\DataRelationshipManagement\client\batch-client\など) にナビゲートします。
3. `drm-batch-client.exe` を入力し、この章で説明されているパラメータを後ろに追加します。

バッチ・クライアントは、コマンド・プロンプトから実行することも、外部プログラムを使用して実行するようスケジュールすることもできます。バッチ・クライアントにより、次のアクションが実行されます。

1. ログ・ファイルを開きます。ログ・ファイルがすでに存在する場合は、これに追加します。ログ・ファイルが存在しない場合は、これを作成します。
2. コマンドラインまたは構成ファイルからオプションを処理および検証します。
3. 提供された資格証明を使用して Data Relationship Management にログインします。
4. 適切な操作を実行します。
5. 出力ファイルを作成します。
6. サーバーからログアウトし、ログ・ファイルを閉じ、エラー・レベルを設定し、終了します。

### 例 17-1 依存関係

バッチ・クライアントを実行するマシンに必要な Microsoft .NET Framework がインストールされている必要があります。必要な .NET バージョンは、*Oracle Data Relationship Management インストレーション・ガイド*を参照してください。エンジン・アプリケーションに対する接続性/可視性も必要です。

バッチ・クライアントには、Data Relationship Management に対する TCP/IP 接続が必要です。接続を使用する権限、入力ファイルとして指定されたディレクトリからファイルを読み取る権限、およびログ・ファイルおよびエクスポート・ファイルとして指定されたディレクトリに書き込む権限が必要です。Data Relationship Management 要件の詳細は、*Oracle Data Relationship Management インストレーション・ガイド*を参照してください。

#### ノート:

バッチ・クライアントは、個別ユーティリティ・プログラムであり、Data Relationship Management Web クライアント・インタフェースからはアクセスできません。

### 例 17-2 バッチ・クライアントでのバージョンの保存

バッチ・クライアントは、実行されると、既存の Data Relationship Management アプリケーション・サーバーにログインします。新規バージョンが作成されると、これらは、保存されるまでアプリケーション・サーバー上でデタッチされたままになります(データベースには保存されません)。

バッチ・クライアントでインポートまたはブレンドを実行する場合、新規バージョンを保存するオプション(Autosave=True)を使用できます。バージョンは保存することも、デタッチされたままにすることもできます。

日時を指定できるのは、時点バージョンのみです。日付オフセットまたはトランザクション ID を使用した時点バージョンは無効です。

## コマンドラインと構成ファイル構文

バッチ・クライアントは、コマンドライン・パラメータまたは構成ファイルとともに使用できます。

### コマンドラインの構文と例

バッチ・クライアントは、[コマンドライン・パラメータ](#)と[構成ファイル・キー](#)に記載のコマンドライン・パラメータとともに使用できます。大カッコ([ ])で囲まれた値は、わかりやすくするために用意されたオプションの拡張部分です。短いバージョンの値と長いバージョンの値の両方がサポートされています。コマンドとパラメータでは大文字と小文字が区別されません。

#### 注意:

すべてのパラメータにおいて、スペースが含まれるバージョン名は引用符で囲む必要があります("April - Production"など)。

コマンドライン構文の例を次に示します。

```
C:\Oracle\Middleware\EPMSysstem11R1\products\DataRelationshipManagement\
client\batch-client\drm-batch-client.exe /url=net.tcp://localhost:5210/
Oracle/Drm/Engine /u=mylogin /pw=mypassword /log="C:\Oracle\Data
Relationship Management\rdsc.log" /op=Export
/xtype=Export /xname="WeeklyExport" /cver="COA Current" /pver="COA
Previous"
/outfile="C:\Oracle\Data Relationship Management\export_data.txt"
```

### 構成ファイルの構文と例

構成ファイルは INI ファイルのように、セクション、キーおよび値を使用してフォーマットされます。**General** セクションと特定の操作の追加セクションがあります。セクション名は大カッコ(())で囲まれ、任意の文字列値を使用できますが、操作キーによって指定された値と一致する必要があります。各セクション内の行は、キー=値のペアの形式でフォーマットされます。バッチ・クライアントは、[コマンドライン・パラメータと構成ファイル・キー](#)に記載の構成ファイル・キーとともに使用できます



バッチ・クライアント構成ファイルの例を次に示します。

```
[General]

Operation=Export

UserName=mylogin

Password=mypassword

URL=net.tcp://localhost:5210/Oracle/Drm/Engine

LogFileName="C:\Oracle\Data Relationship Management\rdsc.log"

[Export]

ExportType=Export

ExportName=WeeklyExport

OutFile= "C:\Oracle\Data Relationship Management\export_data.txt"

CurrentVersionAbbrev="COA Current"

PrevVersionAbbrev="COA Previous"
```

構成ファイルには、複数の操作を含めることができます。各操作は、一意のラベルとともに個別セクションに含まれます。**[Operations]**というラベルの特別なセクションは、ファイル内の操作セクションの数および各セクションのラベルを指定するために使用されます。これらの操作は、リストされている順序で実行されます。

複数の操作が含まれるバッチ・クライアント構成ファイルの例は、次のとおりです。複数の操作を使用する場合、**Operation=Import**などの操作キーを各セクションに含める必要があることに注意してください。



**ノート:**

セクション、キーおよび値の大文字と小文字は区別されません。

```
[General]
```

```
Operation=Multiple
```

```
UserName=mylogin
```

```
Password=mypassword
```

```
URL=net.tcp://localhost:5210/Oracle/Drm/Engine
```

```
LogFileName="C:\Oracle\Data Relationship Management\rdsc.log"
```

```
[Operations]
```

```
OperationCount=3
```

```
Operation1=Weekly_Import
```

```
Operation2=Update_CostCenters
```

```
Operation3=Merge_Data
```

```
[Weekly_Import]
```

```
Operation=Import
```

```
InFile="COA_data.txt"
```

```
ImportAbbrev="RDSC Import"
```

```
ImportLogFileName="C:\Oracle\Data Relationship Management\Batch
```

```
Client\import_log.txt"

VersionAbbrev="COA Current"

VersionDescription="COA for this month"

[Update_CostCenters]

Operation=Action Script

InFile=CostCenter_changes.txt

StripQuotedStrings=True

Delimiter=comma

[Merge_Data]

Operation=Blend

Blendname="COA Blender"

SourceVersionAbbrev="COA Current"

TargetVersionAbbrev="COA Previous"

NewVersionAbbrev="COA Blended"

NewVersionDescription="Current and Previous COA"
```

## コマンドライン・パラメータと構成ファイル・キー

この項のタスクでは、バッチ・クライアントで使用できるコマンドライン・パラメータと構成ファイル・キーについて説明します。

表 17-1 一般的なコマンド

キー	パラメータ	説明	必須
Operation	/op=	実行する操作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">ActionScript</a></li> <li>• <a href="#">BackupVersionToFile</a></li> <li>• <a href="#">Blend</a></li> <li>• <a href="#">CloseVersion</a></li> <li>• <a href="#">DeleteVersion</a></li> <li>• <a href="#">Export</a></li> <li>• <a href="#">Import</a></li> <li>• <a href="#">Multiple</a></li> <li>• <a href="#">OpenVersion</a></li> <li>• <a href="#">RefreshVersion</a></li> <li>• <a href="#">要求</a></li> <li>• <a href="#">RestoreVersionFromFile</a></li> </ul>	Y
UserName	/u=	ログイン用の Oracle Data Relationship Management ユーザー名を指定します。	Y
Password	/pw=	ログイン用の Data Relationship Management パスワードを指定します。	Y
URL	/url=	Data Relationship Management サーバー・プロセス内のエンジン・アプリケーションの URL (ポート番号を含む)を指定します。この URL は、Data Relationship Management 構成コンソールで構成され使用できます。例: net.tcp://localhost:5210/Oracle/Drm/Engine	Y

表 17-1 (続き) 一般的なコマンド

キー	パラメータ	説明	必須
LogFileName	/log=	<p>ログ・ファイルのパスおよびファイル名を指定します。ファイルが存在する場合、ログは既存のファイルの末尾に追加されます。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。</p> <p><b>注意:</b> 複数のバッチ・クライアント・プロセスを同時に実行するには、各プロセスに一意のログ名を指定する必要があります。</p> <p><b>ノート:</b> 値が欠落していたり無効であるパラメータなどの問題のあるパラメータの後ろに <code>/log</code> パラメータが配置されている場合、指定したログ・ファイルが作成されない可能性があります。指定したログ・ファイルが作成されるようにするには、<code>/log</code> パラメータを最初のパラメータとして配置する必要があります。</p> <p>指定されていない場合、<code>DRM_Batch_ClientMMD</code> <code>DYYYY.log</code> という名前が使用されます。<code>MM</code> は月、<code>DD</code> は日、<code>YYYY</code> は年を表します。</p>	N
N/A	/cfgfile=	<p>目的のオプションを表す構成ファイルのパスおよびファイル名を指定します。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。</p>	構成ファイルを使用している場合は Y
N/A	/h[elp]   /?	<p>コマンドライン・パラメータのリストを表示します。</p>	N
TimezoneOffset	/timezoneid	<p>GMT からのローカル・オフセット分数。たとえば、U.S. CST の GMT からのオフセット分数は <code>-360</code> です。出力内の日時の表示に使用されます。</p> <p>デフォルトはサーバーで使用されているカルチャです。</p>	N

表 17-1 (続き) 一般的なコマンド

キー	パラメータ	説明	必須
CultureName	/culturename	<p><i>languagecode-country/regioncode</i> というフォーマットのローカル・カルチャ名です。<i>languagecode</i> は ISO 639-1 から導出された小文字の 2 文字のコード、<i>country/regioncode</i> は ISO 3166 から導出された大文字の 2 文字のコードです。たとえば、米国英語の場合は <b>en-US</b> です。</p> <p>入力データの言語およびフォーマットの両方に影響します。言語は、バッチ・クライアントによってログに記録される情報メッセージおよびエラー・メッセージに明示的に適用されます。カルチャは、エクスポートなどの操作における出力の日付/時刻/浮動小数点のフォーマットを制御します。パラメータにはフォールバック値があり、そのデフォルト値は <b>Data Relationship Management</b> アプリケーションのカルチャ設定および <b>Data Relationship Management</b> ホスト・サーバーのサービス・ユーザーに対する言語およびカルチャ設定に基づいて決まります。</p>	N
ObjectAccess	/objectaccess	<p>インポート・オブジェクト、エクスポート・オブジェクトおよびブレンダ・オブジェクトにアクセスするためのオブジェクト・アクセス方法です。有効な値は、「標準」、「システム」、「ユーザー」またはカスタム・グループです。</p> <p>デフォルトは「標準」です。</p>	N
InstanceID	/instanceid=	<p><b>drm-batch-client-credentials.exe</b> 機能を使用するように複数のアプリケーションが構成されている場合に使用されるアプリケーションの <b>InstanceID</b> を指定します。</p>	<p><b>drm-batch-client-credentials</b> 機能を使用するように複数のアプリケーションが構成されている場合は Y です。</p>

表 17-2 アクション・スクリプト

キー	パラメータ	説明	必須
InFile	/infile=	入力ファイルのパスおよびファイル名を指定します。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。	Y
Delimiter	/delim=	区切り文字を指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• タブ</li> <li>• カンマ</li> <li>• <i>#nnn</i></li> </ul> <i>#nnn</i> は、任意の有効な 3 桁の ASCII 文字値(0-255)を表します。デフォルトは「タブ」です。	N
ColumnOrder	/cols=	列順序を指定します。指定する場合、すべての列識別子が含まれる必要があります。デフォルトは <b>A12345</b> です。	N
StripQuotedStrings	/stripq=	引用符で囲まれた文字列を除去するかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Y[es]</b>、<b>T[rue]</b>、または <b>1</b></li> <li>• <b>N[o]</b>、<b>F[alse]</b>、または <b>0</b></li> </ul> デフォルトは <b>True</b> です。	N
PropertyRefByLabel	/propertyrefbylabel	(名前ではなく)ラベルで参照されているプロパティを検索するには、次のいずれかの値を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Y[es]</b>、<b>T[rue]</b>、または <b>1</b></li> <li>• <b>N[o]</b>、<b>F[alse]</b>、または <b>0</b></li> </ul> デフォルトは <b>True</b> です。	N
Encoding	/encoding	エンコード名またはエンコード・コード・ページ番号としての入力ファイルの文字エンコード。このパラメータはオプションです。デフォルトは <b>UTF8</b> です。	N

表 17-3 バージョンをファイルへバックアップ

キー	パラメータ	説明	必須
VersionAbbrev	/vabbrev=	バックアップするバージョンの名前を指定します。複数のバージョンがある場合は、/delim で区切ります。	Y
Connection	/conn=	外部接続の名前を指定します。	Y
Filename	/filename=	外部接続(/conn)を使用して作成するバックアップ・ファイルの名前を指定します。	Y
Delimiter	/delim=	印刷可能な区切り文字。コロン(:)、カンマ(,)、ダッシュ(-)などの単一文字を使用します。	vabbrev がバージョンのリストでない場合は N

表 17-4 ブレンド

キー	パラメータ	説明	必須
BlendName	/bl=	実行するブレンドの名前を指定します。	Y
SourceVersionAbbrev	/sver=	ブレンドするソース・バージョンの名前を指定します。	Y
TargetVersionAbbrev	/tver=	ブレンドするターゲット・バージョンの名前を指定します。	Y
NewVersionAbbrev	/nvera=	作成する新規バージョンの名前を指定します。	N
NewVersionDescription	/nverd=	新規バージョンの説明を指定します。値は二重引用符で囲む必要があります。	N
AutoSave	/save=	ブレンドしたバージョンを保存するか、デタッチしたままにするかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> デフォルトは False です。バージョンの保存の詳細は、 <a href="#">バッチ・クライアントでのバージョンの保存</a> を参照してください。	N



表 17-4 (続き) ブレンド

キー	パラメータ	説明	必須
BlendLogFileName	/blendlog=	ブレンド・ログ・ファイルの名前を指定します(バッチ・クライアント・ログ・ファイルと同じではありません)。デフォルト値はブレンド・プロファイルに格納されています。	Y
RunTimeParameters	N/A	ランタイム・パラメータのカンマ区切りリストを指定します。形式の例: RuntimeParameters=City=Dallas,State=Texas,ZipCode=75234. 値にカンマ、特殊文字、二重引用符などの区切り文字が含まれている場合は、値を二重引用符で囲みます。 <b>ノート:</b> [CR/LF]、[CR]、[LF] は値の一部として使用できません。	N

表 17-5 バージョンを閉じる

キー	パラメータ	説明	必須
VersionAbbrev	/abbrev=	閉じるバージョンの名前を指定します。	Y

表 17-6 バージョンの削除

キー	パラメータ	説明	必須
VersionAbbrev	/vabbrev=	削除するバージョンの名前を指定します。	Y

表 17-7 エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
ExportType	/xtype	エクスポートのタイプ(個別エクスポートまたはブック)を指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>E[xport]</li> <li>B[ook]</li> </ul>	Y
ExportName	/xname=	実行する保存済エクスポートの名前を指定します。	単一レポートを実行している場合は Y

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
OutFile	/outfile=	クライアント・ファイルに出力するよう構成されたエクスポートの場合、このパラメータは、出力ファイルのパスおよびファイル名を指定します。出力ファイルが存在する場合、上書きされます。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。このパラメータが指定されており、出力を外部サーバー接続に送信するようエクスポートが構成されている場合、このパラメータによって外部サーバー接続が上書きされ、ここで指定されたファイルにエクスポートが書き込まれます。	Y
CurrentVersionAbbrev	/cver=	現在のバージョンの名前を指定します。指定されていない場合、 <b>DefaultCurrentVersion</b> システム・プリファレンスの値が使用されます。	バージョン変数がエクスポートで保存されていない場合は Y
PrevVersionAbbrev	/pver=	前のバージョンの名前を指定します。階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートに使用されます。指定されていない場合、 <b>DefaultPreviousVersion</b> システム・プリファレンスの値が使用されます。	「比較」および「差分」エクスポートで、バージョン変数がそれらとともに保存されていない場合は Y
CurrentVersionType	/cvertype=	現在のバージョンのバージョン・タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A[s Of]</li> <li>• N[ormal]</li> </ul> デフォルトは N[ormal] です。	N
PrevVersionType	/pvertype=	前のバージョンのバージョン・タイプを指定します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• A[s Of]</li> <li>• N[ormal]</li> </ul> デフォルトは N[ormal] です。	N

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
CurrentAsOfDate	/casofdate=	エクスポートの現在のバージョンの時点バージョンを作成する場合に使用する時点日時を指定します。 <b>ノート:</b> 日時フォーマットは、クライアント・コンピュータの地域設定によって決定されます。	バージョン・タイプが AsOf の場合は Y
PrevAsOfDate	/pasofdate=	エクスポートの前のバージョンの時点バージョンを作成する場合に使用する時点日時を指定します。 <b>ノート:</b> 日時フォーマットは、クライアント・コンピュータの地域設定によって決定されます。	バージョン・タイプが AsOf の場合は Y
BookName	/bk=	実行する保存済ブックの名前を指定します。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。	ブックをエクスポートする場合は Y
CombineExportOutput	/bkcmb=	/outfile または OutFile に指定されているファイルにエクスポート出力を結合するかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> このパラメータが <b>False</b> である場合、各エクスポートは、エクスポート・プロファイルに格納されているファイル名に保存されます。エクスポート・プロファイル内のファイル名が無効であるエクスポート、または出力がファイル以外の値に設定されているエクスポートは、/outfile または OutFile に指定されているファイルに結合されません。デフォルト値はブックに格納されています。	N
PreFileName	/prefile=	結合されたエクスポート・ブックの先頭に追加するパスおよびファイル名を指定します。デフォルト値はブックに格納されています。	N

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
PostFileName	/pstfile=	結合されたエクスポート・ブックに追加するパスおよびファイル名を指定します。デフォルト値はブックに格納されています。	N
FromHierarchy	/fhier=	開始(前の)階層を指定します。階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートに使用されます。	N
ToHierarchy	/thier=	終了(現在の)階層を指定します。階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートに使用されます。	N
FromTopNodeAbbrev	/fabbrv=	開始(前の)階層の最上位ノードの名前を指定します。階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートに使用されます。	N
ToTopNodeAbbrev	/tabbrv=	終了(現在の)階層の最上位ノードの名前を指定します。階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートに使用されます。	N
Hierarchy <i>n</i>	/hier=	エクスポートする階層の名前を指定します。 <i>n</i> は、現在の階層/最上位ノードのペア( <b>TopNodeAbbrev1</b> など)を示す数値(1 から <b>HierarchyCount</b> )です。 <b>Hierarchy<i>n</i></b> と一致する必要があります。階層エクスポートおよび他の同様のエクスポートに使用されますが、階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートには使用されません。	N
TopNodeAbbrev <i>n</i>	/nabbrv=	エクスポートする最上位ノードの名前を指定します。 <i>n</i> は、現在の階層/最上位ノードのペア( <b>TopNodeAbbrev1</b> など)を示す数値(1 から <b>HierarchyCount</b> )です。 <b>Hierarchy<i>n</i></b> と一致する必要があります。階層エクスポートおよび他の同様のエクスポートに使用されますが、階層比較エクスポートおよび階層差分エクスポートには使用されません。	N

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
Encoding	/encoding	<p>エンコード名またはエンコード・コード・ページ番号としてのファイルの文字エンコード。このパラメータはオプションです。</p> <p>エンコードを指定した場合、実行中のエクスポートまたはブックで保存されたエンコードは上書きされません。指定されたエンコードは、バッチ・クライアントの使用可能なローカルの前ファイル・オプションおよび後ファイル・オプションにも適用します。</p> <p><b>ノート:</b> ブックを実行すると、エンコードによって、ブック内のエクスポートのエンコードは上書きされず、ブック自体のエンコード設定のみが上書きされます。</p> <p>デフォルトは UTF8 です。</p>	N
HierarchyCount	/hier	定義した階層/最上位ノードのペアの数を指定します。	N
HierarchyGroupPropFromParam	N/A	<p>階層グループ・プロパティ名をパラメータから取得するか、指定した階層グループ・プロパティから取得するかを指定します。次のいずれかの値を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> <p>True の場合は、HierarchyGroupProperty のパラメータ名を指定します。False の場合は、HierarchyGroupProperty の階層グループ・プロパティ名を指定します。デフォルト値は False です。</p>	N

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
HierarchyGroupProperty	N/A	パラメータ名または階層グループ・プロパティ名を指定します。 HierarchyGroupPropFromParam が <b>True</b> の場合は、パラメータ名が期待されます。 <b>False</b> の場合は、階層グループ・プロパティ名(ネームスペースを含む)が期待されます。	N
HierarchyGroupFromParam	N/A	階層グループ値をパラメータから取得するか、指定した階層グループから取得するかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> <b>True</b> の場合は、HierarchyGroup のパラメータ名を指定します。 <b>False</b> の場合は、HierarchyGroup の階層グループ名を指定します。 デフォルト値は <b>False</b> です。	N
HierarchyGroup	N/A	パラメータ名または階層グループ名を指定します。 HierarchyGroupFromParam が <b>True</b> の場合は、パラメータ名が期待されます。 <b>False</b> の場合は、階層グループ名が期待されます。	N
RunTimeParameters	N/A	ランタイム・パラメータのカンマ区切りリストを指定します。形式の例: RunTimeParameters=City=Dallas,State=Texas,ZipCode=75234. 値にカンマ、特殊文字、二重引用符などの区切り文字が含まれている場合は、値を二重引用符で囲みます。 <b>ノート:</b> [CR/LF]、[CR]、[LF] は値の一部として使用できません。	N

表 17-7 (続き) エクスポート

キー	パラメータ	説明	必須
FromDate	/fdate=	トランザクション・ログ・エクスポートの開始日時を指定します <b>ノート:</b> 日時フォーマットは、クライアント・コンピュータの地域設定によって決定されます。	N
ToDate	/tdate=	トランザクション・ログ・エクスポートの終了日時を指定します <b>ノート:</b> 日時フォーマットは、クライアント・コンピュータの地域設定によって決定されます。	N

表 17-8 インポート

キー	パラメータ	説明	必須
InFile	/infile=	クライアント・ファイルからインポートするよう構成されたインポートの場合、このパラメータは、入力ファイルのパスおよびファイル名を指定します。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。 <b>注意:</b> 外部サーバー接続からの入力ファイルを使用するよう構成されたインポートにはこのパラメータを使用しないでください。使用すると、エラーが発生します。	クライアント・ファイルからインポートする場合は Y
ImportAbbrev	/iabbrev=	実行するインポートの名前を指定します。	Y
ImportLogFileName	/implog=	インポート・ログ・ファイルのパスおよびファイル名を指定します(バッチ・クライアント・ログ・ファイルと同じではありません)。デフォルトのファイル名は DRM_Batch_ClientMMD DYYYY.log です。MM は月、DD は日、YYYY は年を表します。	Y
VersionAbbrev	/vabbrev=	インポートによって作成されるバージョン名を指定します。デフォルト値はインポート・プロファイルに格納されています。	N

表 17-8 (続き) インポート

キー	パラメータ	説明	必須
VersionDescription	/vdescr=	インポートによって作成されるバージョンの説明を指定します。デフォルト値はインポート・プロファイルに格納されています。	N
AutoSave	/save=	インポートしたバージョンを保存するか、デタッチしたままにするかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> デフォルトは <b>False</b> です。バージョンの保存の詳細は、 <a href="#">バッチ・クライアントでのバージョンの保存</a> を参照してください。	N
RunTimeParameters	N/A	ランタイム・パラメータのカンマ区切りリストを指定します。形式の例: RunTimeParameters=City=Dallas,State=Texas,ZipCode=75234. 値にカンマ、特殊文字、二重引用符などの区切り文字が含まれている場合は、値を二重引用符で囲みます。 <b>ノート:</b> [CR/LF]、[CR]、[LF] は値の一部として使用できません。	N

表 17-9 Multiple

キー	パラメータ	説明	必須
OperationCount	N/A	ファイル内の操作セクションの数を指定します。0 より大きい整数を指定します。	Y
OperationN	N/A	操作セクションのラベルを指定します。N は、1 から <b>OperationCount</b> 値までの数値です。	Y



表 17-10 バージョンを開く

キー	パラメータ	説明	必須
VersionAbbrev	/vabbrev=	開くバージョンの名前を指定します。	Y

表 17-11 バージョンのリフレッシュ

キー	パラメータ	説明	必須
VersionAbbrev	/vabbrev=	リフレッシュする(閉じて再度開く)バージョンの名前を指定します。	Y

表 17-12 要求

キー	パラメータ	説明	必須
WorkflowModel	/WorkflowModel=	ワークフロー・モデルの名前を指定します。	Y
RequestTitle	/RequestTitle=	要求タイトルを指定します。	Y
Version	/vabbrev=	バージョンの名前を指定します。	ワークフロー・モデルでバージョン変数が指定されていない場合は Y
WorkflowTask	/WorkflowTask=	ワークフロー・タスクの名前を指定します。要求の送信ステージに割り当てられたタスクである必要があります。	Y
Hierarchy	/hier=	階層の名前を指定します。	階層グループを使用してデフォルト設定されていない場合は Y
Connection	/conn=	外部接続の名前を指定します。バッチ・クライアント・ユーザーのオブジェクト・アクセス・グループを介してアクセス可能なサーバー・ファイル接続を参照する必要があります。	N
FileName	/filename=	外部接続を使用して検索するファイルの名前を指定します。サーバー・ファイル接続名が指定されている場合、このパラメータはサーバー接続で使用可能なファイルを参照します。	Connection が指定されている場合は Y
InFile	/infile=	入力ファイルのパスおよびファイル名を指定します。値は二重引用符で囲んで入力することをお勧めします。	Connection が指定されていない場合は Y

表 17-12 (続き) 要求

キー	パラメータ	説明	必須
Delimiter	/delim=	印刷可能な区切り文字。コロン(:)、カンマ(,)、ダッシュ(-)などの単一文字を使用します。	N
StripQuotedStrings	/StripQuotedStrings=	ファイルに見つかったデータ値から引用符で囲まれた文字列を除去するかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> デフォルトは True です。	N
AllowBlankOverrides	/AllowBlankOverrides=	ブランクのオーバーライドを許可するかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul>	N
BlankValueIndicator	/BlankValueIndicator=	ファイル内の空白値を指定するテキスト値を指定します。	N
DeleteOnSubmitFailure	/DeleteOnSubmitFailure=	送信に成功しない場合に要求を削除するかどうかを指定します。次のいずれかの値を指定します: <ul style="list-style-type: none"> <li>• Y[es]、T[rue]、または 1</li> <li>• N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul> デフォルト値は False です。	N
Encoding	/encoding	エンコード名またはエンコード・コード・ページ番号としての入力ファイルの文字エンコード。このパラメータはオプションです。デフォルトは UTF8 です。	N

表 17-13 ファイルからのバージョンの復元

キー	パラメータ	説明	必須
Connection	/conn=	外部接続の名前を指定します。	Y

表 17-13 (続き) ファイルからのバージョンの復元

キー	パラメータ	説明	必須
Filename	/filename=	外部接続(/conn)を使用して検索するファイルの名前を指定します。	Y
SourceVersionAbbrev	/sver=	復元するソース・ファイル内のバージョンの名前を指定します。複数のバージョンがある場合は、/delimで区切ります。	Y
TargetVersionAbbrev	/tver=	/sver パラメータと相関関係にある新規バージョンの名前を指定します。複数のバージョンがある場合は、/delimで区切ります。	Y
Delimiter	/delim=	印刷可能な区切り文字。コロン(:)、カンマ(,)、ダッシュ(-)などの単一文字を使用します。	sver または tver がバージョンのリストとして指定されていない場合は N
AutoSave	/save=	復元後にバージョンを保存します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Y[es]、T[true]、または 1</li> <li>N[o]、F[alse]、または 0</li> </ul>	N

## 出力および結果コード

すべてのバッチ・クライアント操作でログ・ファイルが生成されます。また、エクスポートにより、エクスポートしたデータ・ファイルおよびエクスポート・ログ・ファイルが生成されます。ログ・ファイルには、失敗した任意のスクリプト・アイテムに関する警告が記録されます。また、すべてのエラーもログ・ファイルに記録されます(完全なエラー・メッセージを含む)。ログ・ファイルは、/log 起動パラメータによって示されたパス/ファイル名を使用して保存されます。指定しない場合、ログは DRM\_Batch\_Client\_mmdyyy.log という名前にデフォルト設定され、バッチ・クライアントが起動したフォルダと同じフォルダに書き込まれます。


また、成功か失敗かを示すエラー・レベル(終了コードまたは結果コード)も返されます。エラー・レベルは、スケジュール・プログラムまたはバッチ・ファイルによって(ERRORLEVEL、%ERRORLEVEL%などを介して)テストでき、適切なアクションを自動的に行うことができます。

表 17-14 エラー・レベル値

エラー・レベル値	説明
0	成功/正常終了
1	不明なエラー

表 17-14 (続き) エラー・レベル値

エラー・レベル値	説明
2	バッチ操作は完了しましたが、警告が生成されました。
3	バッチ操作はエラーが原因で完了しませんでした。
100	Oracle Data Relationship Management サーバーに送信する/サーバーから返されるエラー
200	バッチ・クライアントの初期化時に発生したエラー
210	無効なパラメータ値が渡されました。
220	無効な URL
230	無効なユーザー名またはパスワード

 ノート:

他のエラー・レベル値が返された場合、エラーは Windows オペレーティング・システムのもので、詳細は、Windows のドキュメントを参照してください。

## Data Relationship Analytics の使用

Oracle Data Relationship Management Analytics モジュールでは複数のダッシュボードおよびレポートが提供され、データ・マネージャがパフォーマンスを評価したり、変更をモニターしたり、問題を軽減したりできます。Data Relationship Management Analytics では次のものが提供されます。

- マスター・データおよびガバナンス要求メトリックを追跡するためのダッシュボード
  - **変更管理**—ガバナンスと対話型の変更の対比などバージョン、階層、ノード・タイプ、プロパティおよびワークフロー・モデルに基づいて変更アクティビティを分析します
  - **成長分析**—ノードの合計数、孤立ノードの数および共有ノードの数を確認し、バージョンおよび階層の経時変化を分析します
  - **要求モニタリング**—処理中の変更要求をモニターしてボトルネックおよび遅滞しているか期限の近い要求を特定し、Oracle Data Relationship Governance 要求にドリルバックします。
  - **モデル分析**—ワークフロー・モデル・デザインの分析、参加者の動作のトレンドの特定、リソース負荷およびコミットされた時間の表示、Data Relationship Governance 要求へのドリルバックを行います。
- ユーザーおよびグループ・メンバーシップ、割当ておよび認可、ユーザー・アクティビティ、およびメタデータ・オブジェクトの使用状況をモニターするレポート
  - **ユーザー役割の割当て**—役割別のユーザーまたはユーザー別の役割のリストがライセンスされたユーザー・タイプ別のカウントとともに示されます
  - **アクセス・グループ・メンバーシップ・レポート**—対話型およびワークフロー・ユーザー・グループ別のユーザーのリストが示されます
  - **オブジェクト・アクセス・グループの認可レポート**—ユーザーおよびユーザー・グループと特定の Oracle Data Relationship Management オブジェクトとのマッピングが示されます
  - **階層アクセス・グループの割当てレポート**—階層のノードに対するユーザーおよびグループのデータ権限が示されます
  - **ワークフロー・アクセス・グループの割当てレポート**—ワークフロー・モデル・ステージに対するユーザーおよびグループのデータ権限が示されます
  - **ユーザー・ログイン・アクティビティ・レポート**—一定期間のユーザー・ログイン・アクティビティのトレンド・レポートを提供します
  - **メタデータ・オブジェクトの使用状況レポート**—問合せ、比較、インポート、エクスポート、ブレンダ、ブックといった Data Relationship Management オブジェクトに関する度数分布および経過期間の情報が示されます

実行プランは、分析用のデータの準備に使用され、組込みジョブ・スケジューラを使用して実行されます。

 ノート:

ジョブを実行してデータを生成した後、現在開いているダッシュボードまたはレポートは、フィルタ基準の変更などのユーザー・アクションが実行されるまで自動的にリフレッシュされません。

ダッシュボードから **Data Relationship Governance** 要求へのドリルスルーが提供されます。ダッシュボードおよびレポートの情報は、詳細分析用に **.XLS** 形式でエクスポートできます。

 ノート:

**Data Relationship Management Analytics** では、Web ブラウザで使用されている言語が検出され、モジュールを表示する言語が決定されます。**Data Relationship Management** ではカルチャはサポートされないため、**Data Relationship Management Analytics** で数値が異なって表示される場合があります。

## バージョン系列

Oracle Data Relationship Management のバージョン系列機能では、バージョンのコピーが作成されるたびにソース・バージョンが取得されます。これによって元のソースまでバージョンの履歴をトレースし、バージョン系列に基づいて変更を分析できます。


バージョン系列は **Data Relationship Management** で設定されます。バージョンの系列を設定するには、「系列バージョン」プロパティ・フィールドを編集し、系列の構築元となるバージョンを割り当てます。バージョンをコピーした場合、コピーしたバージョンが「系列バージョン」フィールドに移入されます。バージョンが指し示している系列バージョンを削除すると、そのバージョンには系列バージョンの割当てはなくなります。詳細は、[バージョン・プロパティの編集](#)を参照してください。

バージョン系列の設定によって **Oracle Data Relationship Management Analytics** で系列全体および複数のバージョンにまたがって変更を集約できます。

## フィルタの使用

すべてのダッシュボードおよびレポートでフィルタが使用されます。フィルタはユーザーに固有でデータ依存ではないため、フィルタの組合せでデータが返されないことがあります。ダッシュボードおよびレポートに対するフィルタの選択を保存、クリアまたはリストアできます。

フィルタを保存、クリアまたはリストアするには:

-  をクリックします。
- 次のいずれかのオプションを選択します:
  - フィルタの保存**—現在のフィルタ選択を保存します

- **フィルタのクリア**—現在の選択をフィルタからクリアし、選択をデフォルトにリセットします
- **フィルタのリストア**—フィルタの選択をデフォルトまたは最後に保存したフィルタにリセットします

 **ノート:**

成長分析ダッシュボードにはフィルタ・バーはありませんが、バージョンの選択は保存またはリストアできます。

## 変更管理ダッシュボード

変更管理ダッシュボードでは、Oracle Data Relationship Management システムで一定期間に発生したノードおよびプロパティの変更を集約したビューが提供されます。このダッシュボードのメトリックは、コミット済の要求およびすべての対話型の要求に基づきます。表示される情報には、追加、挿入、非アクティブ化、移動、除去および削除されたノードとプロパティの更新の数が含まれます。変更管理ダッシュボードへのアクセスは、バージョンへのユーザーの読取りアクセス権に基づきます。ユーザーにバージョン内の 1 つ以上の階層へのアクセス権がある場合、ユーザーはそのバージョンのすべての階層を表示できます。データ・マネージャはすべてのバージョンを表示できます。

変更管理ダッシュボードには、ダッシュボードの左側にサマリー・ペインがあり、次のものが含まれます。


- 円グラフに表示された、変更タイプ別の変更の内訳。円グラフで特定の変更タイプを選択すると、リストおよびチャートのビューがその変更タイプでフィルタされます。
- リストに表示された、カテゴリ別のプロパティの更新の内訳。アクセス権があるカテゴリのみが表示されます。プロパティの更新および除去はこの数に集約されます。バージョンおよび階層プロパティの変更は追跡されません。特定のプロパティ・カテゴリを選択すると、リストおよびチャートのビューがそのカテゴリでフィルタされます。

 **ノート:**

プロパティは複数のカテゴリに存在することがあるため、カテゴリ当たりの変更の数が、表示されるプロパティの変更の合計数より多い場合があります。

- データが最後にリフレッシュされた際のタイムスタンプ付きのノードおよびプロパティの変更の合計数。この情報は読取り専用です。


ダッシュボードの右側には、選択したフィルタ・オプションに基づいて変更情報が表示されます。情報は、リスト・ビューまたはグラフ・ビューに表示されます。棒または名前をクリックしてリスト・ビューから特定の変更にドリルできます。グラフ・ビューには、期間(時間枠フィルタで設定)を x 軸、変更数を y 軸として変更の分布とトレンドが表示されます。

 **ノート:**

リリース 11.1.2.4.320 より前の過去のデータにはノード・タイプは設定されておらず、「不明」と表示されます。

## 変更メトリックの表示


変更メトリックを表示するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「**変更**」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。 をクリックして、バージョン、階層、ノード・タイプおよびワークフロー・モデルを選択します。
  - **バージョン** - 1 つ以上のバージョンを選択します。アクセス権のあるバージョンのみが表示されます
  - **バージョン系列**—選択した場合、フィルタで選択したバージョンのデータのみが表示されます。
    - これを選択し、指定された系統変更の最新バージョンもフィルタで選択した場合、系統変更内のすべてのバージョンのデータが表示されます。
    - これを選択し、最新バージョンをフィルタで選択しない場合、他のどのバージョンが選択されているかにかかわらず、系統内のバージョンのデータは表示されません。
  - **階層**—単一バージョンが選択されている場合にのみ階層を選択できます。
  - **ノード・タイプ**—ノード・タイプを選択します。
  - **メソッドの変更**—「すべて」、「対話型」、「ワークフロー」から選択します。
  - **ワークフロー・モデル**—「ワークフロー」変更メソッドが選択されている場合にのみワークフロー・モデルを選択できます。
  - **時間枠**—あらかじめ定義された時間枠を選択するか、「**カスタム**」を選択して「**開始日**」および「**終了日**」を選択します。
3. 「**適用**」をクリックします。


 **ヒント:**



をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. 変更管理ダッシュボードでのメトリックの表示方法を設定します。
  -  「**リスト・ビュー**」をクリックします—一次のオプションから選択します。
    - 表示基準



- \* 階層
- \* ノード・タイプ
- \* ワークフロー・モデル—変更メソッドが「ワークフロー」に設定されている場合にのみ使用できます
- \* プロパティ—「要約」ペインで「プロパティ変更」を選択した場合にのみ使用できます
- ソート基準
  - \* カウント
  - \* 名前
-  「グラフ」をクリックして、変更の分布とトレンドのチャートを表示します。期間(時間枠で設定)が x 軸に表示され、時間枠内の変更の数が y 軸に表示されます。
- チャートの表示方法を設定します。
  - 選択した変更メソッドが「すべて」の場合、チャートに 3 つのトレンド線が表示されます。
    - \* ワークフロー・トレンド線
    - \* 対話型トレンド線
    - \* ワークフローと対話型の両方の変更に対する累積トレンド線
  - 変更メソッドに「ワークフロー」または「対話型」が選択されている場合、そのメソッドに対する単一トレンド線のみが表示されます。
- 変更メソッドにドリルし、追加情報を得ます。

ドリルは、期間が週単位または月単位で設定されている場合にのみ使用できます。データ・ポイントをクリックして、特定の月/週および変更メソッドにドリルします。期間が日単位で設定されている場合、ドリルは使用できません。

## 成長分析ダッシュボード

成長分析ダッシュボードでは、ノードの合計数、孤立と共有ノードの数、過去 30 日間のノードの増加を表示することでバージョンおよび階層の経時変化を分析できます。このダッシュボードには、読取りアクセス権のあるバージョンのみが表示されます。ユーザーにバージョン内の 1 つ以上の階層へのアクセス権がある場合、ユーザーはそのバージョンのすべての階層を表示できます。ノード・アクセス・グループのみが対象です。ワークフロー・ノード・アクセス・グループのアクセスは対象ではありません。

成長分析ダッシュボードでは、左側にバージョンのリストと対応するノード・メトリックのグラフが表示されます。系列化されたバージョンには棒グラフが使用され、系列化されていないバージョンには使用可能な各スナップショットをポイントとする折れ線グラフが使用されます。いずれのチャートでも棒またはポイントにホバーすると詳細情報が得られます。ダッシュボードの右側には、合計ノード、孤立および共有ノードのノード数およびノード数の増減が表示されます。系列化されたバージョンの場合、この数は前のバージョンからの増減です。系列化されていないバージョンの場合、この数は過去 30 日間の増減です。バージョンのグループは、バージョンが系列化されているかどうか、バージョン名または合計ノード数でソートできます。

バージョン名をクリックすると、選択したバージョンの階層別のノード・メトリックにドリルします。単一バージョン・ビューを階層グループでフィルタしたり、名前またはノード数

でソートできます。ダッシュボードの左上隅のドロップダウン・リストから別のバージョンを選択するか、**バージョン数**リンクをクリックしてバージョンの完全なリストに戻ります。


## 成長メトリックの表示

成長メトリックを表示するには:


1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「**成長**」を選択します。
2. バージョンの数が 5 個より多いと、バージョンを選択するよう求められます。「**バージョンの選択**」をクリックし、 をクリックしてバージョンを選択し、「**OK**」をクリックして「**適用**」をクリックします。

### ノート:

すでにフィルタを保存している場合、以前に選択したバージョンが表示されます。

3. メトリックを表示するための次のオプションから選択します。
  - バージョンを追加または除去するには、「**バージョンの選択**」をクリックし、 をクリックしてバージョンを選択し、「**OK**」をクリックして「**適用**」をクリックします。
  - 階層別のノード・メトリックにドリルするには、バージョン名をクリックします。
  - バージョンのリストをソートするには、「**ソート基準**」から「系列」、「名前」または「カウント」を選択します。

### ヒント:

 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、フィルタをデフォルトの設定にリセットします。

## 要求モニタリング・ダッシュボード

要求モニタリング・ダッシュボードには、ステータスが「ドラフト」、「取下げ済」、「却下済」または「コミット済」ではない開いている Oracle Data Relationship Governance 要求に関連するキー・パフォーマンス・インジケータが表示されます。外れ値および問題の領域を特定する便利な方法が提供され、Data Relationship Governance 要求へのドリルバックを可能にします。Data Governance ユーザーは、コミット・アクセス権を持つすべての要求にアクセスできます。データ・マネージャは、システム内のすべての要求にアクセスできます。

要求モニタリング・ダッシュボードの左側には、次の要求数を示す内訳が表示されます。

- オープン

- 期限間近—期限が 3 日以内の要求
- 緊急
- エスカレート済
- 遅滞
- 請求済
- 請求解除済

対応する詳細がダッシュボードの中央に表示されます。要求の詳細は、グラフ・ビュー、散布図ビューまたはリスト・ビューに表示されます。

## 要求メトリックの表示

要求メトリックを表示するには:


1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「**要求**」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。

### ノート:


フィルタ・オプションは、システムで処理中の要求から導出されます。

- **モデル**—個々のモデルを選択するか、「**すべて**」を選択します。  
関係のあるモデルのみが表示されます。
  - **アクセス・グループ**—個々のアクセス・グループを選択するか、「**すべて**」を選択します。
  - **バージョン**—個々のバージョンを選択するか、「**すべて**」を選択します。
  - **送信者**—個々の送信者を選択するか、「**すべて**」を選択します。
  - **開始日**—開始日を入力します。これは、要求の送信日です。
  - **終了日**—終了日を入力します。
3. 「**適用**」をクリックします。







### ヒント:

 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. 要求モニタリング・ダッシュボードでのメトリックの表示方法を設定します。

-  「**グラフ・ビュー**」—モデルまたはユーザー・グループ別に要求を表示できます。「モデル」または「ユーザー・グループ」をクリックし、モデルまたはユーザー・グループをクリックしてドリルします。モデルをクリックし、カウントのステージ別の内訳を表示します。要求のないステージも含め、モデルのすべてのステージが表示

されます。ユーザー・グループ名をクリックし、カウントのユーザー名別の内訳を表示するユーザー・チャートにドリルします。

- 
**「散布図ビュー」** —モデルまたはユーザー・グループ別に要求を表示できます。「モデル」または「ユーザー・グループ」をクリックし、モデルまたはユーザー・グループをクリックしてドリルします。チャートの x 軸に各要求の相対期日が表示されます。0 より大きい数値は要求が遅滞していることを示します。0 未満の数値は、要求の期限までの日数を示します。y 軸は、要求が送信されてからの要求の実際の経過時間です。チャート上の要求をクリックすると、追加の要求メタデータおよび詳細にドリルし、**Oracle Data Relationship Governance** 要求にドリルバックできます。
- 
**「リスト・ビュー」** —要求をリストで表示し、ソートしたり、並べ替えたり、表示する列を選択できます。
  - 追加の要求メタデータを表示し、**Data Relationship Governance** 要求にドリルバックするには、要求 ID をクリックし、 をクリックします。
  - 要求の表をデタッチして大きくし、使いやすくするには、 をクリックするか、「**表示**」、**デタッチ**の順にクリックします。
  - 例による問合せを使用して列をフィルタするには、 をクリックするか、「**表示**」、**例による問合せ**の順にクリックします。
  - 列を設定するには:
    - a. 「**表示**」、**「列」**の順にクリックします。
    - b. 次のオプションから選択して列を設定します:
      - \* **すべて表示**—すべての列をビューに表示します。
      - \* ビュー用の列を選択または選択解除します。
      - \* **列の管理**—**「非表示列」** リストから **「表示列」** リストに列を移動し、「**OK**」をクリックします。
  - 列を並べ替えるには:
    - a. 「**表示**」、**列の並替え**の順にクリックします。
    - b. 1 つ以上の列を選択し、上下の矢印を使用して列を新しい位置に移動します。
    - c. 「**OK**」をクリックします。
  - リスト・ビューの結果を .XLS 形式でエクスポートするには、 をクリックし、ファイルを保存します。

## モデル分析ダッシュボード

モデル分析ダッシュボードには、完了した要求の履歴パフォーマンスを示すことで **Oracle Data Relationship Governance** ワークフロー・モデル・デザインの分析が示されます。完了した要求はコミットまたは却下された要求です。処理中の要求は分析に


含まれません。ダッシュボードでは、参加者の動作のトレンド、要求アクティビティのトレンド、リソース負荷およびコミットされた時間を確認できます。**Data Governance** ユーザーは、コミット・アクセス権を持つすべての要求にアクセスできます。データ・マネージャは、システム内のすべての要求にアクセスできます。ダッシュボードには、**Data Relationship Governance** 要求にドリルバックする機能および詳細に分析するために XLS 形式にエクスポートする機能があります。

モデル分析ダッシュボードには、ダッシュボードの左側にサマリー・ペインがあり、次のものが含まれます。

- フィルタ基準に合う要求の数
- 期限ステータス別要求の内訳。円グラフ内の要求は、次の 3 つのグループで構成されています:
  - 期日のない要求
  - 時間どおりに完了した要求
  - 完了時に遅滞していた要求
- サイクル時間—要求の完了にかかった時間の平均
- 参加者—要求に参加したユーザーの平均数

## モデル・メトリックの表示

モデル・メトリックを表示するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「**モデル**」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **モデル**— をクリックし、モデルを選択して「**OK**」をクリックします。
  - **モデル・ステータス**—ステータスを選択します。
    - アクティブと非表示
    - 非表示のみ
    - アクティブのみ
  - **時間枠**—あらかじめ定義された時間枠を選択するか、「**カスタム**」を選択して「**開始日**」を選択します。**終了日**はオプションです。
3. 「**適用**」をクリックします。

### ヒント:




をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. モデル分析ダッシュボードでのメトリックの表示方法を設定します。

- **モデルのパフォーマンス・ビュー**  —パフォーマンスをリスト・ビュー




または「サービス・レベル合意プロット」ビュー  で表示できます。



リスト・ビューでは、フィルタの選択内容と一致するモデルが、要求数、要求の完了にかかった平均サイクル時間、要求アイテムの平均数、参加者の平均数といった情報とともに表示されます。リスト・ビュー内の棒の色は、円グラフの色と一致します。モデルの名前をクリックし、モデルの詳細にドリルします。リスト・ビューは、カウント、平均サイクル時間、ラベルでソートできます。サイクル時間は、要求の完了時間から要求の送信時間を引いた時間です。平均サイクル時間でソートする場合、平均サイクル時間が最も長いモデルが最初にリストされます。

リスト・ビューでは、モデル名をクリックしてモデルにドリルします。サービス・レベル合意プロットでは、グラフ内のポイントをクリックしてモデルにドリルします。次のタブが、モデルのパフォーマンス・ビューに提供されています:



- 「**モデル概要**」タブ  —モデルの概要情報が表示され、Oracle Data Relationship Management の要求にドリルバックできます。


次の情報が「モデル概要」タブに表示されます。

- \* 期限ステータスに基づいた、クリックして要求にドリル可能なセグメント化されたカラー・バー—バーをクリックした後、 をクリックして結果を Excel スプレッドシートにエクスポートするか、要求の隣の  をクリックして Data Relationship Management 内の要求にドリルバックします。


この画面でコンテンツを表示した後「モデル概要」画面に戻るには、画面の右上隅の「戻る」をクリックします。ブラウザの戻るボタンを使用しないでください。

- \* 要求期間—フィルタされたモデルの要求期間設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
- \* 請求期間—フィルタされたモデルの現在の請求期間設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
- \* 請求解除期間—選択したモデルのすべての要求で請求解除ステータスであった時間の割合
- \* サイクル時間—選択したモデルのすべての要求の完了にかかった時間の平均
- \* 参加者—選択したモデルのすべての要求での一意の参加者の平均数
- \* 条件付きステージ—モデル内の条件付きのステージ数。たとえば、条件付きステージが 3 つある 4 ステージ・モデルでは、「3/4」と表示されます。
- \* 業務の分割が使用可能—業務の分割が使用可能なステージの数

- \* SLA 違反—要求レベルで要求期間または期日を過ぎた要求の数
- \* スリップページ—1 つ以上の請求期間違反があった要求の数
- \* プッシュバック—1 つ以上のプッシュ・バックがあった要求の数
- \* エスカレーション—1 つ以上のエスカレーションがあった要求の数
- \* 自動スキップ—1 つ以上の条件付きエンリッチ・ステージまたは承認ステージがスキップされた要求の数
- \* 自動承認—1 つ以上のエンリッチ・ステージまたは承認ステージが上位に移動された(システムによって承認された)要求の数
- \* 自動コミット—スキップまたは上位に移動されたコミット・ステージのある要求の数

 **ノート:**


自動コミット数は、自動スキップ数または自動承認数に含まれません。


- **「プロセス効率」** タブ  —ワークフロー・モデルの各ステージの内訳の分析が表示されます。ボトルネック、リソース要件および参加者の負荷が識別されます。次のメトリックが、フィルタされたモデルに提供されています:

- \* 平均サイクル時間
- \* 請求期間と請求解除期間の割合
- \* 要求期間
- \* 要求請求期間
- \* 要求合計数
- \* 合計リソース





次のメトリックが、フィルタされたモデルの各ステージに提供されています:

- \* 平均サイクル時間
- \* ステージがアイドルだったサイクル時間の割合。
- \* 遅延した(請求期間が経過した)要求の数
- \* コミットされたリソースの人時数
- \* 参加者の平均数

- **「スループット」** タブ  —選択したモデルに対して送信された要求をグラフィカルに表示します。

- **「参加者」** タブ  —単一モデルの参加者メトリックが表示されます。最小数の要求またはアイテムが含まれるようビューをフィルタできます。両方のビューともコミットされた割合、要求アイテムまたは参加者名でソートできます。セグメ


ント化されたバーまたは色分けされた値をクリックして、却下またはコミットされた要求の要求リストにドリルできます。

- **要求スループット・ビュー**  — フィルタされたモデルに対して送信された要求をグラフィカルに表示します。デフォルト・ビューに、選択した時間枠のすべての送信済、コミット済および却下済の要求のメトリックが表示されます。表示をフィルタしてコミット済、却下済または送信済の要求のみ表示できます。
- **参加者のパフォーマンス・ビュー**  — 「送信者」および「コミット者」の 2 つのビューでメトリックが表示されます。処理している要求が最も多い参加者または最も少ない参加者を判別できます。  をクリックして、要求を送信したユーザーに基づいてメトリックを表示します。  をクリックして、要求を完了したユーザーに基づいてメトリックを表示します。最小数の要求またはアイテムが含まれるようビューをフィルタできます。両方のビューともコミットされた割合、要求アイテムまたは参加者名でソートできます。

## ユーザー役割の割当てレポート

このレポートには、ユーザー役割に割り当てられたユーザー数のリスト・ビューおよびグラフ・ビューが示されます。

レポートを実行するには:


1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「ユーザー役割の割当てレポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **ユーザー** — 「すべて」を選択するか、  をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
  - **役割** — 「すべて」を選択するか、役割を選択します。
3. 「適用」をクリックします。

### ヒント:





ををクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. レポートでの情報の表示方法を設定します。

- **グラフ・ビュー**  — 各ユーザー役割に割り当てられているユーザーの数および次のユーザー・タイプの数




- **ガバナンス・ユーザー**—「ガバナンス・ユーザー」役割のユーザー
- **データ・スチュワード**—次のいずれかの役割のユーザー
  - \* 対話型ユーザー
  - \* データ作成者
  - \* データ・マネージャ
  - \* アプリケーション管理者
  - \* アクセス・マネージャ
- **分析ユーザー**—次のいずれかの役割のユーザー
  - \* 分析ユーザー
  - \* ガバナンス・マネージャ
- **匿名ユーザー**—「匿名ユーザー」役割のユーザー

-  **「リスト・ビュー」**—ユーザーまたは役割別のリストが表示されます。 をクリックしてレポートを .XLS 形式にエクスポートします。


## アクセス・グループ・メンバーシップ・レポート


このレポートには、対話型およびワークフロー・ユーザー・グループ別のユーザーのリスト・ビューが表示されます。

レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「**レポート**」を選択し、「**アクセス・グループ・メンバーシップ・レポート**」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **ユーザー**—「**すべて**」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「**OK**」をクリックします。
  - **アクセス・グループ**—「**すべて**」を選択するか、アクセス・グループを選択します。
  - **グループのタイプ**—「対話型」、「ワークフロー」または「両方」を選択します。
  - **スコープ**—「ローカル」、「グローバル」または「両方」を選択します
3. 「**適用**」をクリックします。

### ヒント:

 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. **オプション:**  をクリックしてレポートを .XLS 形式にエクスポートします。


# オブジェクト・アクセス・グループの認可レポート

このレポートには、ユーザーおよびユーザー・グループと特定の Oracle Data Relationship Management オブジェクトとのリスト・ビュー・マッピングが示されます。

## ノート:


「アクセス・マネージャ」役割のユーザーはこのレポートのアクセス権を持ち、ユーザーが Data Relationship Management で表示できるグループに関係なく、すべてのオブジェクト・アクセス・グループを表示できます。


レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「オブジェクト・アクセス・グループの認可レポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - オブジェクト・アクセス・グループ—「すべて」を選択するか、グループを選択します。
  - ユーザー—「すべて」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
  - アクセス・グループ—「すべて」を選択するか、アクセス・グループを選択します。
  - オブジェクト・タイプ—「すべて」を選択するか、オブジェクトを選択します。デフォルトは「なし」です。
3. 「適用」をクリックします。

## ヒント:




 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. オプション:  をクリックしてレポートを.XLS 形式にエクスポートします。

## 階層アクセス・グループの割当てレポート


このレポートには、階層のノードに対するユーザーおよびグループのデータ権限を表示したリスト・ビューが示されます。


レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「階層アクセス・グループの割当てレポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - バージョン—バージョンを選択します。
  - 階層—「すべて」を選択するか、階層を選択します。
  - ユーザー—「すべて」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
  - アクセス・グループ—「すべて」を選択するか、アクセス・グループを選択します。
  - アクセス・グループ・タイプ—「対話型」、「ワークフロー」または「両方」を選択します。
  - アクセス・レベル—「すべて」を選択するか、アクセス・レベルを選択します。
3. 「適用」をクリックします。

#### ヒント:



 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. リストの表示方法(ユーザーまたは階層別)を設定します。
5. オプション:  をクリックしてレポートを.XLS 形式にエクスポートします。

#### ノート:

グローバル・ノード・アクセス・グループの場合、このレポートには、アクセス権が割り当てられる制御階層のみが表示されます。ユーザーは、グローバル・アクセス権が付与されている追加の階層へのアクセス権を持つ場合があります。



## ワークフロー・アクセス・グループの割当てレポート


このレポートには、ワークフロー・モデル・ステージに対するユーザーおよびグループのデータ権限を表示したリスト・ビューが示されます。

#### 注意:


同じラベルを使用したモデルは、ワークフロー・アクセス・グループの割当てレポートでは区別されません。


レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「ワークフロー・アクセス・グループの割当てレポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **モデル**—「すべて」を選択するか、 をクリックしてモデルを選択し、「OK」をクリックします。
  - **ステージ**—「すべて」を選択するか、ステージを選択します。
  - **ユーザー**—「すべて」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
3. 「適用」をクリックします。

 **ヒント:**




 をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. リストの表示方法(モデルまたはユーザー別)を設定します。
5. **オプション:**  をクリックしてレポートを .XLS 形式にエクスポートします。

## ユーザー・ログイン・アクティビティ・レポート

このレポートでは、一定期間のユーザー・ログイン・アクティビティのトレンド・レポートを表示するリスト・ビューが示されます。

レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「ユーザー・ログイン・アクティビティ・レポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **時間枠**—あらかじめ定義された時間枠を選択するか、「カスタム」を選択して「開始日」および「終了日」を選択します。
  - **ユーザー**—「すべて」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
3. 「適用」をクリックします。

 ヒント:

をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. レポートでの情報の表示方法を設定します。




- 「グラフ・ビュー」 — 一意ログインのスケールが左側に表示され、合計ログインのスケールが右側に表示されます。

 ノート:

このビューにログイン結果が表示されるには、選択した時間枠に少なくとも 2 つのログインがある必要があります。ログインが 2 より少ない場合、結果をリスト・ビューで表示します。




- 「リスト・ビュー」 —  をクリックしてレポートを .XLS 形式にエクスポートします。

## メタデータ・オブジェクトの使用状況レポート

このレポートには、問合せ、比較、インポート、エクスポート、ブレンダ、ブックといった Oracle Data Relationship Management オブジェクトに関する度数分布および経過期間の情報が示されます。


レポートを実行するには:

1. Oracle Data Relationship Management Analytics で「レポート」を選択し、「メタデータ・オブジェクトの使用状況レポート」を選択します。
2. フィルタ・バーをクリックし、フィルタ・オプションを設定します。
  - **オブジェクト・タイプ**—オブジェクト(「エクスポート」、「ブック」、「比較」、「問合せ」、「インポート」、「ブレンダ」)を選択します。
  - **時間枠**—あらかじめ定義された時間枠を選択するか、「カスタム」を選択して「開始日」および「終了日」を選択します。
  - **ユーザー**—「すべて」を選択するか、 をクリックしてユーザーを選択し、「OK」をクリックします。
3. 「適用」をクリックします。

 ヒント:



をクリックして現在のフィルタ設定を保存するか、デフォルトの保存済フィルタ設定にリセットするか、現在のフィルタ選択をクリアします。

4. **オプション:**  をクリックしてレポートを .XLS 形式にエクスポートします。

# A

## ダッシュボード・メトリック

### 変更管理ダッシュボード

このダッシュボードでは、Oracle Data Relationship Management システムで一定期間に発生したノードおよびプロパティの変更を集約したビューが提供されます。このダッシュボードのメトリックは、コミット済の要求およびすべての対話型の変更に基づきます。このダッシュボードには、ノード全体での追加、更新、移動、削除などの変更アクションおよびプロパティの変更が含まれ、階層、ノード・タイプ、プロパティ・カテゴリなどによる変更の視点が加わります。ユーザーは変更メソッド別の変更のトレンドを理解し、ガバナンスの取込みを承認できます。ユーザーはコンテキストで各変更ドリルしてトランザクションの詳細を確認したり、これらの詳細をフラット・ファイルにエクスポートしてオフラインでさらに分析したりできます。このダッシュボードでは、ユーザーは要求レベルおよびトランザクション・レベルの詳細にドリル・ダウンできます。

このダッシュボードは、次によりフィルタできます：

- バージョン—ログインしているユーザーが読取りアクセス権を持つバージョンのみを表示する保護されたフィルタ。データ・マネージャはすべてのバージョンを表示できます。
- 階層—選択したバージョン内の階層を強調表示する依存フィルタ
- ノード・タイプ—構成済のノード・タイプをすべてリストする独立したフィルタ
- メソッドの変更—ワークフロー、対話型または両方のメソッドに基づく変更の分析を可能にするフィルタ
- ワークフロー・モデル—すべてのワークフロー・モデル(アクティブおよび非アクティブの両方)を表示するフィルタ
- 時間枠—変更がバージョンにおいて対話型でいつ実行されたか、または変更がガバナンス・ワークフローによりバージョンにいつコミットされたかを反映するための事前定義済の日付範囲またはカスタムの日付範囲を選択するフィルタ

ダッシュボードに表示されるメトリックは、フィルタの選択に依存します。

表 A-1 変更管理ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
リスト・ビュー	

表 A-1 (続き) 変更管理ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
ノード変更	<p>変更タイプ別に内訳が円グラフで表示されるノード変更の合計数。このメトリックは、次が行われたノードを追跡します:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 追加</li> <li>• 挿入</li> <li>• 移動</li> <li>• 非アクティブ化</li> <li>• 除去</li> <li>• 削除</li> </ul> <p>円グラフの色は、リスト・ビュー内のセグメント化されたバーの色と一致します。円グラフ内の各変更タイプをクリックすると、リスト・ビューをフィルタして、選択したタイプのノード変更を表示できます。セグメント化されたバーの各変更タイプをクリックすると、選択したタイプに関連付けられているトランザクションにドリルできます。</p>
プロパティ変更	<p>プロパティ・カテゴリ別に内訳が表示されるプロパティ変更の合計数。プロパティの更新および除去は合計数に集約されます。このメトリックは、ログインしているユーザーが読み取りアクセス権を持つプロパティのみを表示するように保護されています。</p> <p><b>ノート:</b> プロパティは複数のカテゴリに存在することがあるため、カテゴリ当たりのプロパティ変更の数が、表示されるプロパティの変更の合計数より多い場合があります。</p> <p>各プロパティ・カテゴリをクリックすると、リスト・ビューをフィルタして、選択したカテゴリのプロパティ変更を表示できます。リスト・ビュー内のグレーのバーをクリックすると、カテゴリに関連付けられているトランザクションにドリルできます。</p>
合計変更数	ノードおよびプロパティ変更の合計数。
<b>グラフ・ビュー</b>	
ワークフロー	セグメント化されたバーの青色は、ワークフロー・メソッドにより送信された要求の割合を示しています。グラフ上の青色の点は、ワークフロー・メソッドにより送信された要求の数を示しています。
対話型	セグメント化されたバーのオレンジ色は、対話型メソッドにより送信された要求の割合を示しています。グラフ上のオレンジ色の点は、対話型メソッドにより送信された要求の数を示しています。

## 成長分析ダッシュボード

このダッシュボードでは、ノードの合計数、孤立および共有ノードの数、前のバージョンからのノードの合計増加数または減少数(系列化されたバージョンの場合)、および



過去 30 日間の合計増加数または減少数(系列化されていないバージョンの場合)が表示され、バージョンおよび階層の経時変化を分析できます。このダッシュボードでは、ユーザーはバージョン・レベルから階層レベルにドリルできます。このダッシュボードでは、フィルタは使用されません。

表 A-2 成長分析ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
合計ノード(バージョン)	バージョン内の一意のノードの合計数
合計ノード(階層)	階層内のノードの合計数
孤立	バージョン内の孤立ノード数
共有	バージョンまたは階層内の共有ノード数
増加/減少	系列化されていないバージョン: 過去 30 日間のバージョンまたは階層内の増減 系列化されたバージョン: 前のバージョンからのバージョンまたは階層内の増減

## 要求モニタリング・ダッシュボード

要求モニタリング・ダッシュボードでは、開いている Oracle Data Relationship Governance 要求に関係があるキー・パフォーマンス・インジケータが表示され、ボトルネックおよび遅滞しているか期限の近い要求を特定でき、Data Relationship Governance 要求にドリルバックして要求を変更できます。このダッシュボードでは、ユーザーは要求レベルおよびトランザクション・レベルの詳細にドリル・ダウンできます。ユーザーは、Data Relationship Governance にドリルバックして、アクションを実行できます(たとえば、請求済で遅滞している要求の請求を解除し、割当て済アクセス・グループ内の他のユーザーがそれを請求し作業できるようにできます)。

このダッシュボードは、次によりフィルタできます:

- モデル—ユーザーがコミット・アクセス権を持つモデルのみを表示する保護されたフィルタ。データ・マネージャは、処理中の要求を含むすべてのワークフロー・モデルを表示できます。
- アクセス・グループ—アクティブな要求があるノード・アクセス・グループを表示するフィルタ
- バージョン—アクティブで処理中の要求があるバージョンのみを表示するフィルタ
- 送信者—アクティブで処理中の要求を持つすべての送信ステージ・ユーザーを表示するフィルタ
- 開始日—送信日に基づいて要求をフィルタします
- 終了日—送信日に基づいて要求をフィルタします

### ノート:

開始日、終了日または両方を指定できます。

ダッシュボードに表示されるメトリックは、フィルタの選択に依存します。

表 A-3 要求モニタリング・ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
<b>要約メトリック</b>	
オープン	オープンな要求の数
期限間近	期限が 3 日間以内の要求数
緊急	送信ステージ・ユーザーによって緊急とマークされている要求数
エスカレート済	システムによって自動的にエスカレートされたか、参加者によって手動でエスカレートされた要求数。
遅滞	遅滞している要求数。送信日と要求期間の組合せ(モデル・レベルで設定)に基づいて導出されます。参加者は、要求内の「期限」タグも設定できます。設定すると、この日付により、ワークフロー・モデルのデフォルトが上書きされます。要求期間を設定しないと、「期限」が設定されている場合のみ要求はこのカウントに含まれます。
請求済	選択されたメトリックの請求済要求数 - オープン、期限間近、緊急、エスカレート済、遅滞。
請求解除済	選択されたメトリックの請求解除済要求数 - オープン、期限間近、緊急、エスカレート済、遅滞。
<b>ステージ別要求カウント</b>	
要求	このステージの要求数
請求済	このステージの請求済要求数
請求解除済	このステージの請求解除済要求数
ステージ・タイプ	各ステージ・タイプの要求数(例: 送信、承認、コミット)。
<b>ユーザー別要求カウント</b>	
要求	このユーザーの要求数
請求済	このユーザーの請求済要求数
請求解除済	このユーザーの請求解除済要求数
ステージ・タイプ	このユーザーの各ステージ・タイプの要求数(例: 送信、承認、コミット)
<b>モデル別要求カウント</b>	
要求	このモデルの要求数
請求済	このモデルの請求済要求数
請求解除済	このモデルの請求解除済要求数
ステージ・タイプ	このモデルの各ステージ・タイプの要求数(例: 送信、承認、コミット)
<b>アクセス・グループ別要求カウント</b>	
要求	このアクセス・グループの要求数

表 A-3 (続き) 要求モニタリング・ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
請求済	このアクセス・グループの請求済要求数
請求解除済	このアクセス・グループの請求解除済要求数
ステージ・タイプ	このアクセス・グループの各ステージ・タイプの要求数(例: 送信、承認、コミット)

## モデル分析ダッシュボード

このダッシュボードでは、参加者の動作のトレンド、リソース負荷などの完了した(コミットまたは却下された)要求の履歴パフォーマンスの表示による **Oracle Data Relationship Governance** ワークフロー・モデル・デザインの分析および **Data Relationship Governance** 要求へのドリルバック機能が提供されます。各ワークフロー・モデルによって処理された、完了した要求のパフォーマンスがレポートされ、サービス・レベル合意、達成された自動化のレベル、サイクル時間、コミットされたリソース、要求の負荷、スループットおよび参加者の関与に基づいてモデルのパフォーマンスを理解できます。

このダッシュボードは、次によりフィルタできます:

- モデル—ログインしているユーザーがコミット・アクセス権を持つモデルのみを表示する保護されたフィルタ。データ・マネージャはすべてのワークフロー・モデルを表示できます。
- モデル・ステータス—このフィルタにより、エンド・ユーザーは、アクティブまたは非表示のワークフロー・モデル、あるいはその両方を表示できます
- 時間枠—各ワークフロー・モデルに関連付けられている完了済要求を評価する対象の事前定義済の日付範囲またはカスタムの日付範囲を選択するフィルタ

ダッシュボードに表示されるメトリックは、フィルタの選択に依存します。

表 A-4 モデル分析ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
<b>要約メトリック - 完了した要求</b> このセクションのメトリックは、フィルタ基準に一致するすべてのモデルが対象です。	
カウント	予定どおりの要求数、遅滞要求数および期限日のない要求数で構成される完了した要求の合計数
予定どおり	期限内で完了した要求の割合
遅滞	期日を過ぎた要求の割合
期限日なし	期限日のない要求の割合
サイクル時間	すべての要求の完了にかかった時間の平均。個別の要求のサイクル時間は、要求の完了時間から要求の送信時間を引いた時間として算出されます。要求完了時間は、要求がコミットまたは却下され、最終ステータスに到達した時点です。平均サイクル時間は、集約された時間を要求数で除算した値です。

表 A-4 (続き) モデル分析ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
参加者	すべての要求での一意の参加者の平均数。各要求に対して、一意の参加者数のカウントが維持されます。送信者、エンリッチ実行者および承認者は参加者としてカウントされます。各参加者は、ステージにかかわらず要求を複数回行った場合でも、1 回のみカウントされます。ユーザーが要求を請求すると、参加者と見なされます。
<b>モデルのパフォーマンス: すべてのモデル - リスト・ビュー</b>	
このセクションのメトリックは、個別のワークフロー・モデルに固有です。セグメント化されたカラー・バーの上のモデル名をクリックすると、特定のモデルのメトリックを表示できます。	
要求	モデルの合計要求数。セグメント化されたカラー・バーは、各カテゴリの要求数を示しています。
サイクル時間	モデル内の要求の完了にかかった時間の平均。要求の完了時間から要求の送信時間を引いて算出されます。要求完了時間は、要求がコミットまたは却下され、最終ステータスに到達した時点です。
要求アイテム	モデル内の要求当たりの要求アイテムの平均数
参加者	モデル内の要求の一意の参加者の平均数
<b>モデル・インスペクタの「概要」タブ</b>	
このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有です	
要求	フィルタ基準に一致するモデルに対する要求数
要求期間	モデルに対する要求期間の設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
請求期間	フィルタされたモデルの現在の請求期間設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
請求解除期間	選択したモデルのすべての要求で請求解除ステータスであった時間の割合
サイクル時間	選択したモデルのすべての要求の完了にかかった時間の平均
参加者	選択したモデルのすべての要求での一意の参加者の平均数
条件付きステージ	モデル内の条件付きのステージ数。たとえば、条件付きステージが 3 つある 4 ステージ・モデルでは、"3/4"と表示されます。
業務の分割が使用可能	業務の分割が使用可能なステージの数
SLA 違反	要求レベルで要求期間または期日を過ぎた要求の数
スリップページ	1 つ以上の請求期間違反があった要求の数
プッシュバック	1 つ以上のプッシュ・バックがあった要求の数
エスカレーション	1 つ以上のエスカレーションがあった要求の数

表 A-4 (続き) モデル分析ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
自動スキップ	1 つ以上の条件付きエンリッチ・ステージまたは承認ステージがスキップされた要求の数
自動承認	1 つ以上のエンリッチ・ステージまたは承認ステージが上位に移動された(システムによって承認された)要求の数
自動コミット	スキップまたは上位に移動されたコミット・ステージのある要求の数 <b>ノート:</b> 自動コミット数は、自動スキップ数または自動承認数に含まれません。
<b>モデル・インスペクタの「プロセス効率」タブ - 「モデル概要」セクション</b> このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有です	
平均モデル・サイクル時間	モデル内のすべての要求の平均サイクル時間
請求解除期間	モデル内のすべての要求の請求解除時間の割合
請求済期間	モデル内のすべての要求の請求済時間の割合
要求期間	モデルに対する要求期間の設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
請求期間	モデルの現在の請求期間設定値。表示される値は動的であり、モデル内で変更された場合変更されます。追加のメトリックを表示する際、参照用に表示されます。
合計要求数	フィルタ基準に一致する要求の合計数
合計リソース	モデルの合計リソース数(フルタイム当量の時間数)。この数値は、2000 時間/人年メトリックを使用して正規化された請求済ステータスであったリクエストの合計時間に基づきます。
<b>モデル・インスペクタの「プロセス効率」タブ - 「ステージ別詳細」セクション</b> このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有です	
平均ステージ・サイクル時間	指定されたステージであった要求の平均時間
サイクル時間	指定されたステージでのすべての要求の完了にかかった時間の平均
遅延	このステージで遅延した要求の数。遅延要求は、請求期間が経過した要求として定義されています。
コミット済リソース	指定したステージのすべての要求の人時数
参加者	指定したステージのすべての要求での一意の参加者の平均数
<b>モデル・インスペクタの「スループット」タブ</b> このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有です	
送信済	モデルの送信済要求数。送信済要求には、コミット済要求と却下済要求の両方が含まれます。このカウントには、時間枠フィルタが送信日付に対して適用されます。

表 A-4 (続き) モデル分析ダッシュボードのメトリック

メトリック	説明
コミット済	モデルのコミット済要求数。このカウントには、時間枠フィルタがコミット日付に対して適用されます。
却下済	モデルの却下済要求数。このカウントには、時間枠フィルタが却下日付に対して適用されます。
<b>モデル・インスペクタの「参加者のパフォーマンス」タブ - 「送信者」ビュー</b>	
このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有であり、すべての参加者に対する累積です。	
要求送信済	モデル参加者別の送信済要求数
コミット済%	コミットされた送信済要求の割合
却下済	却下された要求の数
コミット済	コミットされた要求の数
要求アイテム	送信されたすべての要求の要求アイテムの累積数
<b>モデル・インスペクタの「参加者のパフォーマンス」タブ - 「コミット者」ビュー</b>	
このセクションのメトリックは、リスト・ビューで選択されたモデルに固有であり、個別の参加者に固有です。	
要求完了	ユーザー別の完了要求数
コミット済%	コミットされた完了要求の割合
却下済	却下された要求の数
コミット済	コミットされた要求の数
要求アイテム	ユーザーによって完了されたすべての要求の要求アイテムの累積数
<b>モデルのパフォーマンス: すべてのモデル - サービス・レベル合意プロット</b>	
このセクションのメトリックは、選択されたすべてのモデルが対象です。	
予定どおり	予定どおりの要求を示す SLA プロット上の行。X 軸は、要求期間に関連するすべての要求の平均時間をプロットします。各要求モデルの要求期間は参照行の作成に使用され、各モデルのサイクル時間はその参照でプロットされます。一般的に、参照行の右側のドットは、モデルが想定どおりに実行されていないことを示します。
<b>要求のスループット: すべてのモデル</b>	
このセクションのメトリックは、選択されたすべてのモデルが対象です。	
送信済	選択されたモデルすべての送信済要求数。送信済要求には、コミット済要求と却下済要求の両方が含まれます。
コミット済	選択されたモデルすべてのコミット済要求数
却下済	選択されたモデルすべての却下済要求数
<b>参加者のパフォーマンス: すべてのモデル - 「送信者」ビュー</b>	
このセクションのメトリックは、選択されたすべてのモデルが対象であり、すべての参加者の累積です。	
<b>ノート:</b> 参加者のパフォーマンスは、送信ユーザーまたはコミット・ユーザーのコンテキストに基づいて表されます。	

**表 A-4 (続き) モデル分析ダッシュボードのメトリック**

メトリック	説明
要求送信済	モデル参加者別の送信済要求数
コミット済%	コミットされた送信済要求の割合
却下済	却下された要求の数
コミット済	コミットされた要求の数
要求アイテム	送信されたすべての要求の要求アイテムの累積数
<b>参加者のパフォーマンス: すべてのモデル - 「コミット者」ビュー</b>	
このセクションのメトリックは、選択されたすべてのモデルが対象であり、個別の参加者に固有です。	
要求完了	ユーザー別の完了要求数
コミット済%	コミットされた完了要求の割合
却下済	却下された要求の数
コミット済	コミットされた要求の数
要求アイテム	ユーザーによって完了されたすべての要求の要求アイテムの累積数